



東 大 阪 市
誰もが暮らしやすい社会づくりに向けたアンケート
報 告 書

令和7年(2025年)3月

東 大 阪 市



はじめに

本市では、全ての人が性別等にかかわらず、一人一人の能力と個性が活かされ、自らの意思で職場、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野に参画し、責任を分かち合い、生き生きと暮らすことができる男女共同参画社会の実現をめざして、令和3年（2021年）に「第4次東大阪市男女共同参画推進計画」を策定しました。

この計画は本市の男女共同参画施策の指針を示すものであり、令和3年度（2021年度）を初年度として、計画の期間を10年間、目標年度を令和12年度（2030年度）としています。計画の実行性を保ち、社会情勢に対応した適切な施策を推進していくため、このたび計画の見直しを行うこととし、その基礎資料とするため、市民意識調査を実施いたしました。

今回の調査から見えてきた本市の特性や市民ニーズ、新たな課題を考慮し、市民の皆様の声を十分に反映したより効果的な計画となるよう努めてまいります。

結びに、本調査にご協力していただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも男女共同参画社会の実現に向け、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年（2025年）3月

東大阪市長 野 田 義 和

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書の見方	1
II 回答者の属性	3
(1) 性別（自認する性）（問24）	3
(2) 年齢（問25）	3
(3) 同居家族（問26）	4
(4) 本人の令和5年中の年収（税込み）（問27）	5
(5) 世帯の令和5年中の収入（税込み）（問28）	6
III 調査結果の要約	8
IV 調査結果	13
1. 仕事について	13
(1) 本人と配偶者の就労形態	13
(2) 本人と配偶者の平均労働時間	15
(3) 本人と配偶者の勤務地	17
(4) 仕事をしていない理由	19
(5) 就労意向	21
(6) 今後、仕事につく上での不安	22
2. ワーク・ライフ・バランスについて	24
(1) 家事・育児・介護に費やす時間	24
(2) 生活の中での優先事項	26
(3) 仕事と生活の調和を図るために必要なこと	29
(4) 男性が家事などに参加するために特に必要なこと	32
(5) 女性の望ましい働き方と実際の働き方	35
3. 暮らしの悩みなどについて	39
(1) 生活の中でのストレス	39
(2) ストレスによる困難度	41
(3) ストレスについての相談相手	43
(4) 同居者とコミュニケーションをとる頻度	45
(5) 同居していない家族や友人とコミュニケーションをとる頻度	46
(6) 要介護状態になった場合に介護をしてもらいたい相手	50

4. 子どもの育て方や教育について.....	52
(1) 子どもに身につけてほしいこと.....	52
(2) 男女共同参画社会を進めるために、保育・教育事業で重要な取り組み.....	59
5. 防災・災害復興対策について.....	62
(1) 防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した防災に必要な取り組み.....	62
(2) 避難所運営への関心.....	65
6. 性のあり方について.....	66
(1) 性的マイノリティの人々に対する偏見や差別の有無.....	66
(2) 性的マイノリティの人々にとって生活しやすい社会を実現するために必要な対策.....	67
7. 配偶者や恋人間の暴力について.....	69
(1) 配偶者や恋人間の暴力の状況.....	69
(2) 配偶者や恋人間から暴力を受けたときの相談状況.....	72
(3) 配偶者や恋人間から暴力を受けたときに相談しなかった理由.....	73
(4) 配偶者や恋人から暴力の被害にあった際の相談機関や窓口の認知度.....	74
8. 男女共同参画社会の形成に関する意識について.....	76
(1) 家庭での役割や子どもの育て方などへの考え方.....	76
(2) 社会における男女平等意識.....	80
(3) 男女共同参画社会を推進するために参加したい活動.....	85
(4) 男女共同参画に関する言葉や市の取り組みの認知度.....	88
9. 自由意見.....	93
V まとめと検討課題.....	97
【基本方針Ⅰ あらゆる分野における女性の活躍】.....	97
【基本方針Ⅱ 健やかに安心して暮らせる社会づくり】.....	98
【基本方針Ⅲ 男女共同参画に向けた意識形成】.....	99
VI 資料編.....	101

I 調査の概要

1. 調査の目的

本市の男女共同参画施策の指針を示す「第4次東大阪市男女共同参画推進計画」は、令和3年度（2021年度）を初年度として計画の期間を10年、目標年度を令和12年度（2030年度）と設定しており、社会情勢に対応した適切な施策を推進していくために施行から5年以内に計画の見直し（＝改定）を行うものとしています。本「東大阪市誰もが暮らしやすい社会づくりに向けたアンケート」は、計画改定にかかる基礎資料を得ることを目的として実施しました。

2. 調査概要

調査対象：18歳以上79歳以下の市内在住者3,000人を住民基本台帳より無作為抽出

調査期間：令和6年（2024年）8月9日～9月12日

調査方法：郵送による配布、郵送またはWEBによる回収

調査内容：

仕事について（6問）

ワーク・ライフ・バランスについて（5問）

暮らしの悩みなどについて（6問）

子どもの育て方や教育について（2問）

防災・災害復興対策について（2問）

性のあり方について（2問）

配偶者や恋人間の暴力について（4問）

男女共同参画社会の形成に関する意識について（4問）

あなたや家族のことについて（5問）

回収結果：

配布数	不着数	有効配布数	有効回収数		有効回収率
3,000	13	2,987	682	うち 紙 490 WEB 192	22.8%

3. 報告書の見方

- ・図表中の「n」（number of case）は、質問に対する回答者の総数を示しており、これはそれぞれの回答結果の割合の分母（100%にあたる数）です。
 - ・回答結果の割合（%）は回答者の総数に対して、それぞれの選択肢の回答者数の割合を小数点以下第2位で四捨五入して算出しています。そのため、単数回答形式の質問の場合、合計値が100.0%にならない場合があります。
 - ・回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問の場合も、回答結果の割合（%）は回答者の総数（n）に対して、それぞれの選択肢の回答者数の割合を示しています。そのため、割合の合計が100.0%を超えることがあります。
- 図表上では、「MA%」（MA：Multiple Answer の略）と表記しています。

- ・スペースの都合などで、選択肢の文言は、図表中では簡略化している場合があります。
- ・「前回調査」とある場合は、平成30年度（2018年度）に実施された「東大阪市男女共同参画に関する市民意識調査」の結果です。
「大阪府調査」とある場合は、令和6年度（2024年度）に実施された「男女共同参画にかかる府民意識調査」の結果です。
「内閣府調査」とある場合は、令和4年度（2022年度）に実施された「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果です。
- ・回収結果を年齢別でみると、60歳以上の高齢者が4割以上を占めています。令和2年度の国勢調査の人口比率と比較すると、60歳以上の割合（44.4%）は国勢調査（32.5%）より1割以上高く、一方で、39歳以下の居住者が30.0%であるのに対し、回答者の比率は17.7%と低く、若年者の回答比率が低いことに注意が必要です。

サンプリング誤差について

集計で得られた回答の割合p(%)には、pと、そのサンプル数（下表のn）によって、異なった誤差が発生します。このサンプリング誤差は次表のとおりです。（信頼度95%）

nが大きいほど誤差は小さく、nが小さいほど誤差は大きくなります。nが小さい場合は集計結果の数字に注意を払う必要があります。

●サンプリング誤差

サンプリング誤差の単位は%

		p(%)→	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
		n(サンプル数)↓	95	90	85	80	75	70	65	60	55	50
総数(全体)		682	1.7	2.3	2.7	3.1	3.3	3.5	3.7	3.8	3.8	3.8
性別	女性	377	2.2	3.1	3.7	4.1	4.5	4.7	4.9	5.0	5.1	5.2
	男性	287	2.6	3.5	4.2	4.7	5.1	5.4	5.6	5.8	5.9	5.9
年齢別	女性 30歳未満	31	7.8	10.8	12.8	14.4	15.6	16.5	17.1	17.6	17.9	18.0
	30歳代	37	7.2	9.9	11.7	13.2	14.2	15.1	15.7	16.1	16.4	16.4
	40歳代	61	5.6	7.7	9.1	10.2	11.1	11.7	12.2	12.5	12.7	12.8
	50歳代	75	5.0	6.9	8.2	9.2	10.0	10.6	11.0	11.3	11.5	11.5
	60歳代	74	5.1	7.0	8.3	9.3	10.1	10.7	11.1	11.4	11.6	11.6
	70歳以上	98	4.4	6.1	7.2	8.1	8.7	9.3	9.6	9.9	10.1	10.1
	男性 30歳未満	20	9.7	13.4	16.0	17.9	19.4	20.5	21.3	21.9	22.2	22.4
	30歳代	29	8.1	11.1	13.3	14.9	16.1	17.0	17.7	18.2	18.5	18.6
	40歳代	42	6.7	9.3	11.0	12.3	13.4	14.1	14.7	15.1	15.4	15.4
	50歳代	68	5.3	7.3	8.7	9.7	10.5	11.1	11.6	11.9	12.1	12.1
60歳代	55	5.9	8.1	9.6	10.8	11.7	12.4	12.9	13.2	13.4	13.5	
70歳以上	72	5.1	7.1	8.4	9.4	10.2	10.8	11.2	11.5	11.7	11.8	

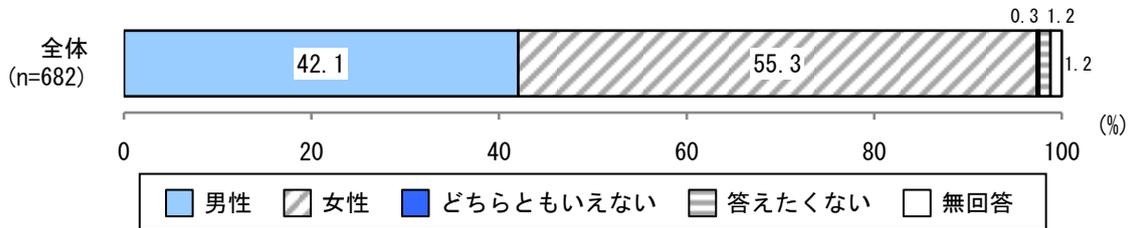
(表の見方)

- ・「女性40歳代(n=61)」の回答(p)が20%（または80%）であった場合、その誤差はプラスマイナス10.2%（約10%）となっています。この場合、pの20%という回答の値は10%（(20-10)%）と30%（20+10%）の間を代表している数値であるということを意味しています。

II 回答者の属性

(1) 性別（自認する性）（問24）

- ・回答者の性別は、「女性」が55.3%で、「男性」が42.1%、「答えたくない」が1.2%、「どちらともいえない」が0.3%となっています。

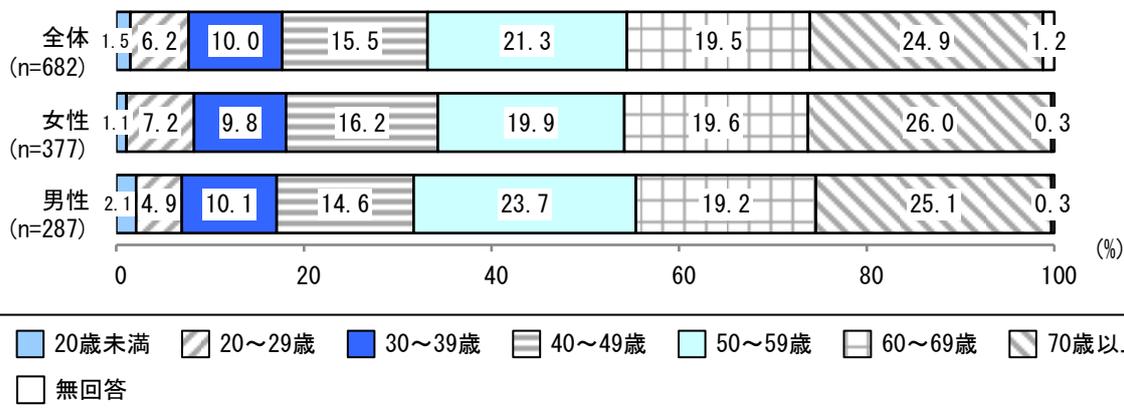


※ 以下の集計・分析においては、「どちらともいえない」、「答えたくない」については、その総数が小さい（計10人）ため、クロス集計などにおいては「女性」「男性」のみを対象とします。

(2) 年齢（問25）

- ・回答者の年齢は、「70歳以上」が24.9%で最も多く、次いで「50～59歳」が21.3%、「60～69歳」が19.5%となっています。
- ・性別で見ると、男女とも「70歳以上」が最も多く、大きな差はみられません。

【性別】



※ 調査票では「20歳未満」「20～29歳」として尋ねましたが、特に「20歳未満」は回答数が少なく（10人）、サンプリング誤差が大きくなるため、以下の集計・分析においては、これらを合わせて「30歳未満」として分析します。

- ・年齢別の回収結果と、令和2年度の国勢調査の人口比率と比較すると、60歳以上の割合が44.4%と国勢調査の32.5%より1割以上高く、一方で、39歳以下の居住者が30.0%であるのに対し、回答者の比率は17.7%と低く、若年者の回答比率が低いことに注意が必要です。

【国勢調査との比較】

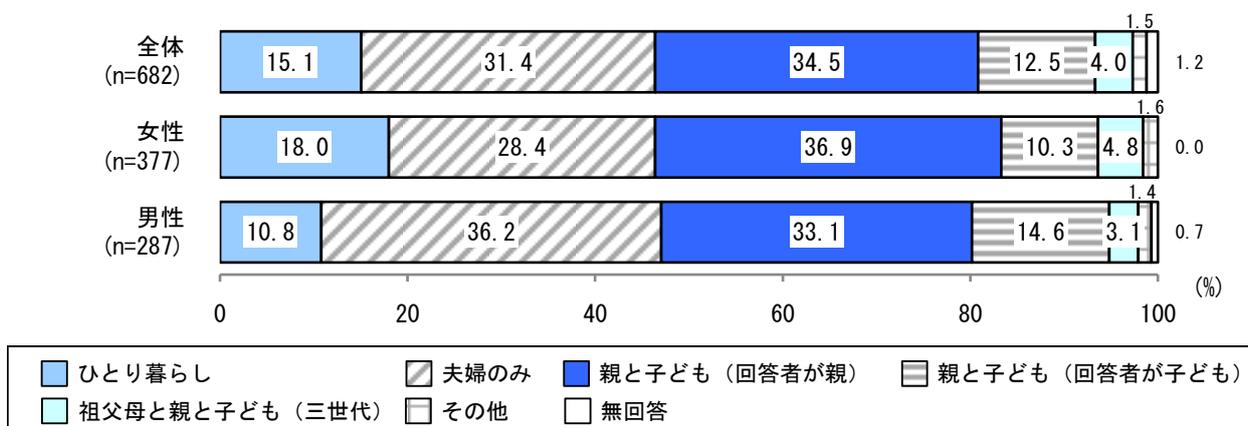
		全体	20歳未満 (18・19歳)	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上 (70～79歳)	無回答
今回調査	人	682	10	42	68	106	145	133	170	8
	%	100.0	1.5	6.2	10.0	15.5	21.3	19.5	24.9	1.2
国勢調査 (令和2年)	人	365,096	10,353	51,295	48,252	69,223	67,172	52,239	66,562	-
	%	100.0	2.8	14.0	13.2	19.0	18.4	14.3	18.2	-

資料：国勢調査（令和2年）

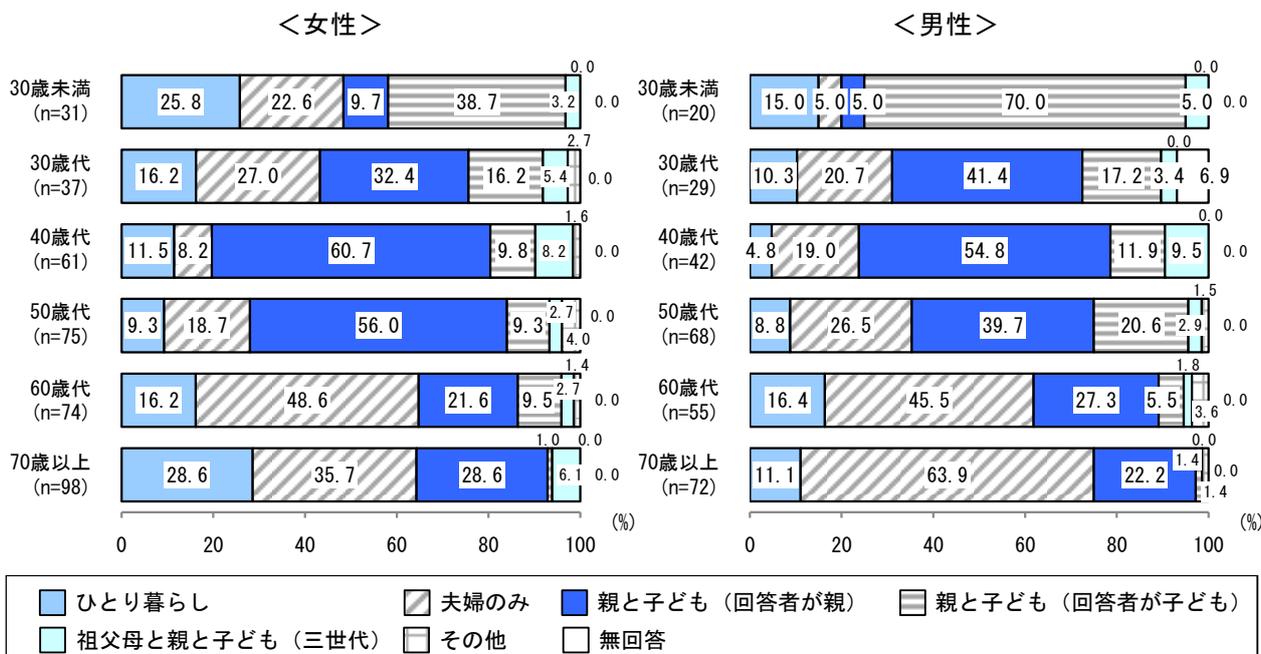
(3) 同居家族 (問26)

- ・世帯構成は、全体では「親と子ども (回答者が親)」が34.5%で最も多く、次いで「夫婦のみ」が31.4%、「ひとり暮らし」が15.1%となっています。
- ・性別で見ると、「夫婦のみ」と「親と子ども (回答者が子ども)」の割合は、女性より男性の方が高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、「夫婦のみ」の割合は、女性は60歳代、男性は70歳以上で最も高くなっています。また、女性は「ひとり暮らし」の割合が70歳以上で28.6%と最も高くなっています。

<世帯構成>



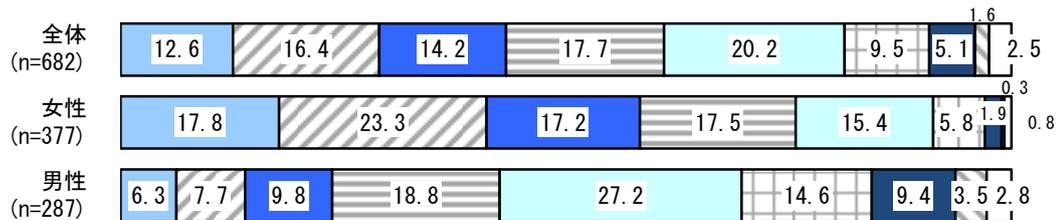
【性別・年齢別】



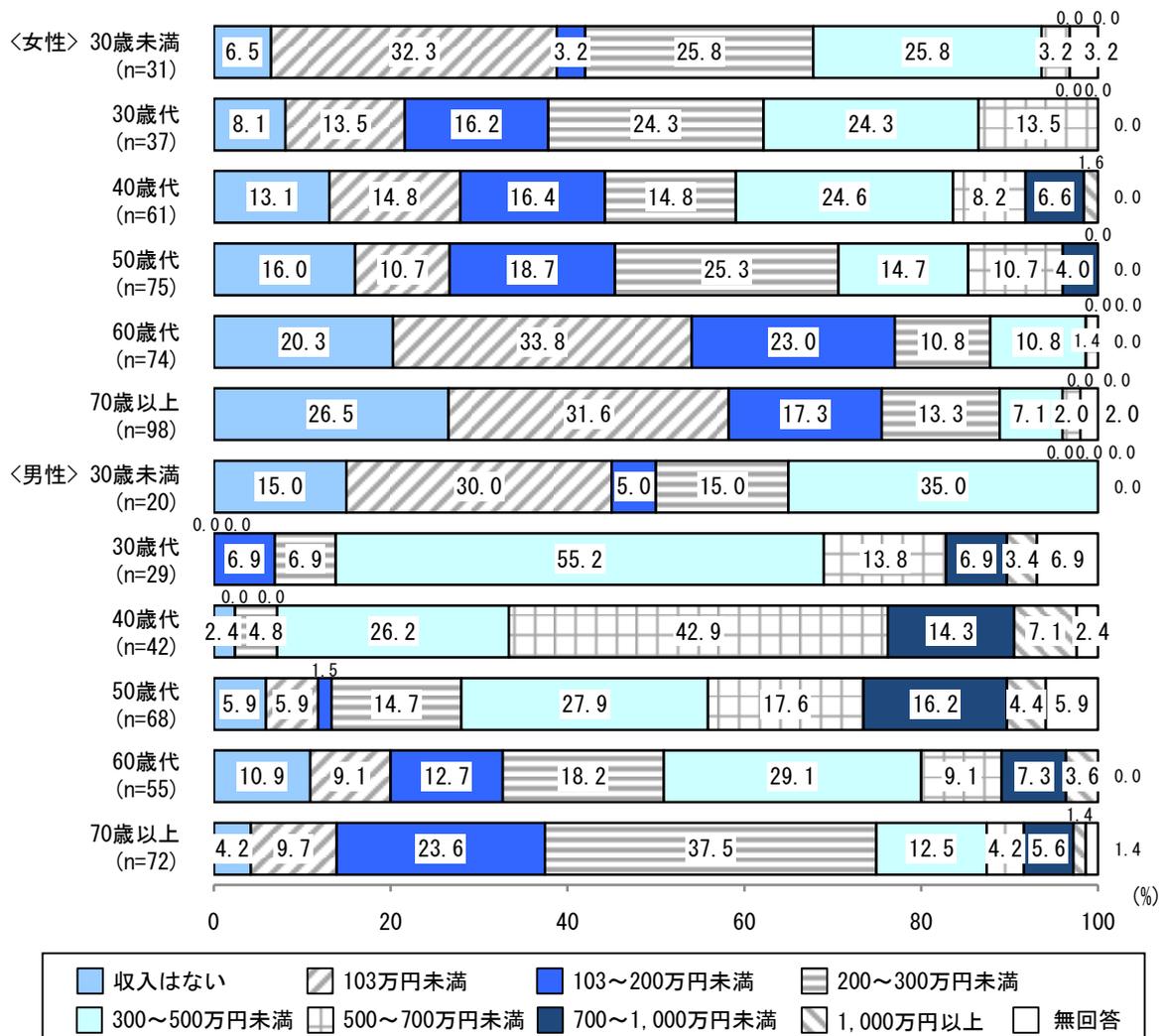
(4) 本人の令和5年中の年収（税込み）（問27）

- ・全体では、「300～500万円未満」が20.2%で最も多く、次いで「200～300万円未満」が17.7%、「103万円未満」が16.4%、「103～200万円未満」が14.2%となっています。
- ・性別で見ると、女性では「103万円未満」が23.3%で最も多く、次いで「収入はない」が17.8%となっていますが、男性では「300～500万円未満」が27.2%で最も多く、次いで「200～300万円未満」が18.8%となっています。200万円以上は、いずれも男性の方が高い割合となっています。

【性別】



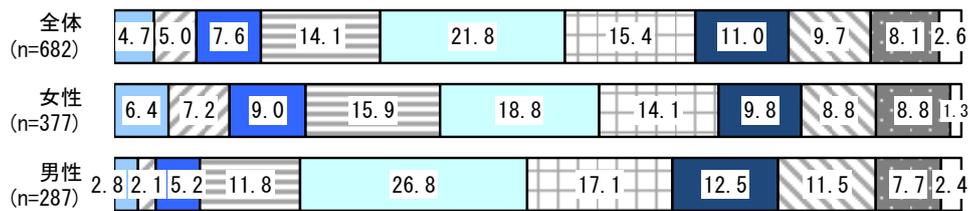
【性別・年齢別】



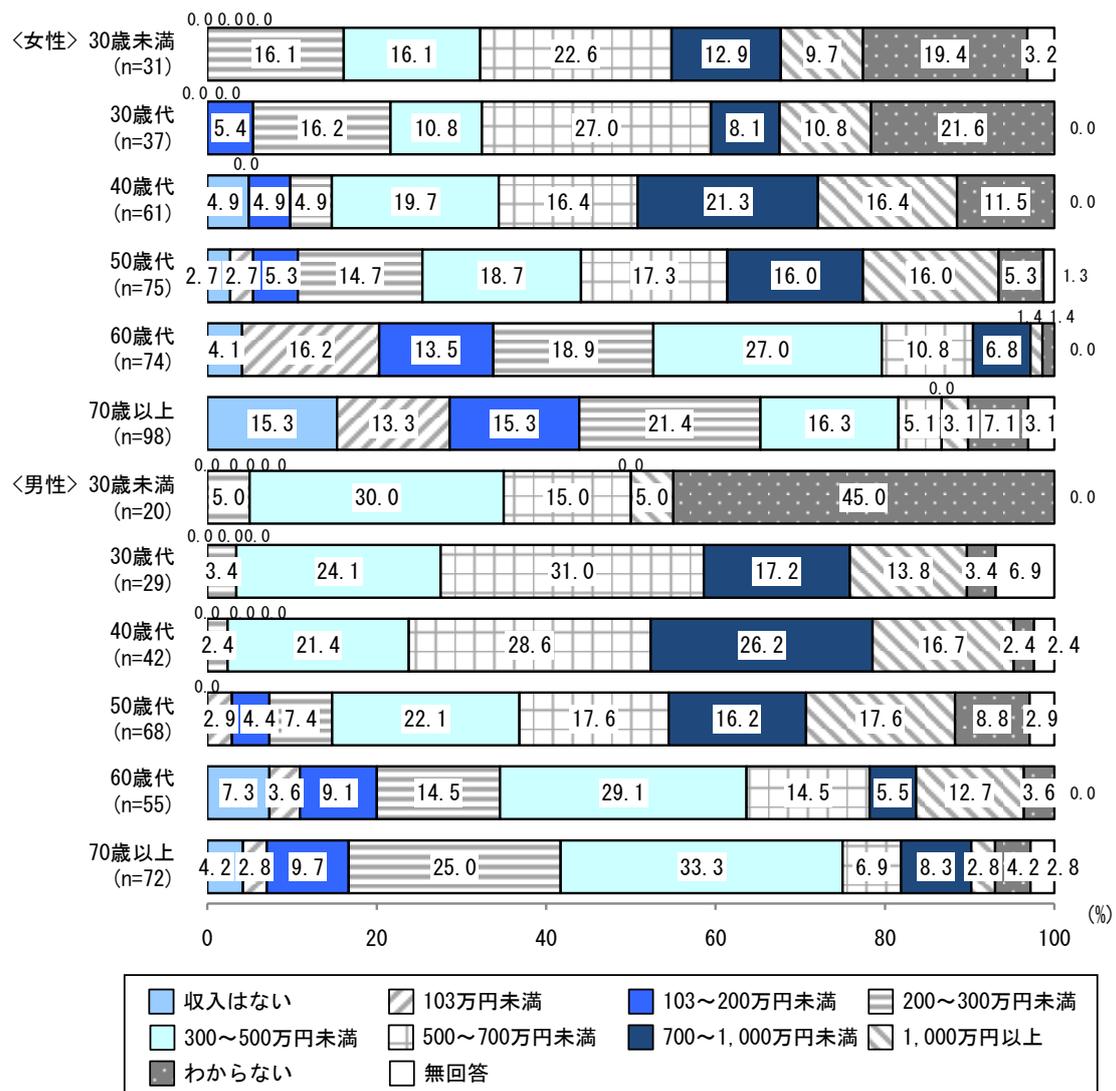
(5) 世帯の令和5年中の収入（税込み）（問28）

- ・全体では、「300～500万円未満」が21.8%で最も多く、次いで「500～700万円未満」が15.4%、「200～300万円未満」が14.1%となっています。
- ・性別で見ると、男女とも「300～500万円未満」が最も多いです。300万円未満の割合は男性より女性の方が多くなっています。
- ・性別・年齢別、同居者の有無別で見ると、ひとり暮らしの女性60歳以上では「収入はない」が15.0%、「103万円未満」が30.0%で、合わせて45.0%が103万円未満となっています。同居者がいる世帯でも、女性の60歳以上では18.9%が103万円未満となっています。

【性別】

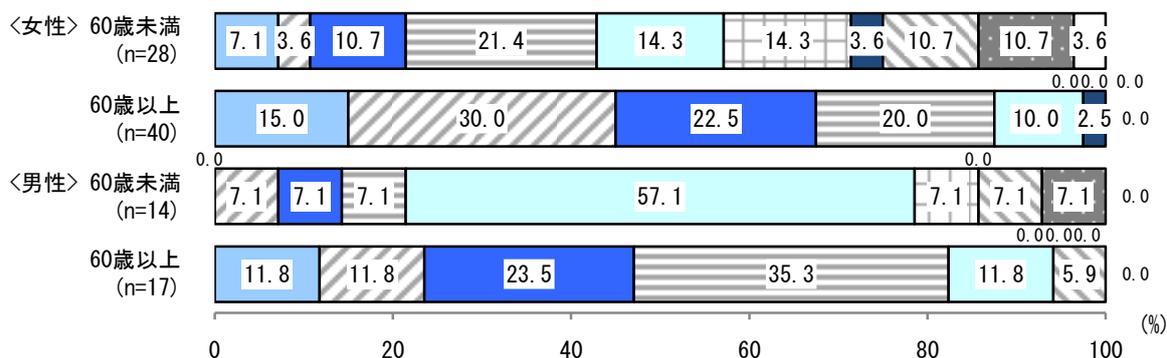


【性別・年齢別】

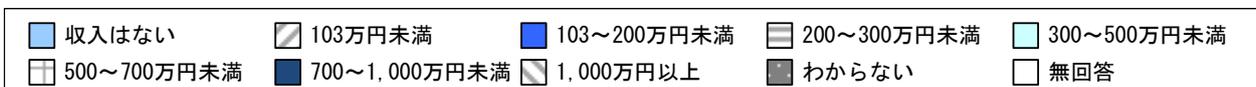
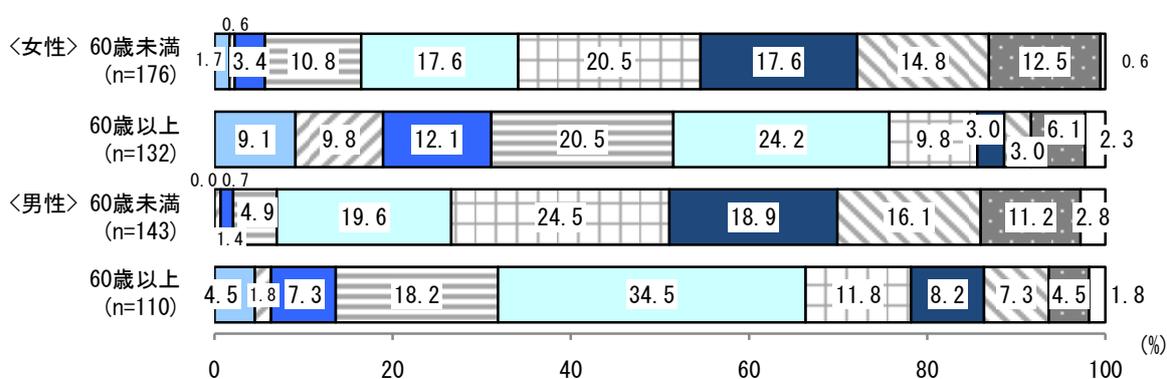


【性別・年齢別・同居者の有無別】

<ひとり暮らし（同居者がいない世帯）>



<同居者がいる世帯>



Ⅲ 調査結果の要約

仕事について（6問）	
本人と配偶者の就労形態（問1）	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の就労形態は、仕事を持っている人では、女性は「非正規社員・職員（パート・アルバイト）」、男性は「正規社員・職員」が最も多い。 ・50歳代以下の女性では、「正規社員・職員」が最も多い。 ・前回に比べて、男女とも「正規社員・職員」の割合が上昇（全体28.7%⇒34.5%）。
本人と配偶者の平均労働時間（問1-1）	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の平均労働時間は、女性に比べて男性が長い。
本人と配偶者の勤務地（問1-2）	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の勤務地は、東大阪市内が55.3%で、男性より女性のほうが高い。 ・本人の勤務地を性別で見ると、女性では「東大阪市内（在宅以外）」が、男性では「大阪府内（東大阪市内）」が最も多い。
仕事をしていない理由（問1-3）	<ul style="list-style-type: none"> ・女性では「家事や子育てをしている」が男性に比べて高い。 ・「健康上の問題がある」は主に40歳代以上、「働く必要がない」は50歳代以上が回答しており、高齢者の回答率が高い。
就労意向（問1-4）	<ul style="list-style-type: none"> ・50歳代までは「ぜひ、仕事につきたい」、「できれば、仕事につきたい」が「仕事につきたいと思わない」を上回る。
今後、仕事につく上での不安（問1-5）	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の健康状態や体力」が最も多く、次いで「年齢制限」で、特に女性の割合が高い。また、女性では「家事、子育て、介護との両立ができるか」が男性の約2倍。
ワーク・ライフ・バランスについて（5問）	
家事・育児・介護に費やす時間（問2）	<ul style="list-style-type: none"> ・性別で見ると、いずれも男性に比べて女性が長い。育児では、女性は年齢が上がるほど長くなるのに対し、男性では短くなる傾向がみられる。 ・前回調査と比べて、家事を行う男性の割合が増えた。 ・女性は労働時間が長くなるほど短くなるが、男性は育児時間に関わらず変わらない傾向がみられる。
生活の中での優先事項（問3）	<ul style="list-style-type: none"> ・希望では「家庭生活」>「個人の生活」>「仕事」の順。 ・現実では「仕事」>「家庭生活」>「個人の生活」の順。 ・特に、男性30歳代～50歳代において仕事のウェイトが高い。
仕事と生活の調和を図るために必要なこと（問4）	<ul style="list-style-type: none"> ・「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」が最も多く、次いで「労働条件の整備（在宅勤務、労働時間短縮、時差出勤の普及等）」、「介護など在宅福祉・施設福祉の整備・充実」などが上位。 ・性別で見ると、「育児・介護休業制度、短時間勤務制度の普及や取得の促進」、「保育施設、学童保育など子育て環境の整備・充実」などで女性が男性を大きく上回る。

<p>男性が家事などに参加するために特に必要なこと（問5）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」が最も多く、次いで「夫婦の間で、家事・育児・介護などの役割分担について話し合う」、「男性が家事・育児・介護などへ参加しやすい環境をつくる」などが上位。 ・性別で見ると、「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」の順で女性が男性を大きく上回る。 ・世代別では、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が40歳代以下の女性の60%以上、30歳代男性の72.4%が回答した。「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」は40歳代以上の女性の60%以上が回答した。また30歳代女性は男性の家事の啓発、情報提供や男性間のネットワークづくりを重視している。 ・前回調査でも「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」が最も多く、男女間のギャップも最も大きい。
<p>女性の望ましい働き方と実際の働き方（問6）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい働き方は、「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」が最も多い。 ・女性では「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」が高く、同じ職場で働き続けることを希望する人が5割を超える。男性の方が女性に育児期間中は家事・育児に専念することが望ましいとする割合が高い。 ・実際の働き方は、「就労し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら就労する」が最も多く、次いで「結婚や出産をするしなないに関わらず、働き続ける」の順で高い。 ・「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」は多くの年代が望ましいと思っているのに対してあまり叶えられていない。 ・前回調査では望ましいと思う働き方として「出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」が最も多かったが今回は10ポイント減少した。
<p>暮らしの悩みなどについて（6問）</p>	
<p>生活の中でのストレス（問7）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・30歳未満女性では「経済的なこと」（74.2%）と「将来のこと」（67.7%）が他の世代に比べて回答が多かった。 ・30歳代男性では「経済的なこと」（72.4%）、「仕事のこと」（58.6%）、「将来のこと」（41.4%）の順で高い。
<p>ストレスによる困難度（問7-1）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「とても感じる」は男性より女性の方が5.8%高い。 ・男性は「とても感じる」「やや感じる」を合わせると30歳代が最も高い。 ・女性は40歳代以下、男性は30歳代以上で「経済的なこと」で困難を感じる人が7割を超える。
<p>ストレスについての相談相手（問7-2）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰にも相談しない」「相談する人はいない」は、女性に比べて男性の割合が高い。特に30歳代男性で「相談する人はいない」と11.5%

	<p>回答。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスをととても感じる人で「相談する人はいない」「どこに相談してよいかわからない」は10%。 ・「どこに相談してよいかわからない」は女性では30歳代以下、男性では40歳代、50歳代が多い。 ・公的機関・民間の相談機関より医療機関に相談する人が多い。
同居者とコミュニケーションをとる頻度（問8）	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほぼ毎日」が最も多く、次いで「同居している人はいない」、「週2～3回程度」の順で高い。
同居していない家族や友人とコミュニケーションをとる頻度（問9）	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション頻度が「全くない」と回答した人の割合は、“顔を合わせての会話”で4.3%、“電話”で13.9%、“SNS・メール”で8.2%。 ・性別で見ると、コミュニケーション頻度が「全くない」と回答した人の割合は、対面、電話、SNS・メールいずれも男性の方が女性より高い。 ・対面、電話、SNS・メールいずれも、50歳代男性はコミュニケーション頻度が「全くない」と回答した人の割合が高い。
要介護状態になった場合に介護をしてもらいたい相手（問10）	<ul style="list-style-type: none"> ・女性では「ヘルパー等の介護従事者」と「施設での介護」が最も多く、男性では「配偶者」が最も多い。 ・前回調査と比べて「施設での介護」が6.9ポイント低い。 ・男性30歳未満は「施設での介護」が1位。
子どもの育て方や教育について（2問）	
子どもに身につけてほしいこと（問11）	<ul style="list-style-type: none"> ・「必ず身につけるべき」の割合は、男の子では“自立できる経済力”が最も高く、女の子では“家事・育児の能力”が最も高い。 ・リーダーシップへの意識は、女の子に対して、男性が否定的な意見が多い。 ・70歳以上では“自立できる経済力”について、女の子に対して肯定的な意見が少ない。“困った時に助けを求める力”は年齢が上がるにつれ否定的であり、男性の方が否定的な傾向がみられる。 ・前回調査より女の子では“自立できる経済力”が22.6ポイント、男の子では“家事・育児の能力”が16.3ポイント増加した。
男女共同参画社会を進めるために、保育・教育事業で重要な取り組み（問12）	<ul style="list-style-type: none"> ・「性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」が最も多く、次いで「性別にかかわらず全ての人の平等の意識を育てる授業をする」、「性別にかかわらず全ての人が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」でいずれも5割を超える。 ・「性別にかかわらず全ての人が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」で女性が男性を大きく上回る。
防災・災害復興対策について（2問）	
防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した防災に必	<ul style="list-style-type: none"> ・「避難所の運営や備蓄物資の配備について、性別にかかわらず多様な人の意見を取り入れる」が最も多く、次いで「性別や立場によって異なる災害時の備えについて理解を深める」、「日頃から性別に

要な取り組み（問13）	かかわらず全ての人とのコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」でいずれも5割を超える。
避難所運営への関心（問14）	<ul style="list-style-type: none"> ・「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が最も多く、女性に比べて男性の割合が高い。 ・年代別では男女とも30歳未満が「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」に最も多く回答している。
性のあり方について（2問）	
性的マイノリティの人々に対する偏見や差別の有無（問15）	<ul style="list-style-type: none"> ・偏見や差別は『あると思う』割合が84.0%。 ・『あると思う』割合は男女とも30歳代で高い。
性的マイノリティの人々にとって生活しやすい社会を実現するために必要な対策（問16）	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活環境での配慮（性別に関係なく選べる制服、多目的トイレの設置など）」が最も多く、次いで「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」、「誰もが平等に受けられる医療・公共サービス・社会保障の整備」などが上位。 ・性別で見ると、「市独自の（婚姻に準ずる）同性パートナーシップ制度等を導入する」「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」で女性が男性を大きく上回る。 ・30歳代以下の女性では、市独自の同性パートナーシップ制度の導入を支持する人が多く、男女ともに70歳以上は導入を支持する人が少ない。
配偶者や恋人間の暴力について（4問）	
配偶者や恋人間の暴力の状況（問17）	<ul style="list-style-type: none"> ・配偶者や恋人にされたことが『あった（ある）』は“精神的暴力”で11.0%。（女性は14.1%、男性は7.6%）
配偶者や恋人間から暴力を受けたときの相談状況（問17-1）	<ul style="list-style-type: none"> ・「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」が29.3%で、男性より女性の割合が高い。
配偶者や恋人間から暴力を受けたときに相談しなかった理由（問17-2）	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談しても無駄だと思った」が最も多く、次いで「自分さえ我慢すればやっていたらよかった」と「相談するほどの事ではないと思った」の順で高い。 ・性別で見ると、男性では「相談しても無駄だと思った」や「自分さえ我慢すればやっていたらよかった」、女性では「相談するほどの事ではないと思った」が高い。 ・前回調査と比べて、「どこに（誰に）相談したらよいかわからなかった」の回答は半減。
暴力の被害にあった際の相談機関や窓口の認知度（問18）	<ul style="list-style-type: none"> ・「警察」が最も多く、次いで「東大阪市配偶者暴力相談支援センター（DV相談室）」、「東大阪市立男女共同参画センター・イコラームみんなの相談室」の順で高い。 ・「いずれも知らない」が約2割を占め、また男性の方が高い。
男女共同参画社会の形成に関する意識について（4問）	
家庭での役割や子どもの育て方への考え方（問19）	<ul style="list-style-type: none"> ・計画推進のための指標である「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、『そう思う』の割合は前回調査より23.8ポイントと大幅に下がる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・性別で見ると女性に比べ男性のほうが、世代別で見ると高齢者層のほうが固定的性別役割分担意識を持っている。
社会における男女平等意識（問 20）	<ul style="list-style-type: none"> ・『平等になっていると思わない』は“職場（賃金や待遇など）では”が最も高く、次いで“社会全体からみて”、“雇用の機会や働く分野では”の順で高い。 ・『平等になっていると思わない』の割合は、いずれも男性に比べて女性の割合が高く、特に家庭、法律や制度、慣習、地域活動で差が見られた。 ・男女ともに30歳未満では『平等になっていると思う』の割合が総じて高い。
男女共同参画社会を推進するために参加したい活動（問 21）	<ul style="list-style-type: none"> ・参加したい人では「子育て支援に関する活動に参加する」と「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」が最も多く、次いで「多様な性や文化、生活習慣などに関する理解を深めるための交流の場に参加する」の順で高い。 ・女性は「子育て支援に関する活動に参加する」、男性は「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」が最も多い。 ・「全ての人の平等についての学習会や交流の場に参加する」は30代未満の男女とも関心が高い。 ・前回調査と比べて、「特にない」の回答が10.6ポイント高い。特に、男女とも40歳代、50歳代で60%以上。
男女共同参画に関する言葉や市の取り組みの認知度（問 22）	<ul style="list-style-type: none"> ・“東大阪市立男女共同参画センター・イコーラム”は男性に比べて女性の認知度が高い。 ・世代別では、“東大阪市立男女共同参画センター・イコーラム”の認知度は年齢が上がるほど高い。

IV 調査結果

1. 仕事について

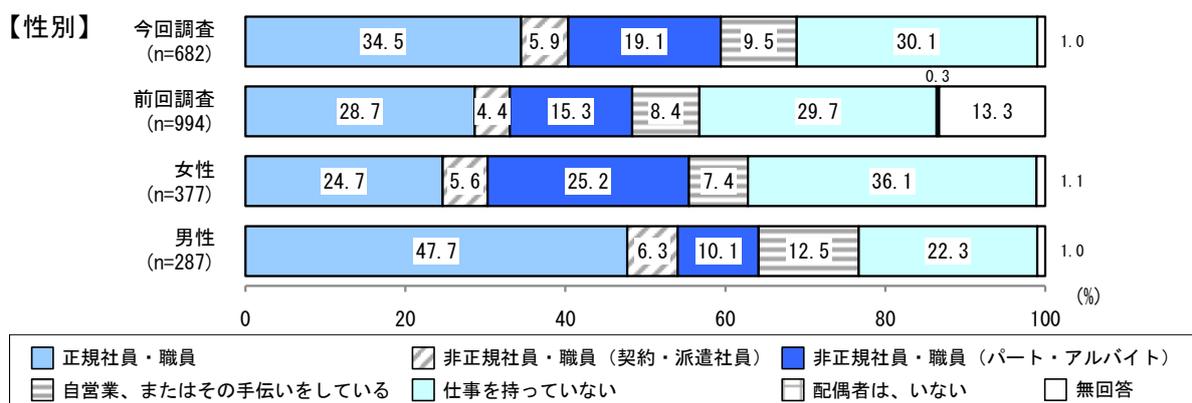
(1) 本人と配偶者の就労形態

問1 あなたと、配偶者の仕事についてお答えください。(それぞれ〇は1つずつ)

※配偶者がいない場合は、あなたご自身の欄のみお答えください。

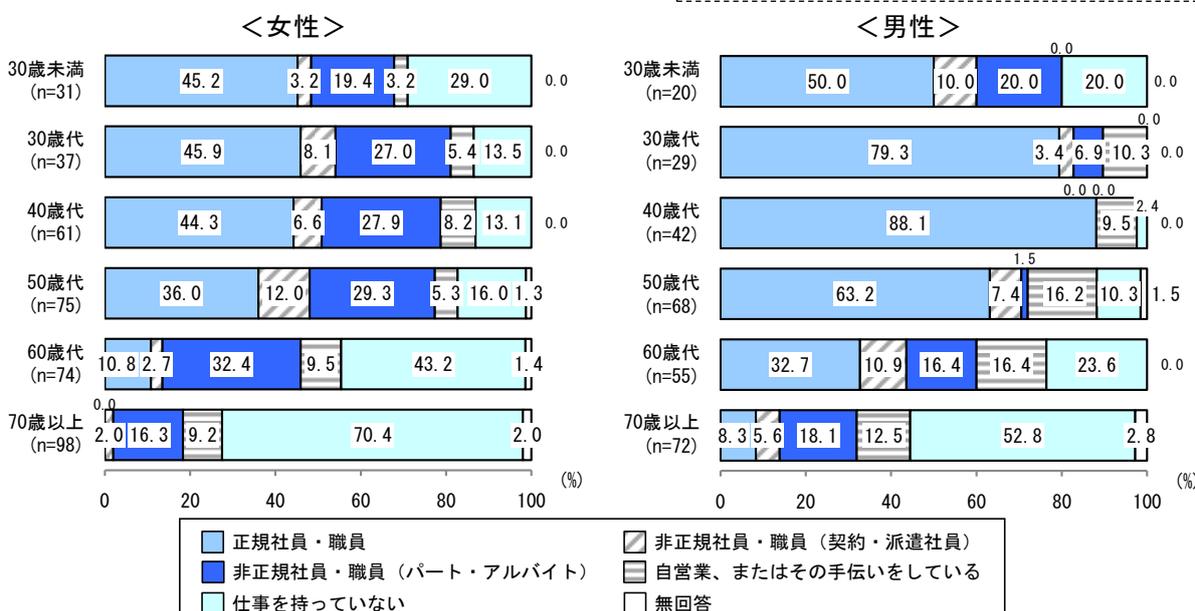
① 本人

- ・全体では、「正規社員・職員」が34.5%で最も多く、次いで「仕事を持っていない」が30.1%、「非正規社員・職員（パート・アルバイト）」が19.1%となっています。
- ・性別で見ると、女性では「仕事を持っていない」が36.1%で最も多く、次いで「非正規社員・職員（パート・アルバイト）」が25.2%となっていますが、男性では「正規社員・職員」が47.7%で最も多く、次いで「仕事を持っていない」が22.3%となっています。
- ・性別・年齢別で見ると、男女とも50歳代までは「正規社員・職員」の割合が最も高く、特に男性は各年代で過半数以上となっています。また、女性では「非正規社員・職員（パート・アルバイト）」の割合が60歳代までの年代で、年齢が上がるにつれ高くなり、60歳代が32.4%で最も高くなっています。
- ・前回と比べると、全体で仕事をしている人の割合が上昇しています。



【性別・年齢別】

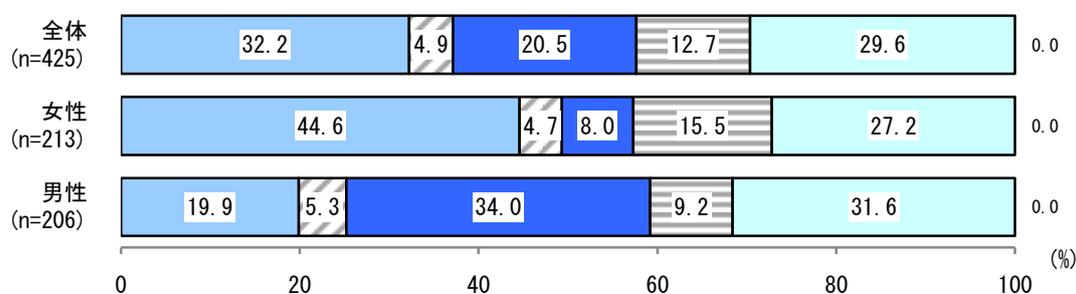
※ 前回調査の「配偶者は、いない」は今回削除



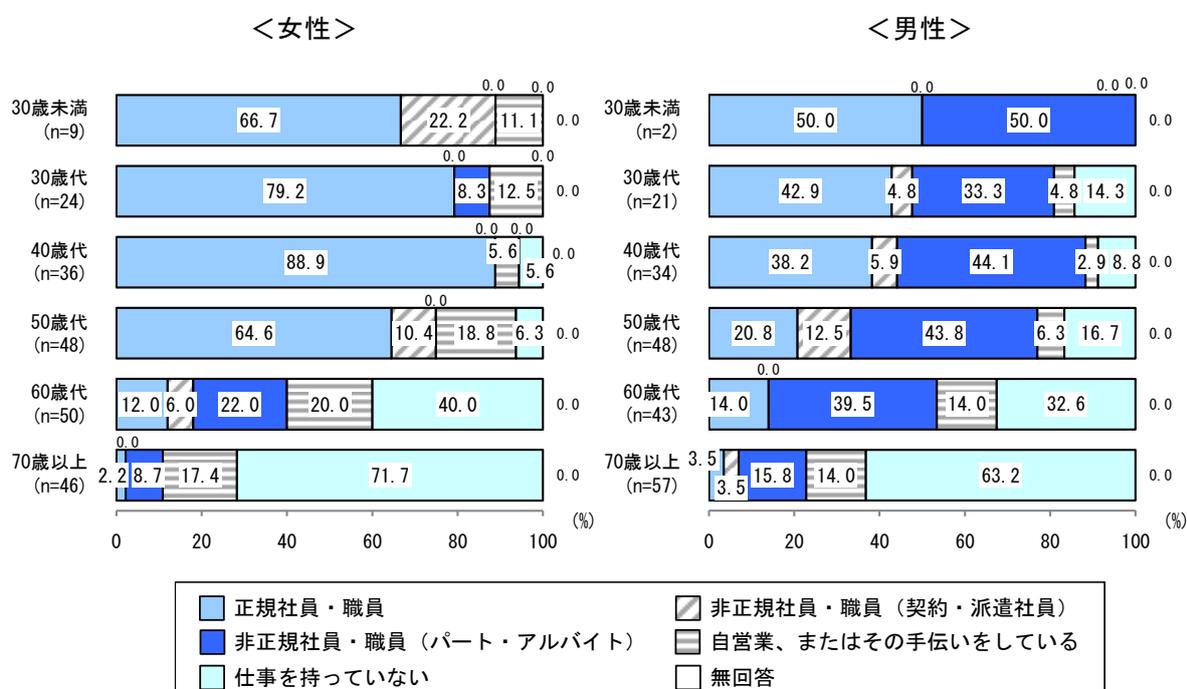
② 配偶者

- ・全体では、「正規社員・職員」が32.2%で最も多く、次いで「仕事を持っていない」が29.6%、「非正規社員・職員（パート・アルバイト）」が20.5%となっています。
- ・性別で見ると、女性の配偶者では「正規社員・職員」が44.6%で最も多く、次いで「仕事を持っていない」が27.2%となっていますが、男性の配偶者では「非正規社員・職員（パート・アルバイト）」が34.0%で最も多く、次いで「仕事を持っていない」が31.6%となっています。
- ・性別・年齢別で見ると、女性の配偶者では50歳代までは「正規社員・職員」の割合が過半数を占めており、40歳代が88.9%で最も高くなっています。
男性の配偶者では「正規社員・職員」の割合が若い年代ほど高く、「非正規社員・職員（パート・アルバイト）」は30歳未満、40歳代、50歳代で4割以上となっています。

【性別】



【性別・年齢別】



(2) 本人と配偶者の平均労働時間

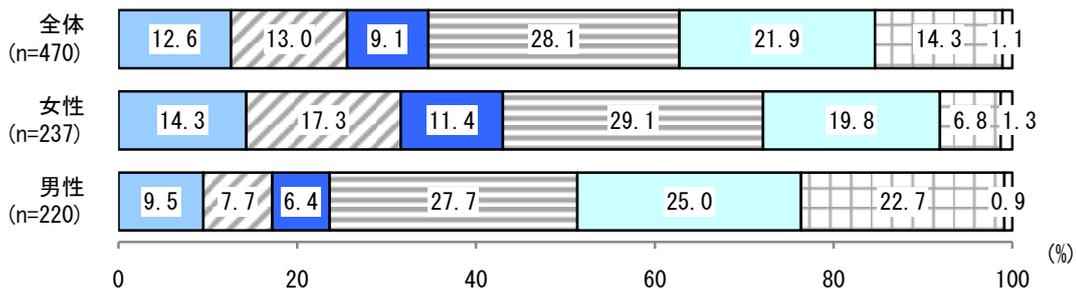
問1-1・1-2については、問1で「1」～「4」のいずれかを回答した方におたずねします。

問1-1 1週あたりの平均労働時間を教えてください。(通勤時間を含む)

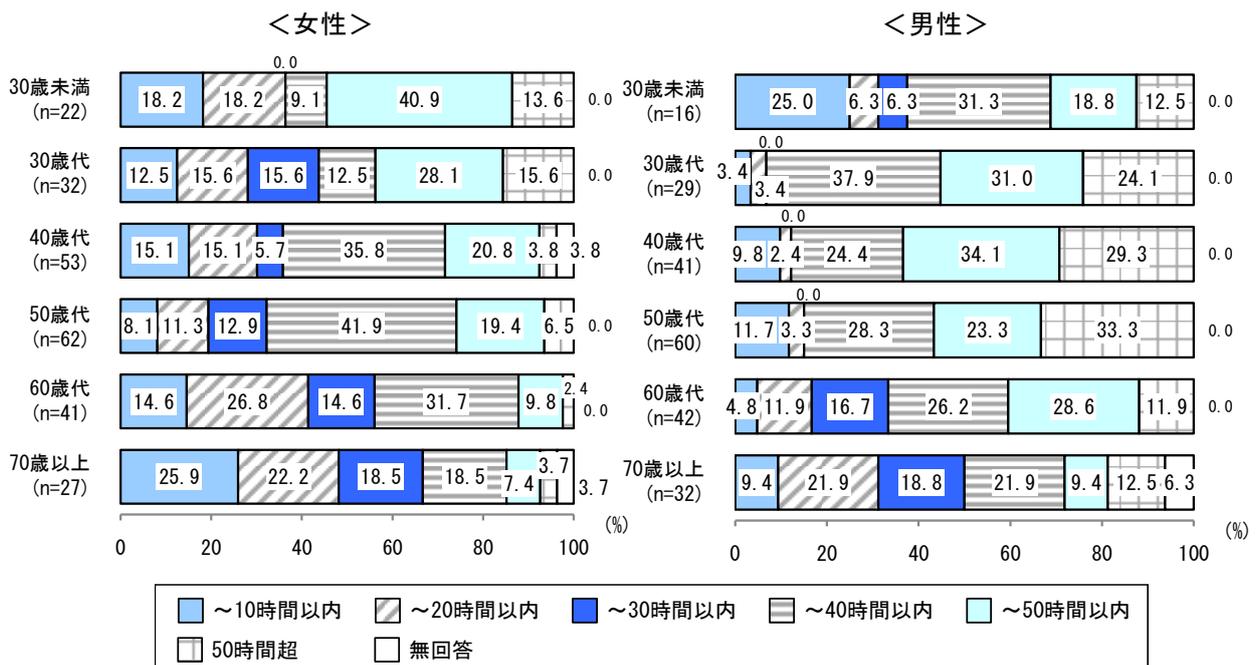
① 本人

- ・全体では、「～40時間以内」が28.1%で最も多く、次いで「～50時間以内」が21.9%、「50時間超」が14.3%、「～20時間以内」が13.0%となっています。
- ・性別で見ると、男女とも「～40時間以内」(女性29.1%、男性27.7%)が最も多くなっています。20時間までの割合は男性(17.2%)より女性(31.6%)の方が14.4ポイント高くなっています。「50時間超」は女性(6.8%)より男性(22.7%)の方が15.9ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、女性では30歳未満、30歳代で「～50時間以内」が最も多く、40歳代～60歳代では「～40時間以内」が最も多くなっています。男性では40歳代、60歳代で「～50時間以内」が最も多く、50歳代では「50時間超」が最も多くなっています。

【性別】



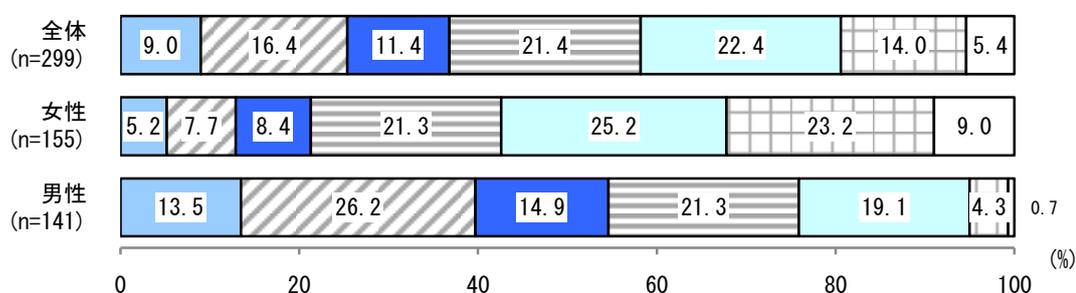
【性別・年齢別】



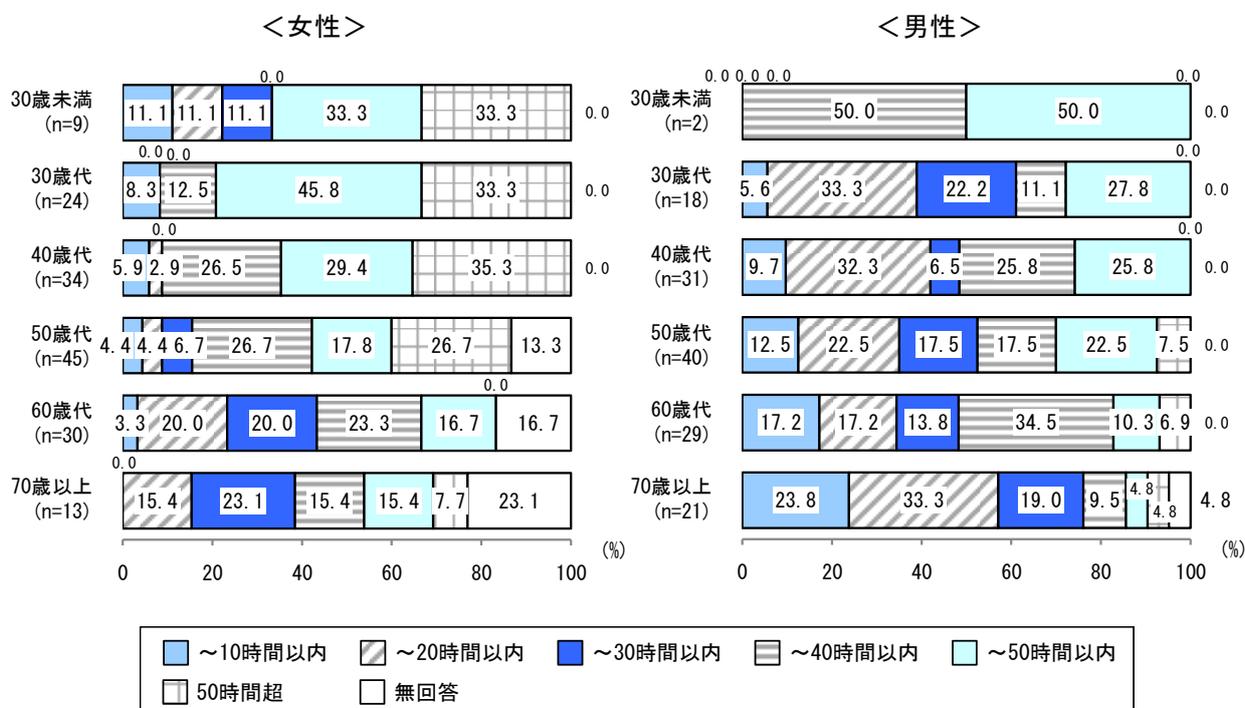
② 配偶者

- ・全体では、「～50時間以内」が22.4%で最も多く、次いで「～40時間以内」が21.4%、「～20時間以内」が16.4%、「50時間超」が14.0%となっています。
- ・性別で見ると、女性の配偶者では「～50時間以内」が25.2%で最も多く、次いで「50時間超」が23.2%となっています。男性の配偶者では「～20時間以内」が26.2%で最も多く、次いで「～40時間以内」が21.3%となっています。
- ・性別・年齢別で見ると、女性の配偶者では30歳代で「～50時間以内」が45.8%で最も多く、40歳では「50時間超」が35.3%で最も多くなっています。男性の配偶者では30歳代、40歳代、50歳代、70歳以上で「～20時間以内」が最も多くなっています。また、50歳代は同率で「～50時間以内」(22.5%)も最も多くなっています。

【性別】



【性別・年齢別】



(3) 本人と配偶者の勤務地

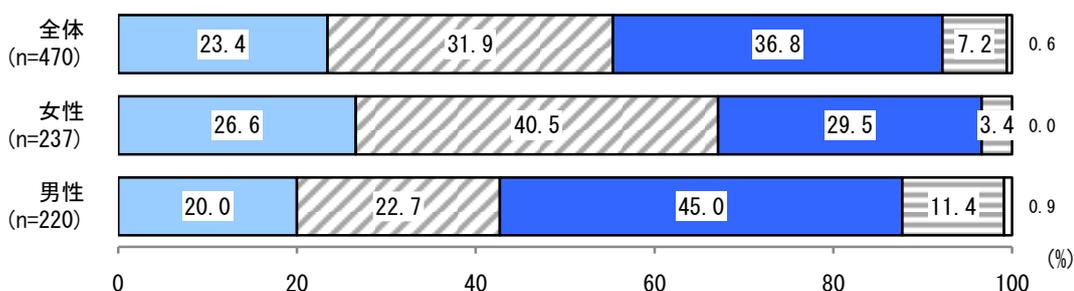
問1-2 勤務地はどちらですか。(〇は1つ)

※複数の仕事をしている場合は、主な仕事の勤務地をお答えください。

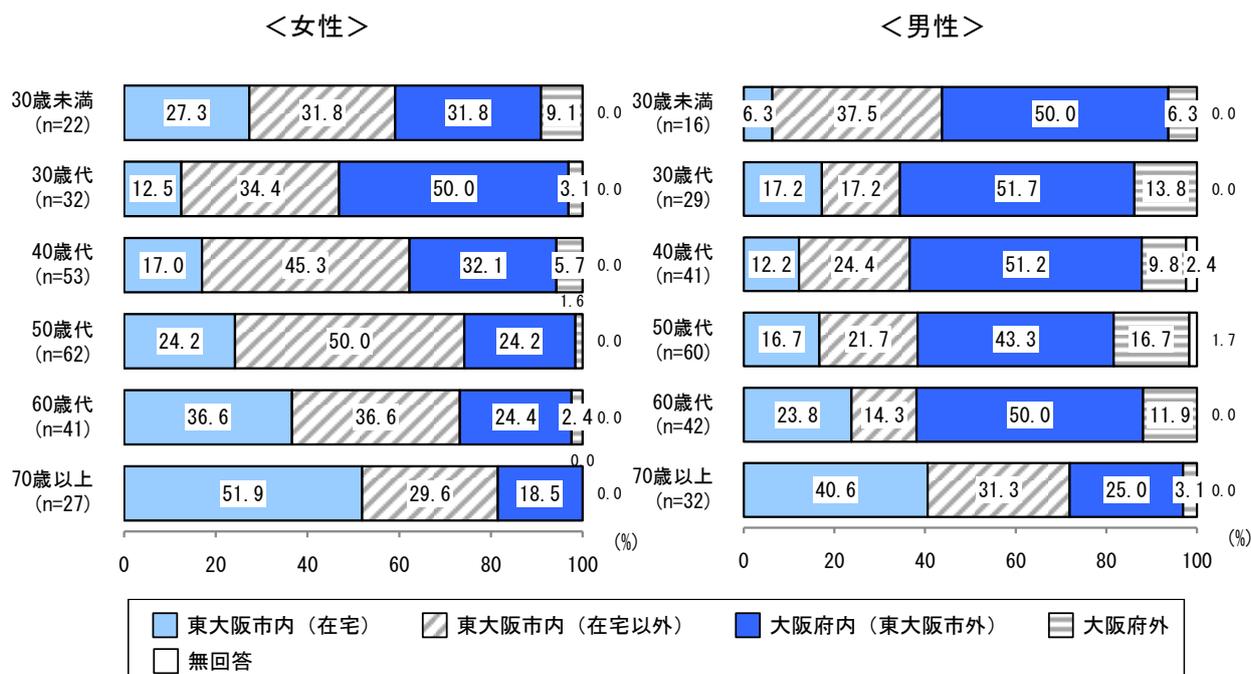
① 本人

- ・全体では、「大阪府内（東大阪市外）」が36.8%で最も多く、次いで「東大阪市内（在宅以外）」が31.9%、「東大阪市内（在宅）」が23.4%となっています。
- ・性別で見ると、女性では「東大阪市内（在宅以外）」が40.5%で最も多いですが、男性では「大阪府内（東大阪市外）」が45.0%で最も多くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、女性では30歳代は「大阪府内（東大阪市外）」が最も多くなっていますが、40歳代、50歳代は「東大阪市内（在宅以外）」が最も多くなっています。男性では60歳代までの年代で「大阪府内（東大阪市外）」が最も多く、70歳以上は「東大阪市内（在宅）」が最も多くなっています。

【性別】



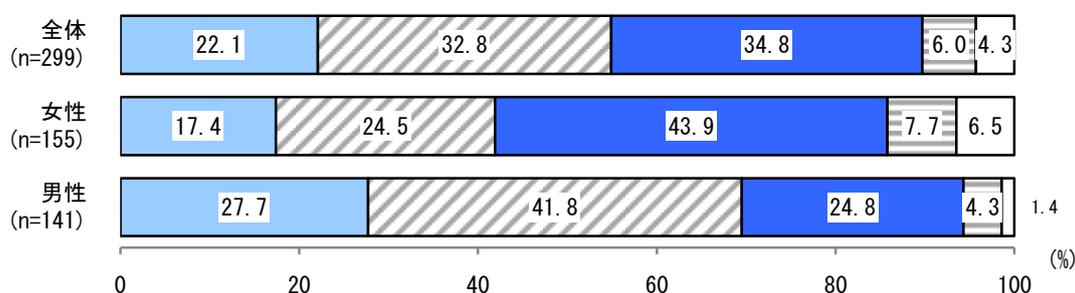
【性別・年齢別】



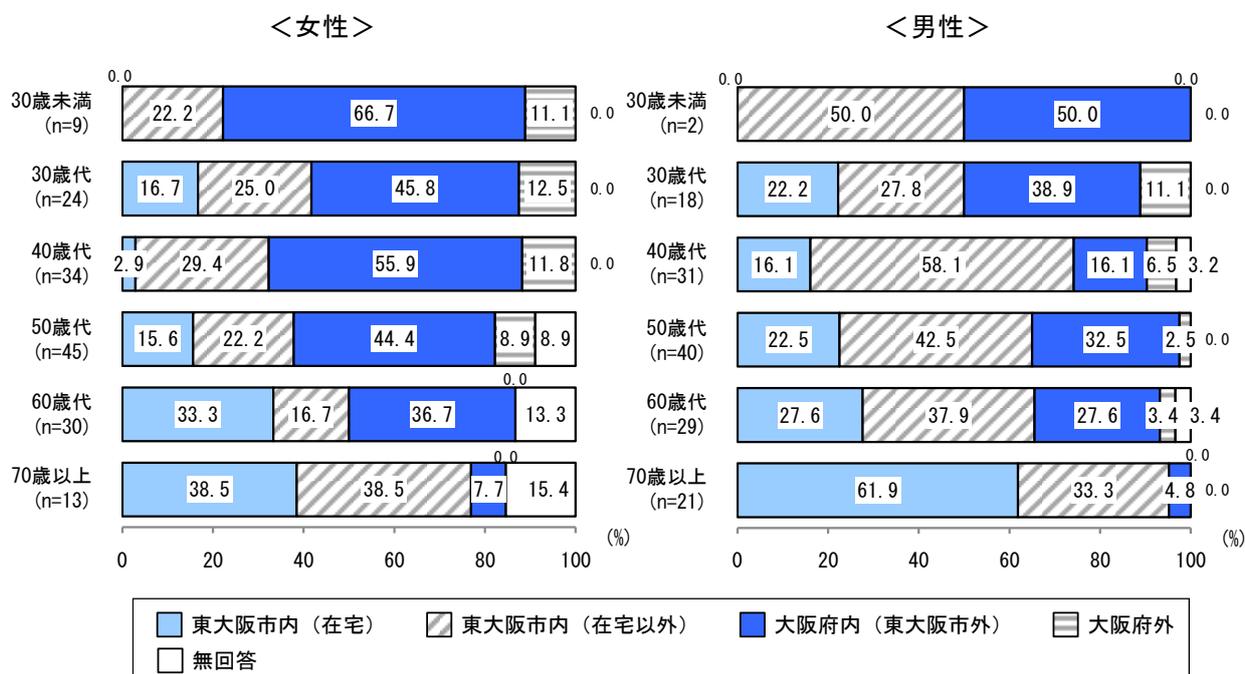
② 配偶者

- ・全体では、「大阪府内（東大阪市外）」が34.8%で最も多く、次いで「東大阪市内（在宅以外）」が32.8%、「東大阪市内（在宅）」が22.1%となっています。
- ・性別で見ると、女性の配偶者では「大阪府内（東大阪市外）」が43.9%で最も多くなっていますが、男性の配偶者では「東大阪市内（在宅以外）」が41.8%で最も多くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、女性の配偶者では60歳代までの年代で「大阪府内（東大阪市外）」が最も多くなっていますが、70歳以上では「東大阪市内（在宅）」が最も多くなっています。男性の配偶者では30歳代で「大阪府内（東大阪市外）」が最も多くなっていますが、70歳以上では「東大阪市内（在宅）」が最も多くなっています。

【性別】



【性別・年齢別】

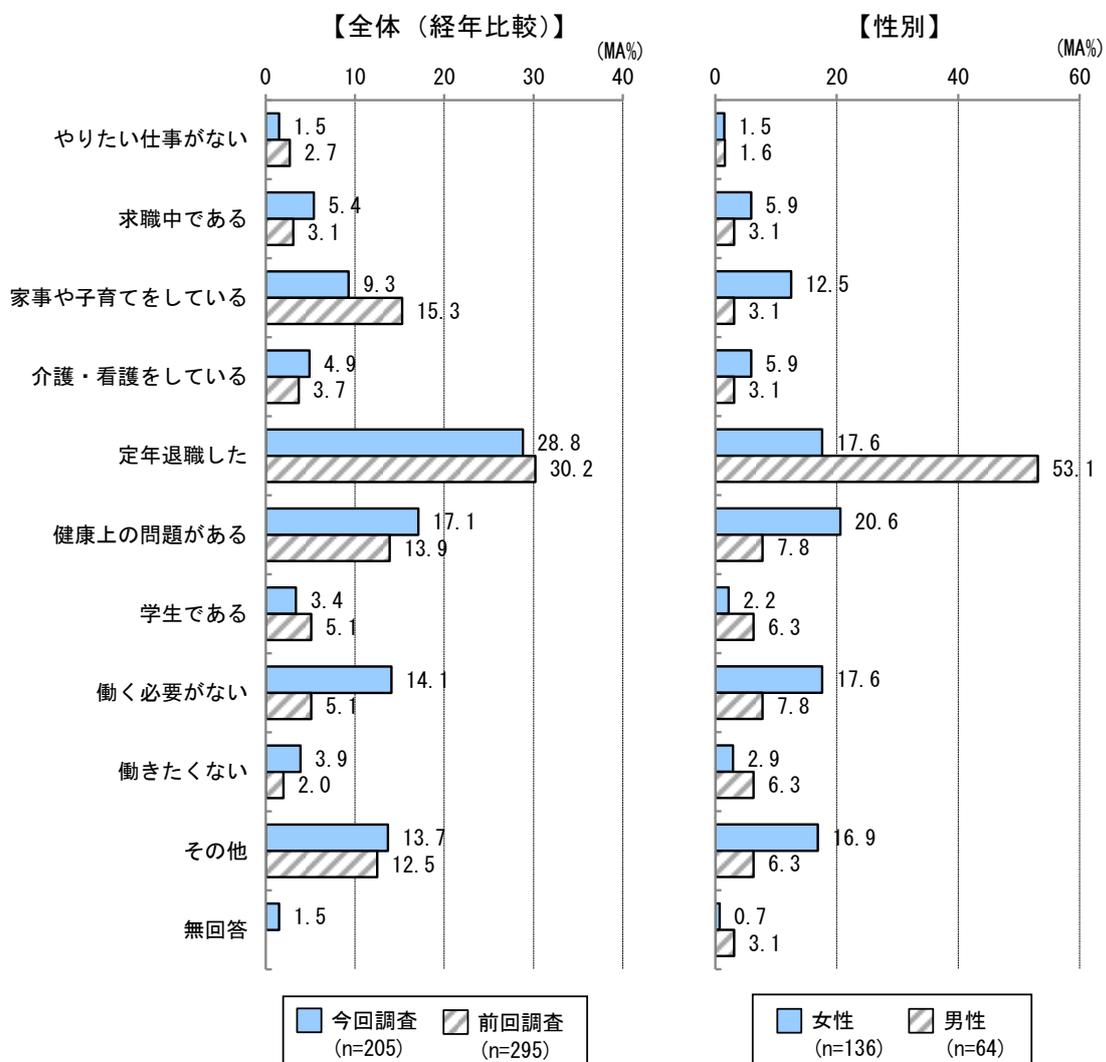


(4) 仕事をしていない理由

問1-3～1-5については、問1(1)で「5 仕事を持っていない」と回答した方におたずねします。

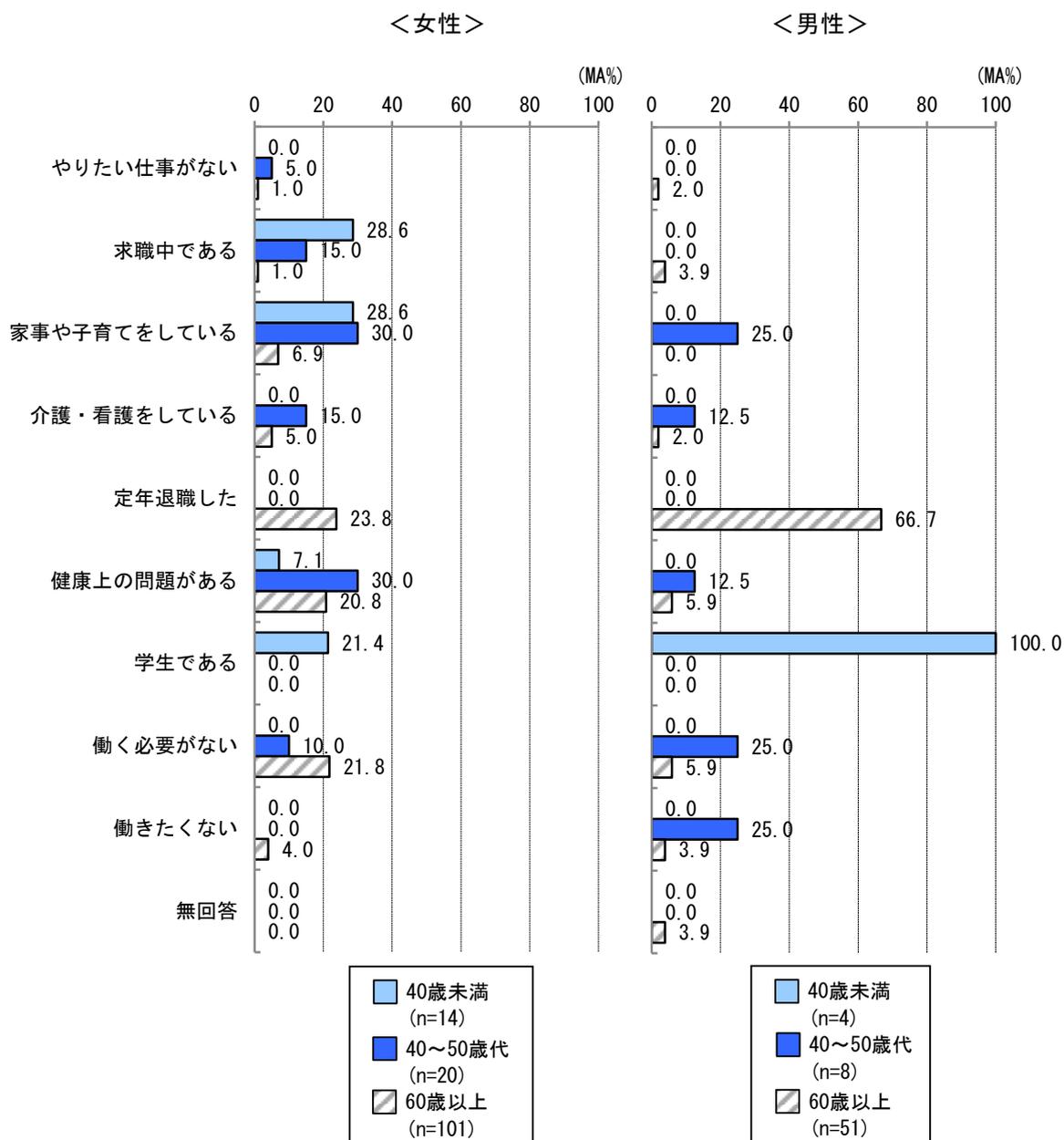
問1-3 あなたが仕事をしていないのはどうしてですか。(○は主なもの1つ)

- ・全体では、「定年退職した」が28.8%で最も多く、次いで「健康上の問題がある」が17.1%、「働く必要がない」が14.1%となっています。
- ・前回調査と比較すると、「働く必要がない」が前回調査より9.0ポイント高いですが、「家事や子育てをしている」が前回調査より6.0ポイント低くなっています。
- ・性別でみると、女性では「家事や子育てをしている」が12.5%となっており、男性(3.1%)より9.4ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別でみると、女性では40歳未満で「家事や子育てをしている」が最も多く、男性は60歳以上で「定年退職した」が6割台と高くなっています。



※ 調査票では「○は主なもの1つ」としていましたが、複数回答に変更しています。

【性別・年齢別】

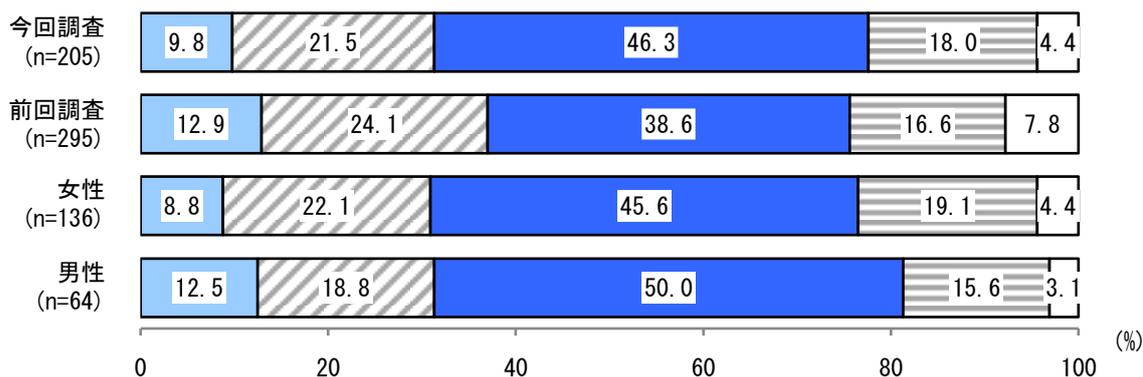


(5) 就労意向

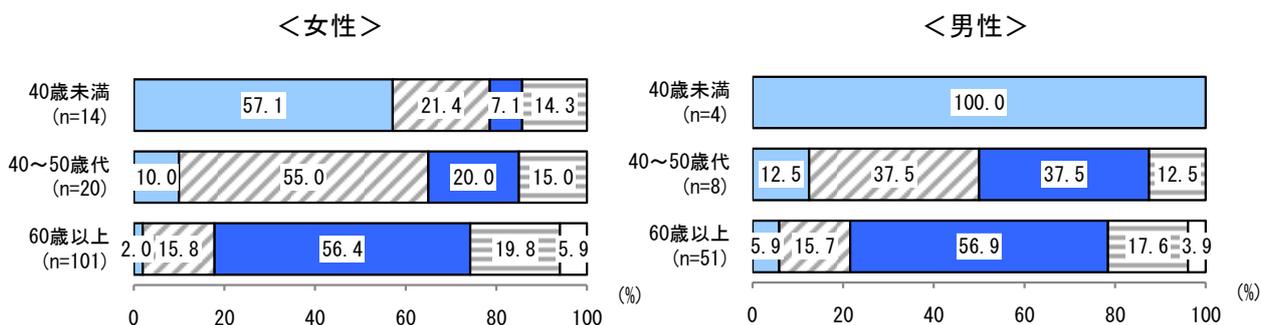
問1-4 あなたは今後、仕事^{*}につきたいと思いますか。(○は1つ)

- ・全体では、「仕事につきたいと思わない」が46.3%で最も多く、次いで「できれば、仕事につきたい」が21.5%、「ぜひ、仕事につきたい」が9.8%となっています。
- ・前回調査と比較すると、「仕事につきたいと思わない」が前回調査より7.7ポイント高くなっています。
- ・性別で見ると、男女とも「仕事につきたいと思わない」が最も多く、女性（45.6%）より男性（50.0%）の方が4.4ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、母数が少ないため一概にはいえないが、50歳代以下では男女とも「ぜひ、仕事につきたい」、「できれば、仕事につきたい」が「仕事につきたいと思わない」を上回っていますが、60歳以上では「仕事につきたいと思わない」が過半数を超えています。
- ・問1-3で、男性は「定年退職した」が53.1%を占めている点に注意が必要です。

【性別】



【性別・年齢別】



ぜひ、仕事につきたい

 できれば、仕事につきたい

 仕事につきたいと思わない

 わからない

 無回答

※ 前回調査では、「収入を得る仕事」でした。
 ※ グラフ上では「0.0」は省略しています。

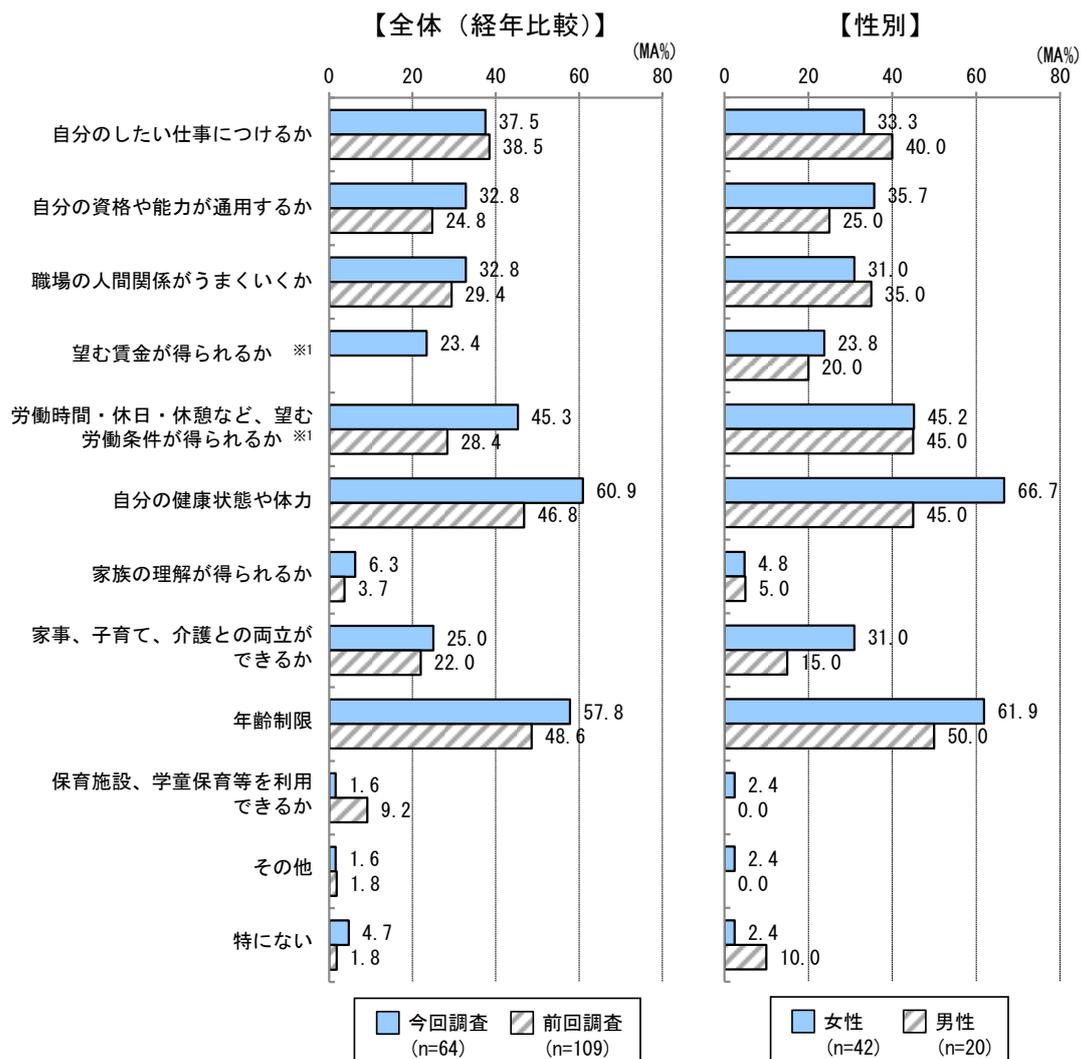
(6) 今後、仕事につく上での不安

問1-4で「1」または「2」と回答した方におたずねします。

問1-5 あなたは、今後、仕事につく上で何か不安はありますか。

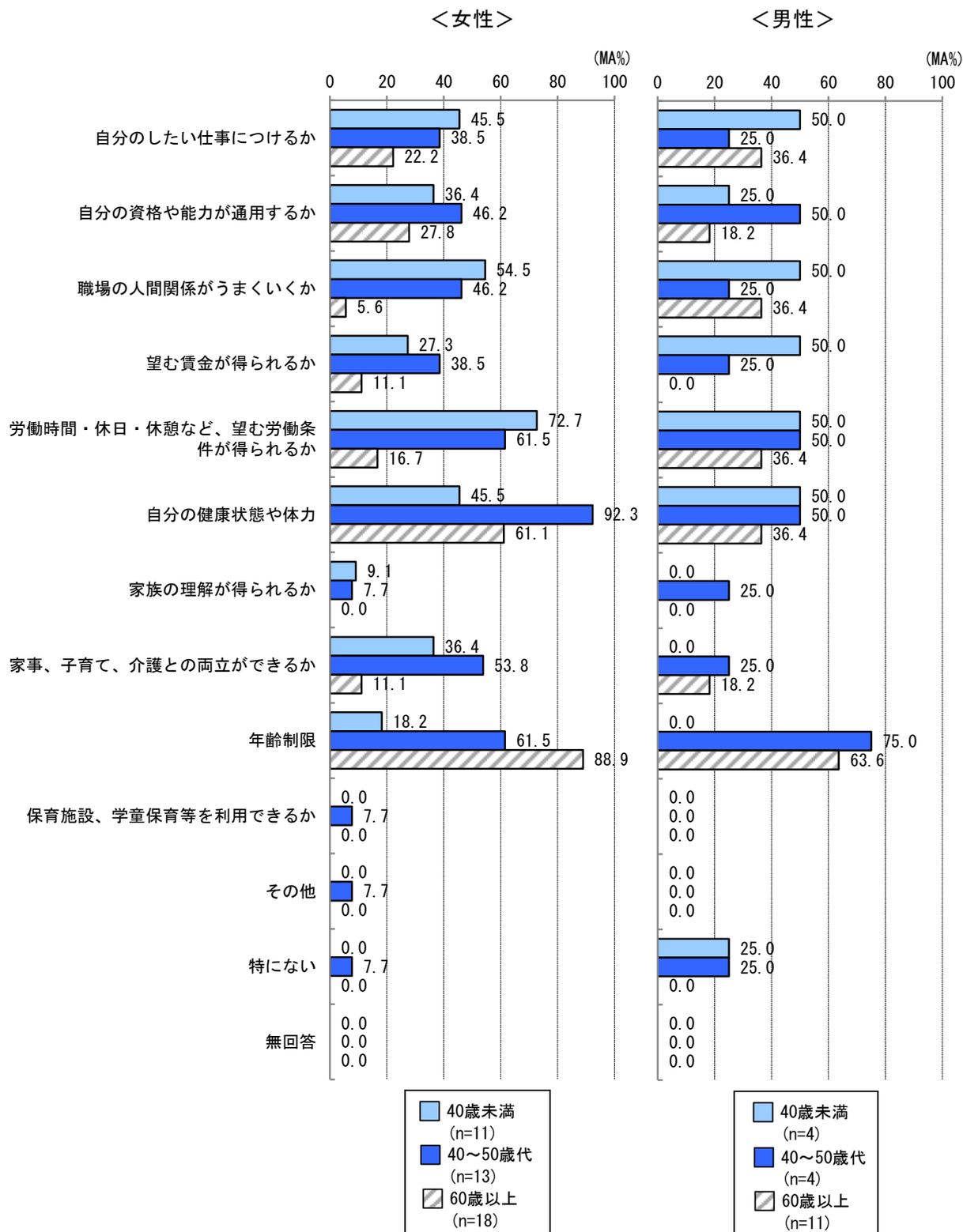
(あてはまるものすべてに○)

- ・全体では、「自分の健康状態や体力」が60.9%で最も多く、次いで「年齢制限」が57.8%、「労働時間・休日・休憩など、望む労働条件が得られるか」が45.3%となっています。
- ・前回調査と比較すると、「自分の健康状態や体力」は前回調査より14.1ポイント、「年齢制限」は前回調査より9.2ポイント、それぞれ高くなっています。
- ・性別で見ると、女性では「自分の健康状態や体力」が66.7%で最も多く、男性では「年齢制限」が50.0%で最も多いですが、女性（61.9%）より11.9ポイント低くなっています。また女性では、「家事・子育て・介護との両立ができるか」が男性の2倍高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、母数が少ないため一概にはいえませんが、女性の40歳未満は「労働時間・休日・休憩など、望む労働条件が得られるか」、女性の40～50歳代は「自分の健康状態や体力」が最も多くなっています。男性の40～50歳代、女性の60歳代以上、男性の60歳代以上では「年齢制限」が最も多くなっています。



※1 「望む賃金が得られるか」と「労働時間・休日・休憩など、望む労働条件が得られるか」は、前回調査では、「賃金など、望む労働条件が得られるか」(28.4%)でした。

【性別・年齢別】



2. ワーク・ライフ・バランスについて

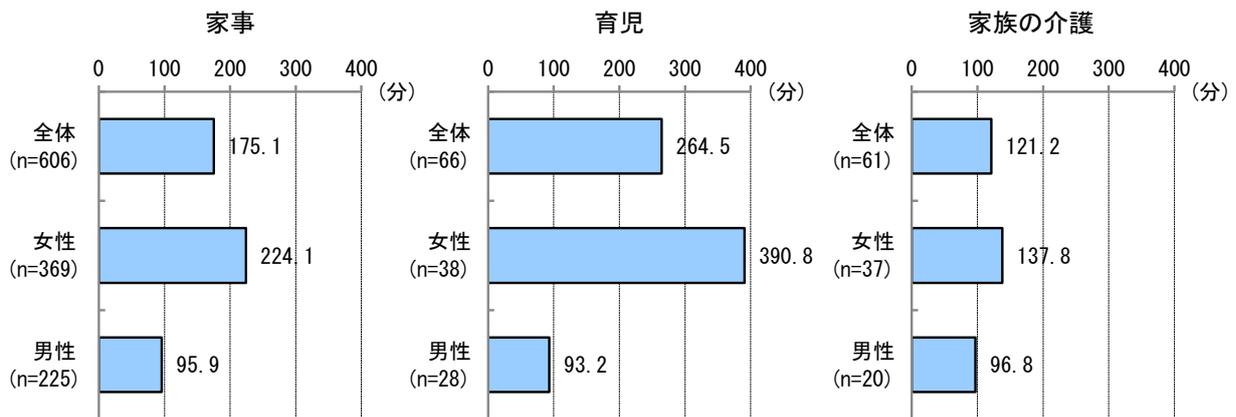
(1) 家事・育児・介護に費やす時間

問2 あなたは、ふだんの平日に、家事・育児・介護についてどれぐらいの時間を使っていますか。

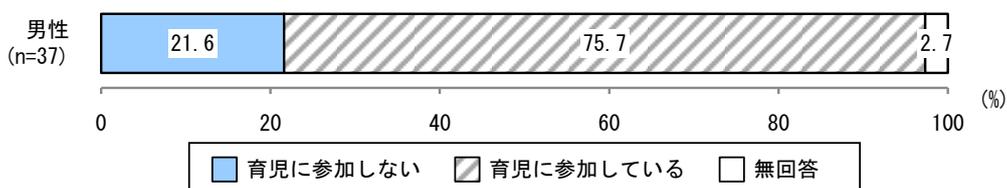
- ・全体では、“家事”は平均175.1分、“育児”は平均264.5分、“家族の介護”は平均121.2分となっています。
- ・性別で見ると、いずれも女性の方が長く、“家事”は男性（95.9分）より女性（224.1分）の方が128.2分、“育児”は男性（93.2分）より女性（390.8分）の方が297.6分、“家族の介護”は男性（96.8分）より女性（137.8分）の方が41.0分、それぞれ長くなっています。
- ・“家事”について性別・年齢別で見ると、女性では40～50歳代が最も長く、男性では60歳以上が最も長いです。
- ・“育児”について性別・年齢別で見ると、男女ともに40歳未満が最も長く、年齢が上がるほど短くなる傾向が見られます。
- ・“家族の介護”について性別・年齢別で見ると、男女ともに60歳以上が最も長いです。
- ・“育児”について性別・本人の平均労働時間別で見ると、女性は20時間未満が最も長く、労働時間が長くなるほど短いですが、男性は労働時間の長短に関わらず変わらない傾向が見られます。

※時間数の集計は、「時間」「分ぐらい」の欄に、ゼロ以外の数字を記入しているものを対象としています。
 ※“育児”については、問26で（同居している家族に）「子ども（11歳以下）」のお子さんがいるとした回答者を対象としています。

【性別】



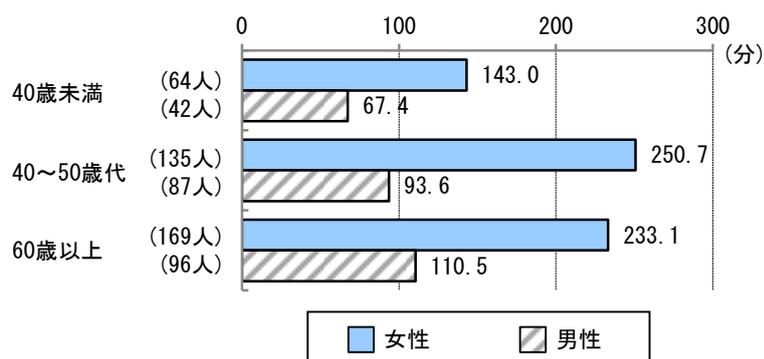
【参考 男性で育児に参加しない人の割合】



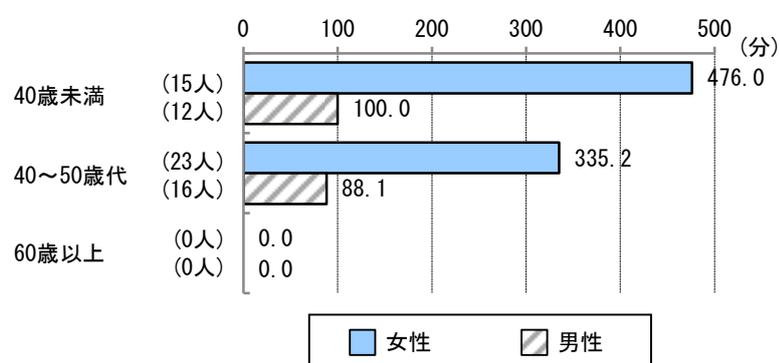
※育児期にある男性のうち、平日に育児に参加しない（育児時間が0分）人の割合

【性別・年齢別】

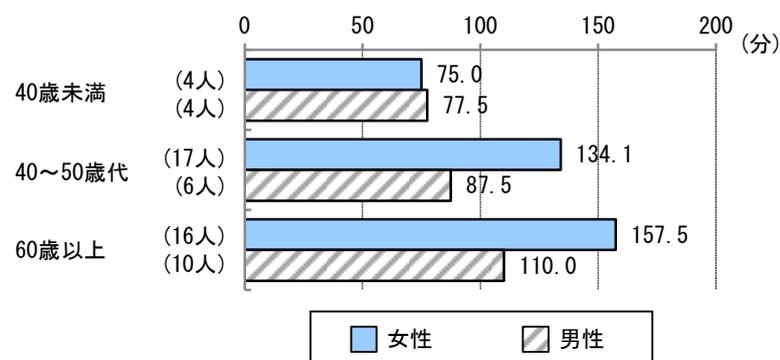
■家事



■育児

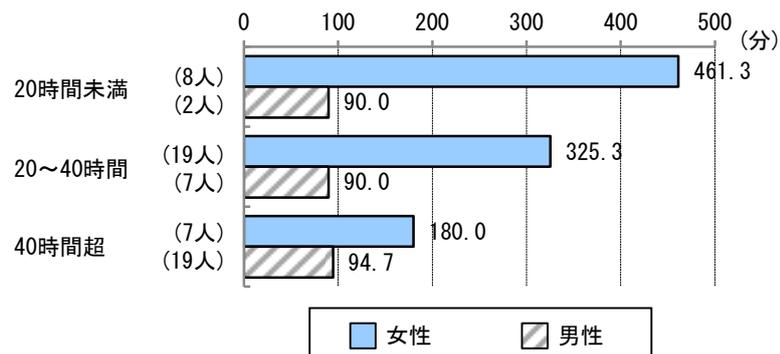


■家族の介護



【性別・本人の平均労働時間別】

■育児



(2) 生活の中での優先事項

問3 あなたは、生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人の生活[※]」のどれを優先していますか。

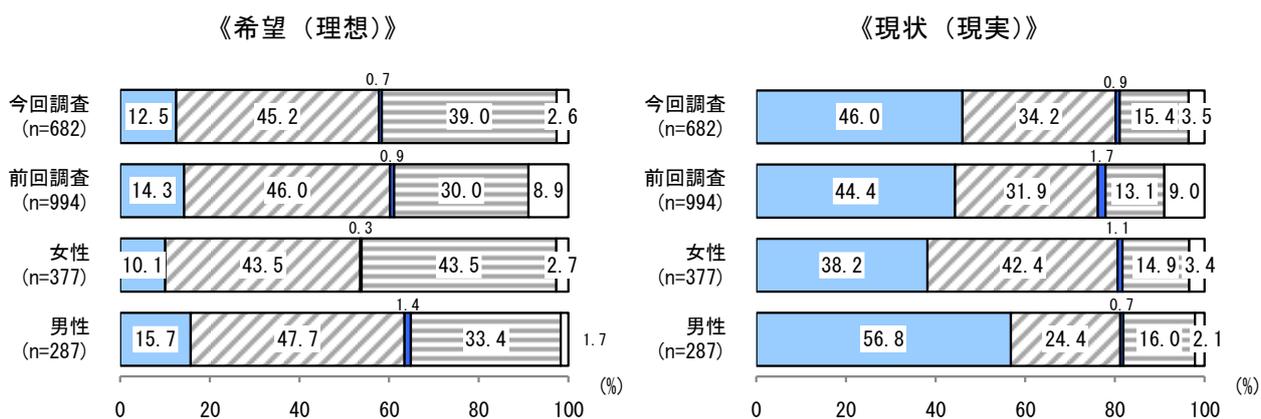
(1) 希望(理想)と、(2) 現状(現実)について、1番・2番に優先したい又は優先されている事項をお答えください。(それぞれ○は1つずつ)

- ・全体で、第1の優先度では、希望(理想)は「家庭生活」(45.2%) > 「個人の生活」(39.0%) > 「仕事」(12.5%) ですが、現状(現実)は「仕事」(46.0%) > 「家庭生活」(34.2%) > 「個人の生活」(15.4%) と、現実の生活では仕事が最優先されています。この差は、女性よりも男性がより大きくなっています。「地域活動」は、希望・現状ともに割合は低くなっています。
- ・前回調査と比較すると、第1の優先度では、希望(理想)は「個人の生活」が前回調査より9.0ポイント高くなっています。現状(現実)は「家庭生活」と「個人の生活」がともに前回調査より2.3ポイント高くなっています。
- ・性別で見ると、第1の優先度では、希望は、女性では「家庭生活」と「個人の生活」がともに43.5%で最も多く、男性では「家庭生活」が47.7%で最も多くなっています。一方、現実には、男女とも「仕事」が希望より割合が高く、特に男性では希望より41.1ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、仕事では男性の30歳代～50歳代が斜線から大きく左上に離れており、現状(現実)の仕事のウェイトが非常に高いことを示しています。この男性30歳代～50歳代の層は家庭生活のグラフでは、逆に斜線の右下に位置しており、望む家庭生活を十分得られていないことがわかります。女性の30歳未満～30歳代においても同様の傾向がありますが、男性ほどに希望と現状のギャップは大きくありません。男女30歳未満の若い層では、個人の生活を求める割合が高くなっています。

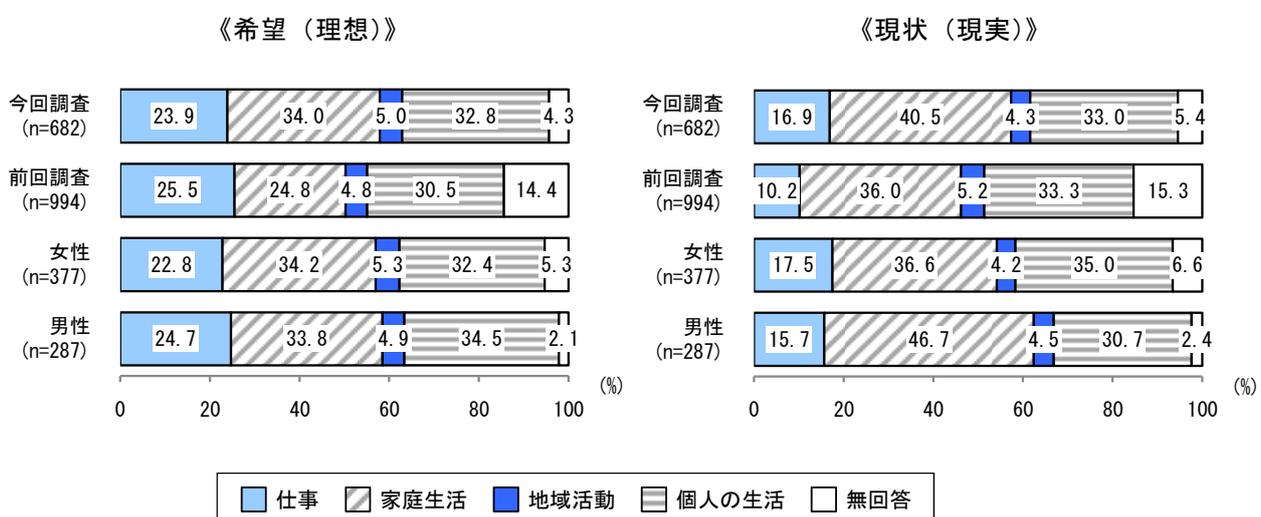
※ 前回調査では「個人生活」でした。

【性別】

① 第1に優先したい（されている）



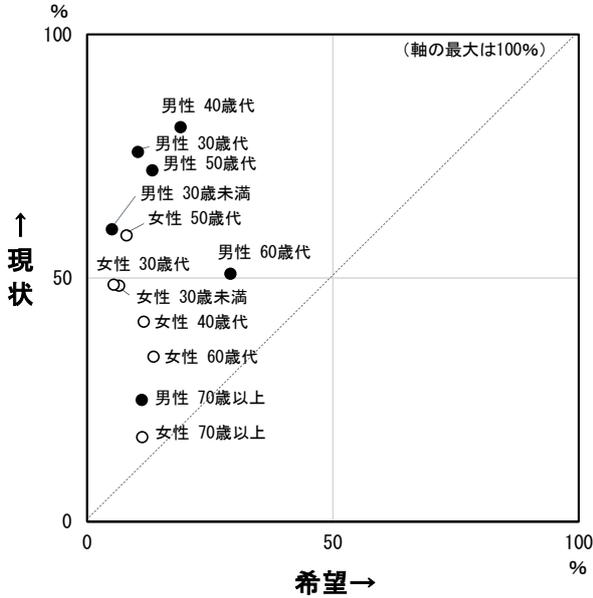
② 第2に優先したい（されている）



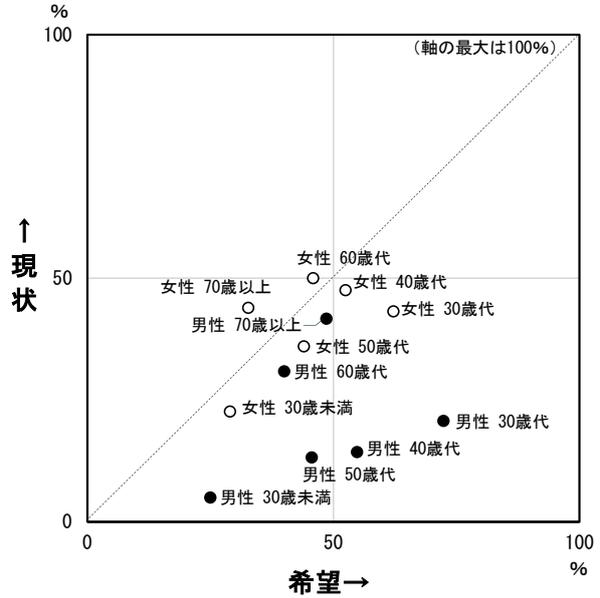
「希望」と「現状」の関係（性×年齢別）

「希望」の割合を横軸に、「現状」の割合を縦軸にとった座標に、各属性の数値をプロットしました。各点が45°の破線から離れるほどに「希望」と「現状」が乖離していることとなります。具体的には、各点が斜線の右下に位置するほど希望に比べて現状の割合が小さいことを示し、左上に位置するほど、希望に比べて現状の割合が大きいことを示します。

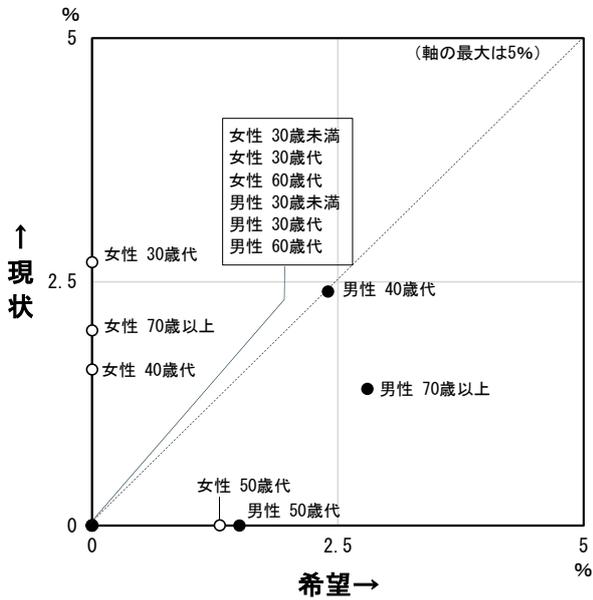
仕事（第1に）



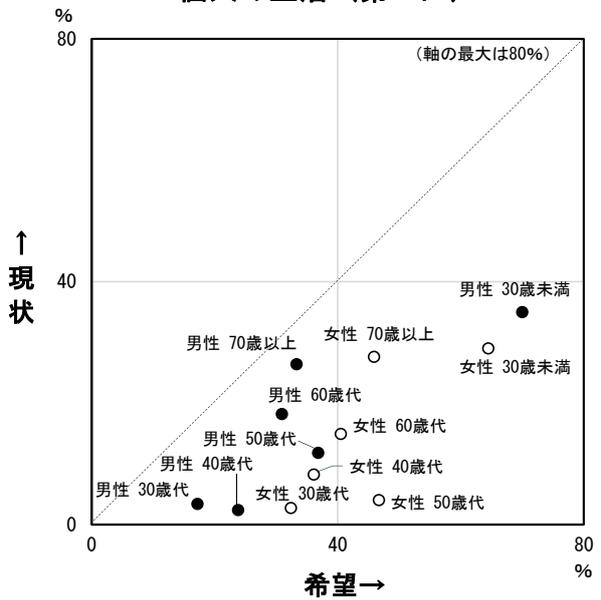
家庭生活（第1に）



地域活動（第1に）



個人の生活（第1に）



(3) 仕事と生活の調和を図るために必要なこと

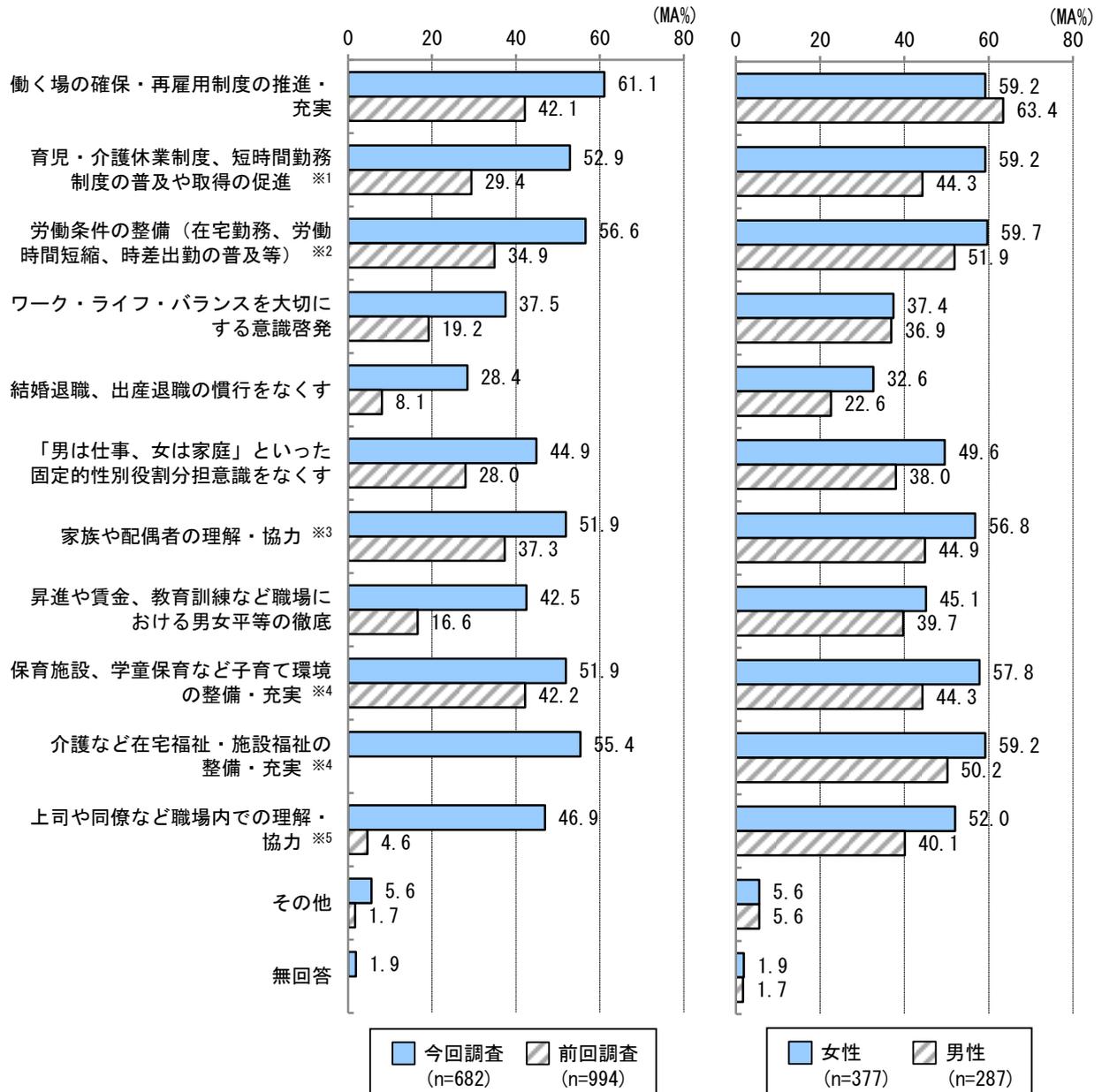
問4 今後、性別にかかわらず全ての人とともに※仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・全体では、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」が61.1%で最も多く、次いで「労働条件の整備（在宅勤務、労働時間短縮、時差出勤の普及等）」が56.6%、「介護など在宅福祉・施設福祉の整備・充実」が55.4%となっています。
- ・性別で見ると、女性では「労働条件の整備（在宅勤務、労働時間短縮、時差出勤の普及等）」が59.7%で最も多いですが、男性では「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」が63.4%で最も多くなっています。また、「育児・介護休業制度、短時間勤務制度の普及や取得の促進」、「保育施設、学童保育など子育て環境の整備・充実」の順で、女性が男性を大きく上回っています。
- ・性別・年齢別で見ると、男女ともに「育児・介護休業制度、短時間勤務制度の普及や取得の促進」、「労働条件の整備（在宅勤務、労働時間短縮、時差出勤の普及等）」、「ワーク・ライフ・バランスを大切にする意識啓発」、「保育施設、学童保育など子育て環境の整備・充実」が40歳未満で最も高くなっています。また、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」、「介護など在宅福祉・施設福祉の整備・充実」は男女とも60歳以上で最も高くなっています。

※ 「性別にかかわらず全ての人とともに」は、前回調査では「男女がともに」でした。

【全体（経年比較）】

【性別】



※1 前回調査では「育児・介護休業制度の普及や取得の促進」でした。

※2 前回調査では「労働条件の整備（労働時間短縮、フレックスタイムの普及等）」でした。

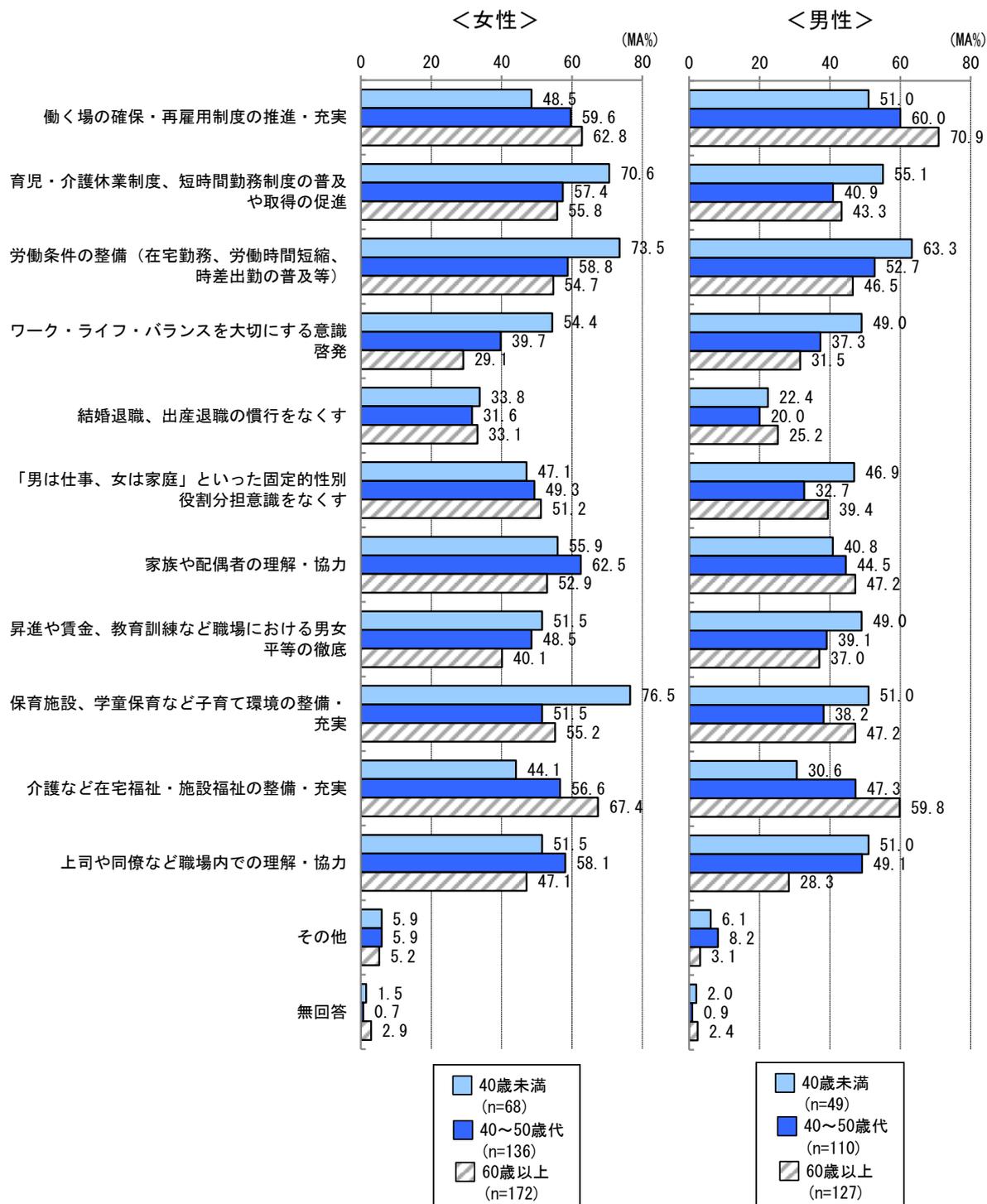
※3 前回調査では「家族や配偶者（パートナー）の理解・協力」でした。

※4 「保育施設、学童保育など子育て環境の整備・充実」と「介護など在宅福祉・施設福祉の整備・充実」は、前回調査では「保育所（園）、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」でした。

※5 前回調査では「地域活動・ボランティアへの参加に対する上司や同僚などの理解」でした。

※前回調査では3つまでの回答でしたが、今回調査ではあてはまるものすべての回答に変更しています。

【性別・年齢別】



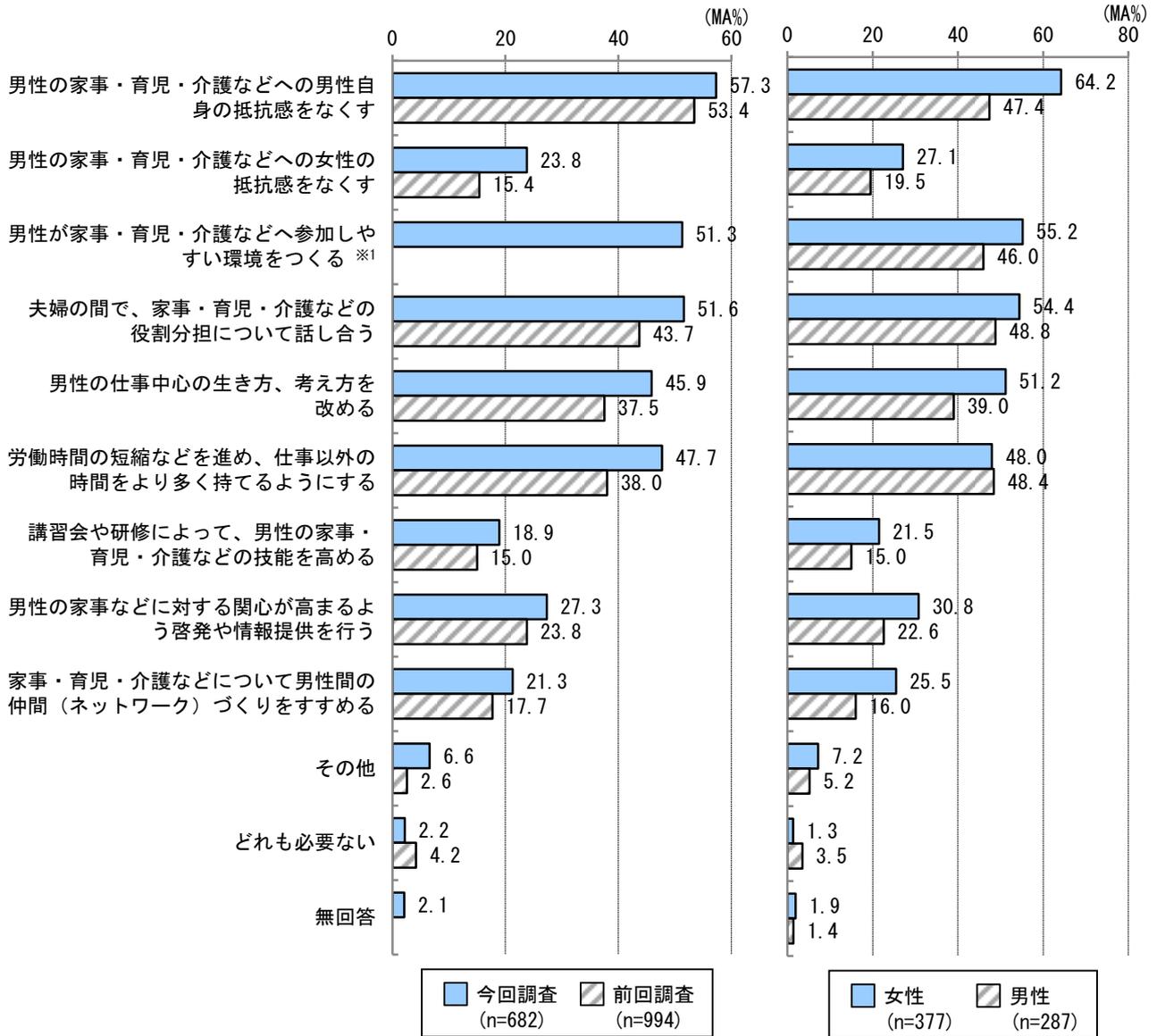
(4) 男性が家事などに参加するために特に必要なこと

問5 今後、男性が家事・育児・介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・全体では、「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」が57.3%で最も多く、次いで「夫婦の間で、家事・育児・介護などの役割分担について話し合う」が51.6%、「男性が家事・育児・介護などへ参加しやすい環境をつくる」が51.3%となっています。
- ・前回調査と比較すると、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が前回調査より9.7ポイント、「男性の家事・育児・介護などへの女性の抵抗感をなくす」と「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」はそれぞれ前回調査より8.4ポイント高くなっています。前回調査でも「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」が最も多くなっています。
- ・性別で見ると、女性では「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」が他の回答より9ポイント以上高くなっています。男性では「夫婦の間で、家事・育児・介護などの役割分担について話し合う」「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」がほぼ同じくらい高くなっています。また、男性より女性のほうが「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」は16.8ポイント、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」は12.2ポイント、それぞれ高くなっており、男性の自覚・関心の向上が求められています。
- ・性別・年齢別で見ると、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」は40歳代以下の女性の60%以上、30歳代男性の72.4%が回答しました。「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」は40歳代以上の女性の60%以上が回答しました。若年層では労働環境の改善、年齢が上がるにつれ男性の意識改革を求めています。また、30歳代女性は「講習会や研修によって、男性の家事・育児・介護などの技能を高める」、「男性の家事などに対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行う」、「家事・育児・介護などについて男性間の仲間（ネットワーク）づくりをすすめる」が最も多く、男性の家事の啓発、情報提供や男性間のネットワークづくりを重視していることがわかります。

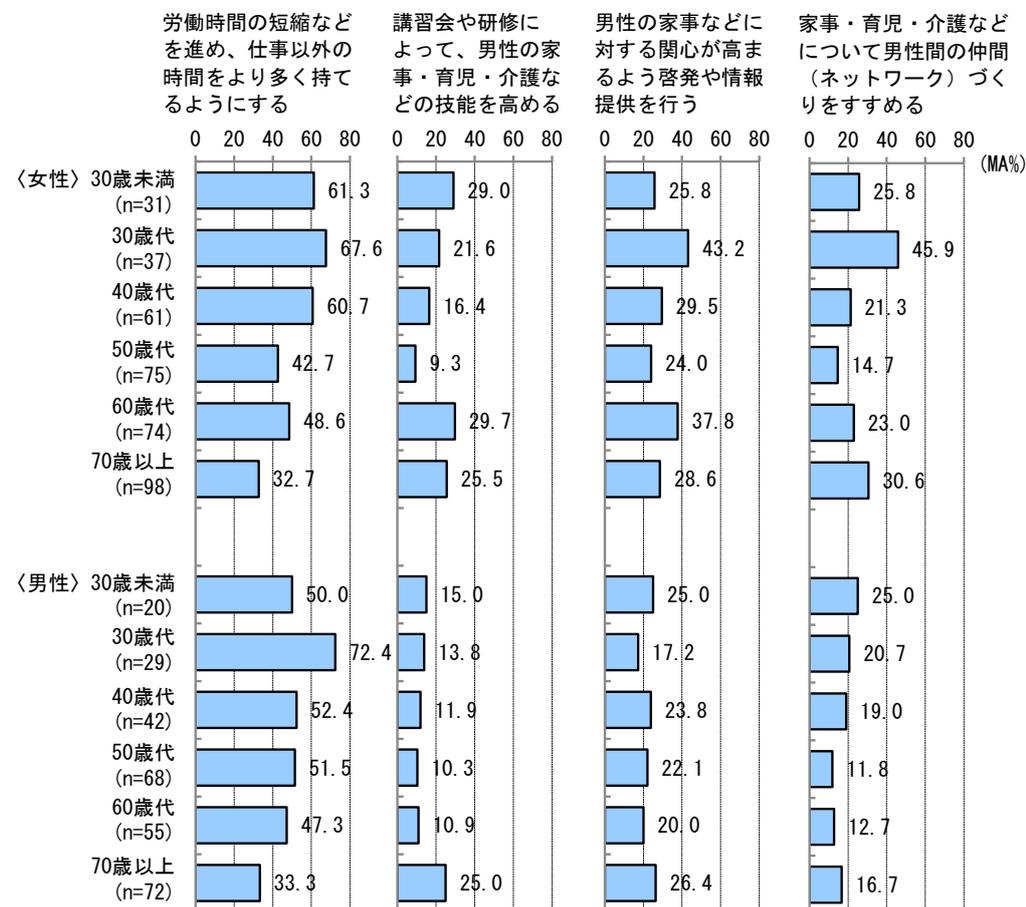
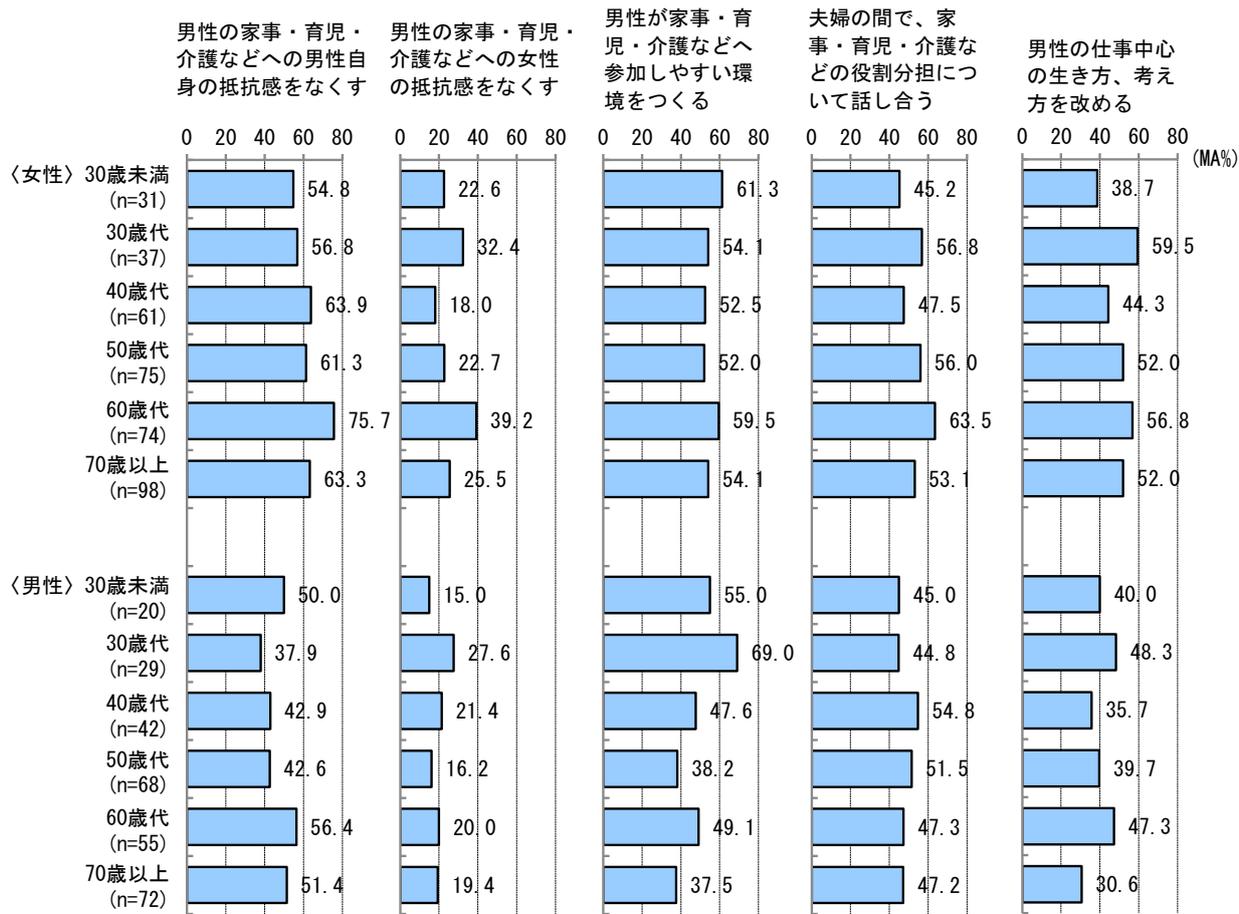
【全体（経年比較）】

【性別】



※1 「男性が家事・育児・介護などへ参加しやすい環境をつくる」は新規項目。
 ※ 前回調査の「男性の家事・育児・介護などへの社会の評価を高める」は削除。

【性別・年齢別】



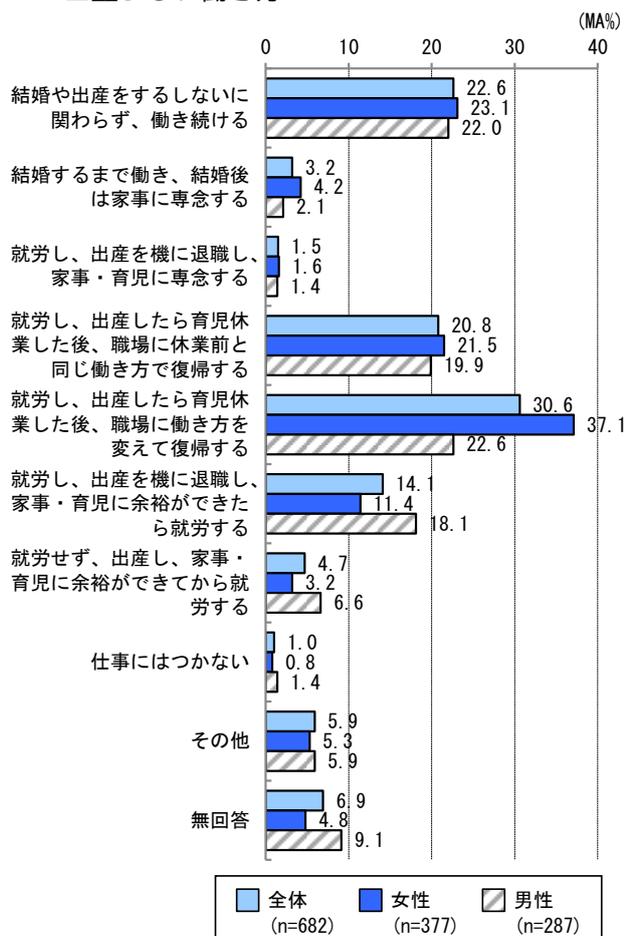
(5) 女性の望ましい働き方と実際の働き方

問6 女性の働き方について、(1) どのような働き方が望ましいと思いますか。(○は1つ)
また、(2) 実際の働き方はどれにあたりますか。(○は1つ)
※ (1)・(2)ともに、男性もお答えください。(2)については、男性は、あなたの配偶者についてお答えください。女性の配偶者のおられない男性は10を選択してください。

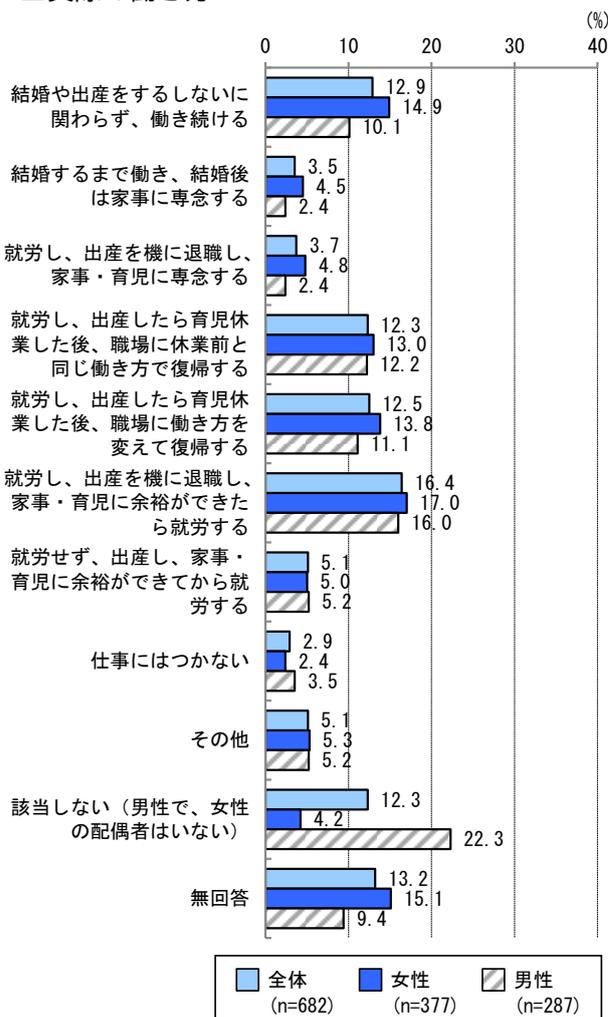
- ・全体として、“望ましい働き方”は、「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」が30.6%で最も多く、次いで「結婚や出産をするしないに関わらず、働き続ける」が22.6%、「就労し、出産したら育児休業した後、職場に休業前と同じ働き方で復帰する」が20.8%となっています。「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」、「就労し、出産したら育児休業した後、職場に休業前と同じ働き方で復帰する」を合わせると51.4%の人が、同じ職場で働き続けるのが望ましいとしています。
- ・“実際の働き方”は、「就労し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら就労する」が16.4%で最も多く、次いで「結婚や出産をするしないに関わらず、働き続ける」が12.9%、「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」が12.5%となっています。「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」は、“望ましい働き方”より“実際の働き方”が18.1ポイント低く、最も差が大きくなっています。
- ・“望ましい働き方”について、性別でみると、「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」は男性(22.6%)より女性(37.1%)の方が14.5ポイント高くなっています。また、「就労し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら就労する」、「就労せず、出産し、家事・育児に余裕ができたなら就労する」、「仕事にはつかない」で女性より男性の方が割合は高く、男性のほうが女性に育児期間中は家事・育児に専念することが望ましいと考える割合が高くなっています。
- ・“実際の働き方”について、性別でみると、「就労し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら就労する」が男女ともに最も高いです。
- ・性別・年齢別でみると、全体で望ましいと思う生き方で第1位であった「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」は多くの層が望ましいと思っているのに対して、あまり叶えられていません。第2位の「結婚や出産をするしないに関わらず、働き続ける」は多くの層が望ましいと思っており、女性の30歳未満、30歳代、50歳代ではその希望が叶っています。
- ・前回調査では望ましいと思う働き方として「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」が最も多かったですが、今回は10ポイント以上減少しました。

【性別】

■望ましい働き方



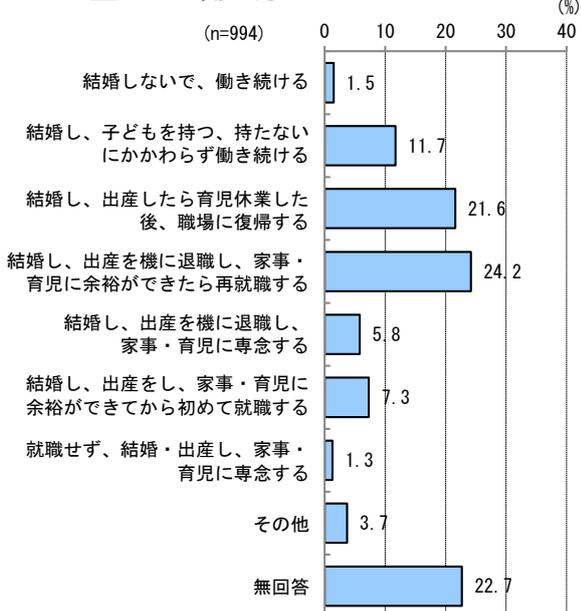
■実際の働き方



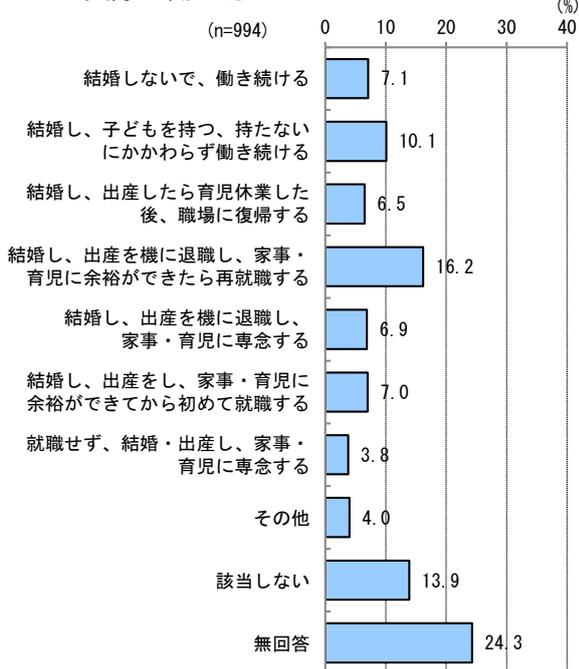
※ “望ましい働き方” については、複数回答に変更しました。

【参考 前回調査】

■望ましい働き方



■実際の働き方

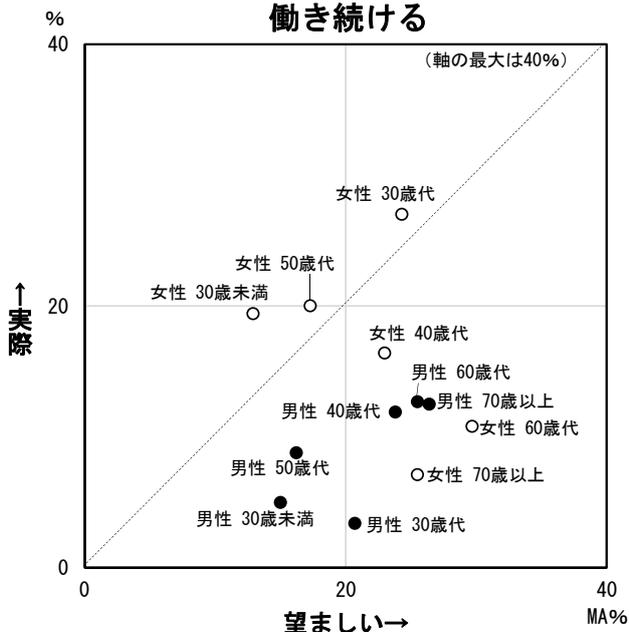


【性別・年齢別①】

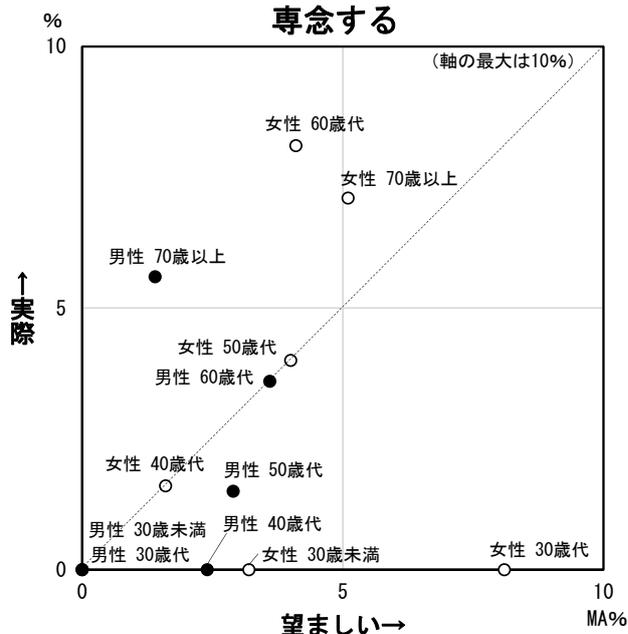
「望ましい」と「実際」の関係（性別×年齢別）

「望ましい」の割合を横軸に、「実際」の割合を縦軸にとった座標に、各属性の数値をプロットしました。各点が45°の破線から離れるほどに「望ましい」と「実際」が乖離しています。具体的には、各点が斜線の右下に位置するほど理想に比べて実際の割合が小さいことを示し、斜線の左上に位置するほど理想に比べて実際の割合が大きいことを示します。

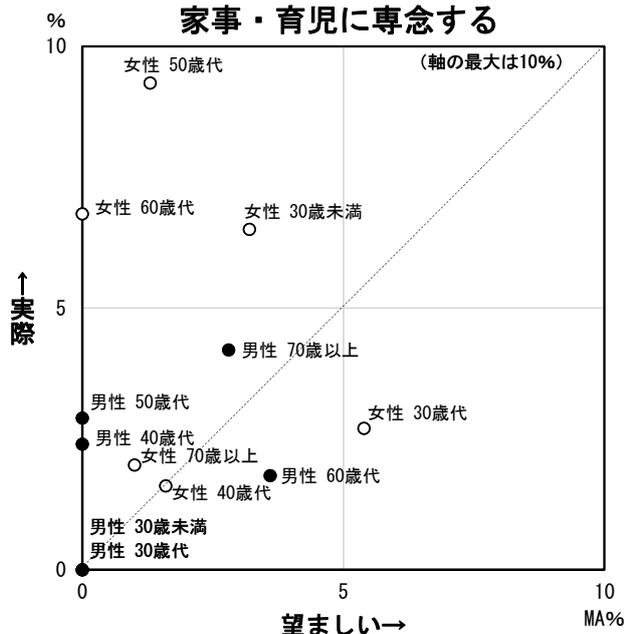
結婚や出産をしないに関わらず、働き続ける



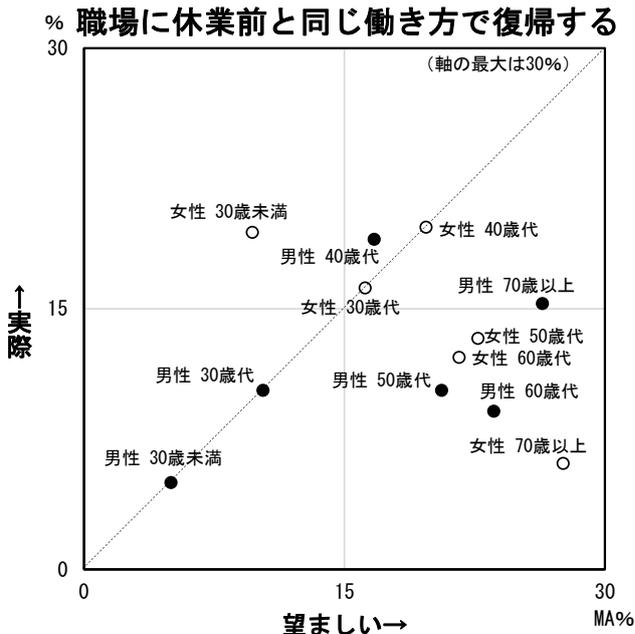
結婚するまで働き、結婚後は家事に専念する



就労し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する

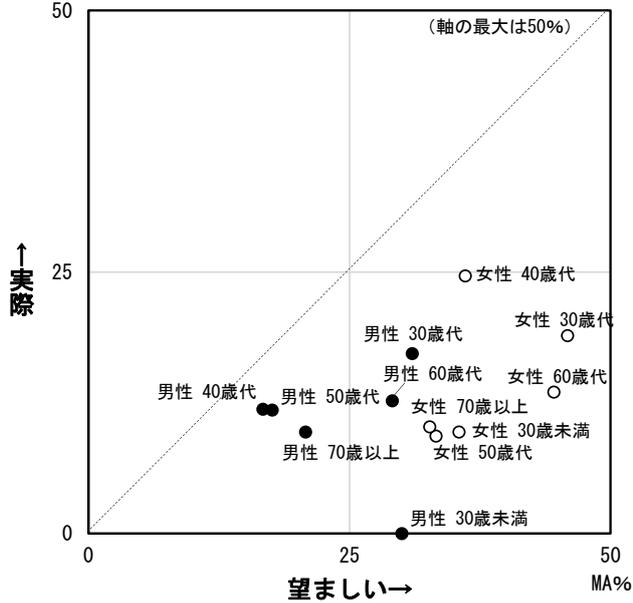


就労し、出産したら育児休業した後、職場に休業前と同じ働き方で復帰する

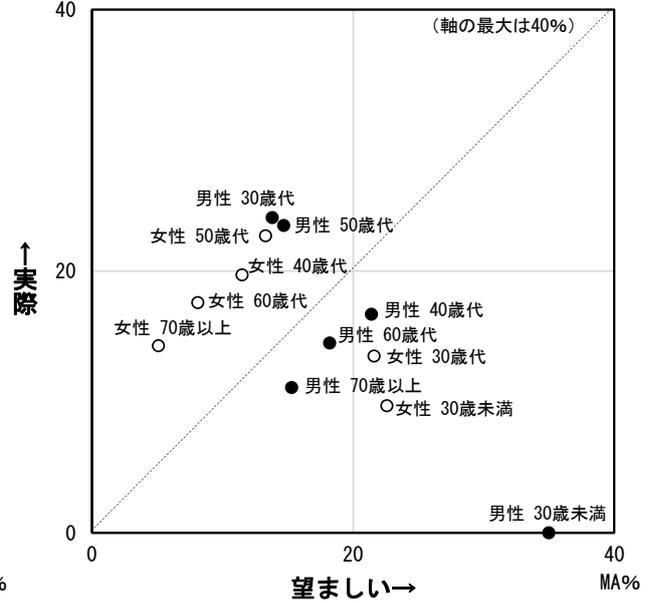


【性別・年齢別②】

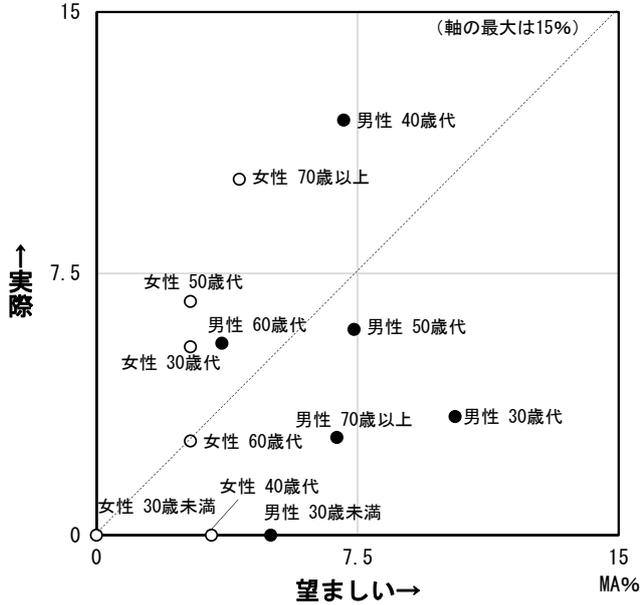
就労し、出産したら育児休業した後、
職場に働き方を変えて復帰する



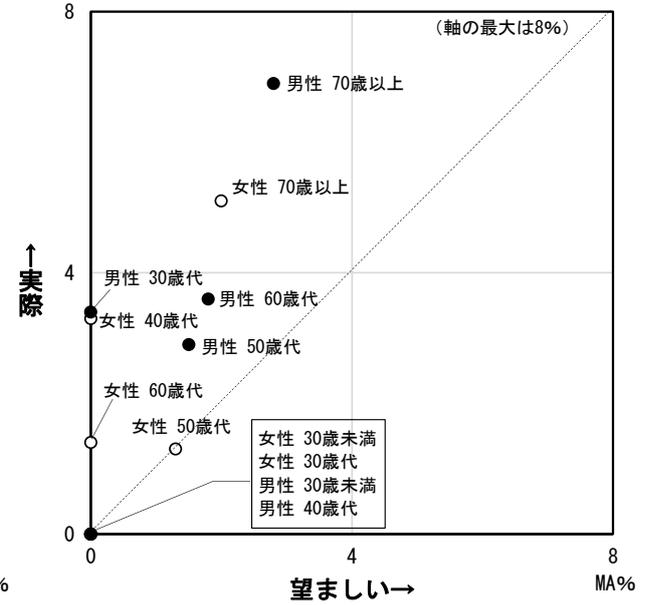
就労し、出産を機に退職し、家事・育児
に余裕ができたなら就労する



就労せず、出産し、家事・育児に
余裕ができてから就労する



仕事にはつかない



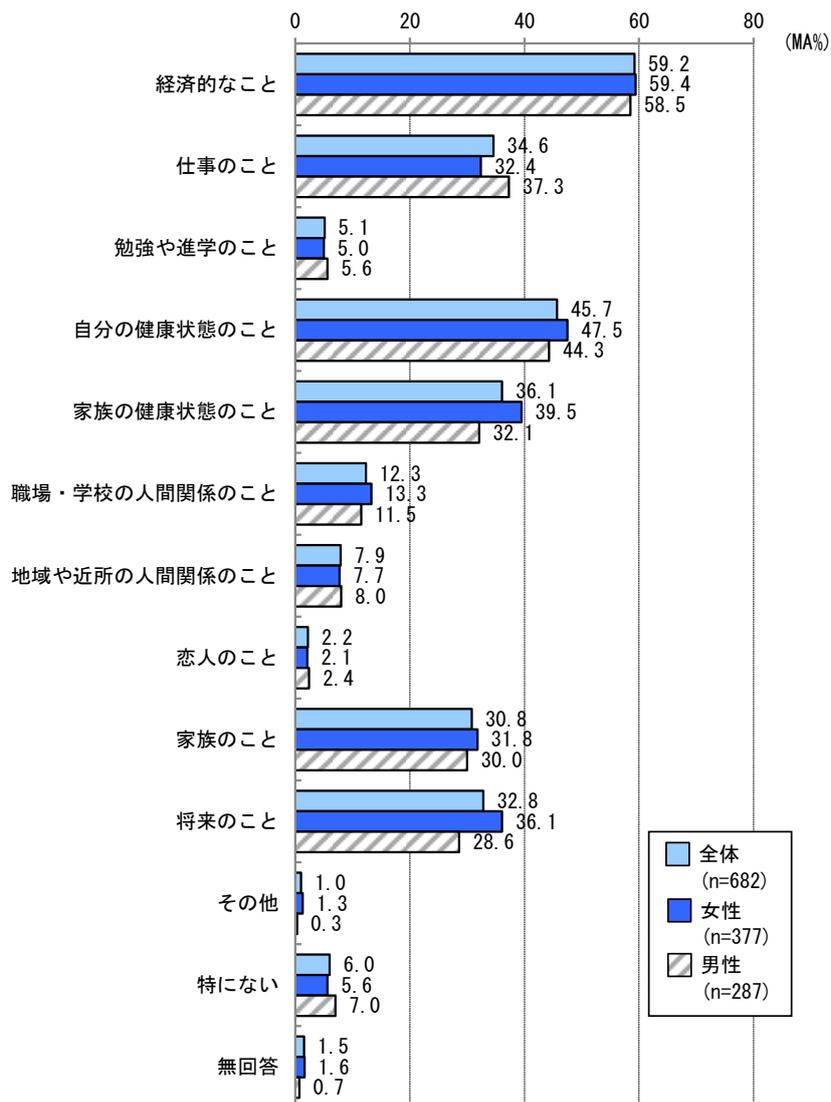
3. 暮らしの悩みなどについて

(1) 生活の中でのストレス

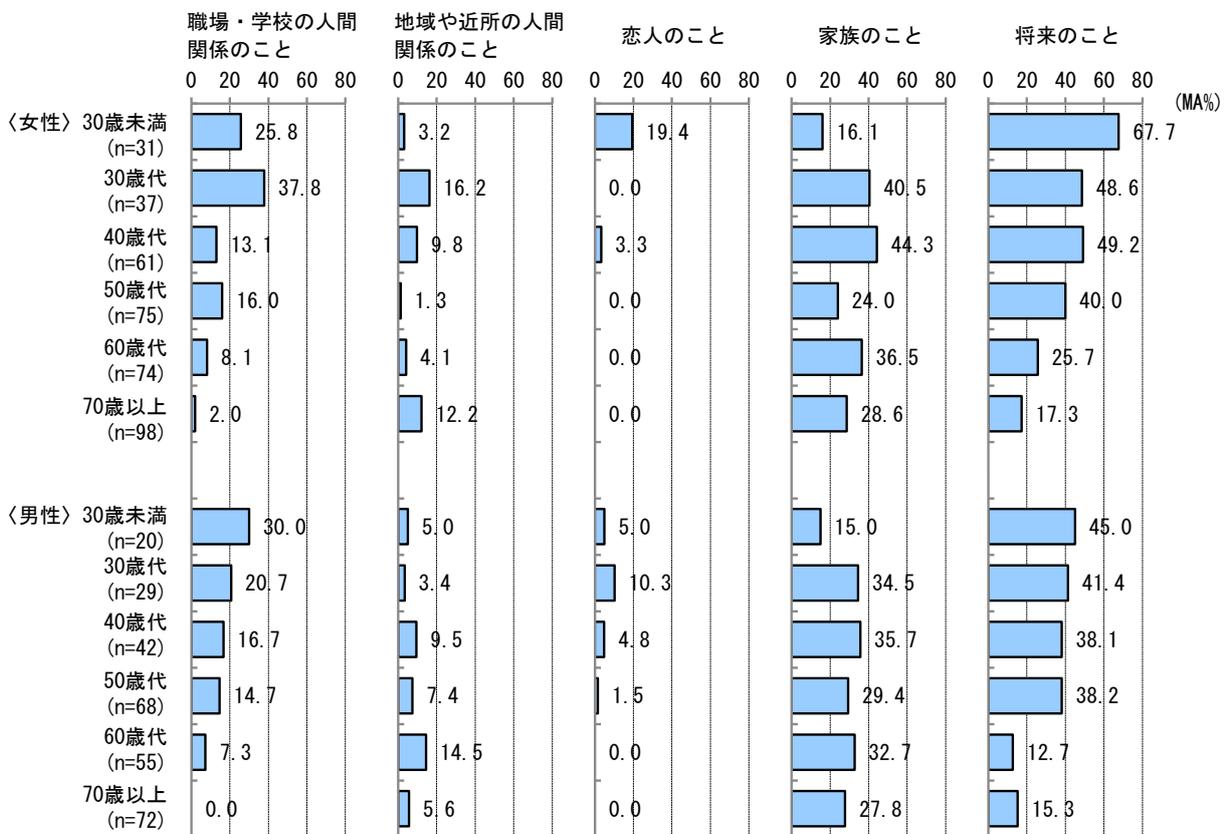
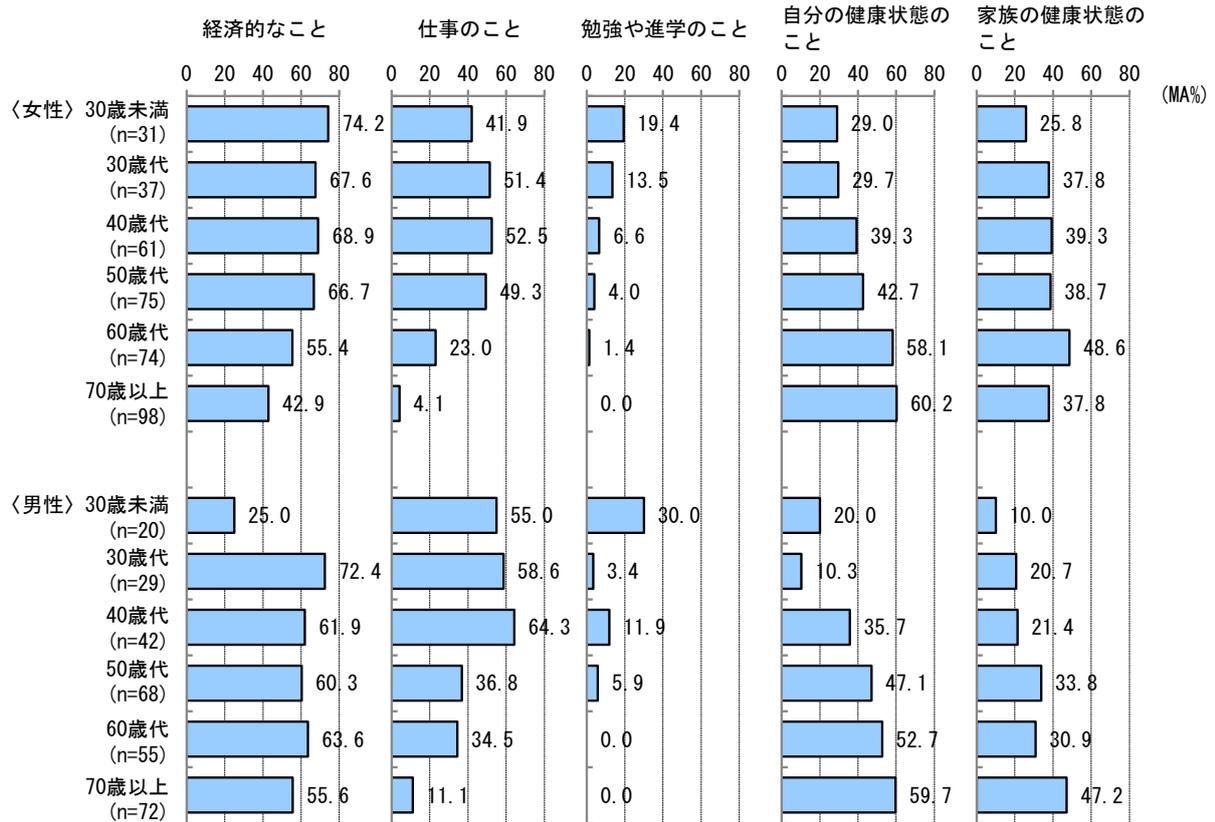
問7 あなたは、生活の中でどのようなことにストレス（不安や悩み）を感じていますか。
（あてはまるものすべてに○）

- ・全体では、「経済的なこと」が59.2%で最も多く、次いで「自分の健康状態のこと」が45.7%、「家族の健康状態のこと」が36.1%、「仕事のこと」が34.6%となっています。
- ・性別で見ると、「将来のこと」は男性（28.6%）より女性（36.1%）の方が7.5ポイント、「家族の健康状態のこと」は男性（32.1%）より女性（39.5%）の方が7.4ポイント、それぞれ高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、女性では「経済的なこと」、「勉強や進学のこと」、「恋人のこと」、「将来のこと」は30歳未満で最も高くなっています。男性では「勉強や進学のこと」、「職場・学校の人間関係のこと」、「将来のこと」は30歳未満で最も高くなっています。「自分の健康状態のこと」は男女とも60歳以上で5割から6割を占めています。

【性別】



【性別・年齢別】

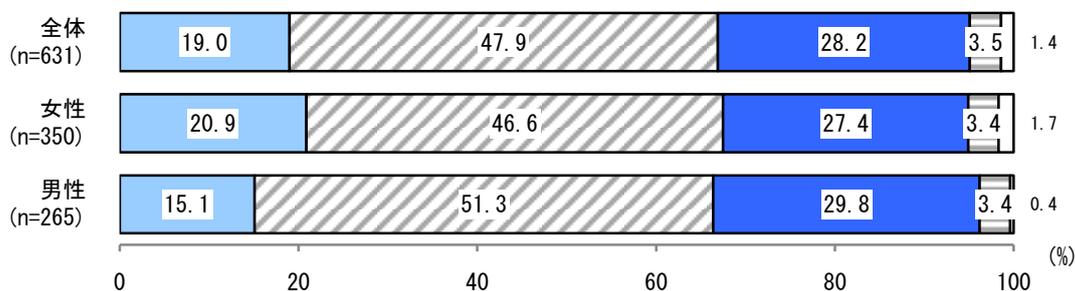


(2) ストレスによる困難度

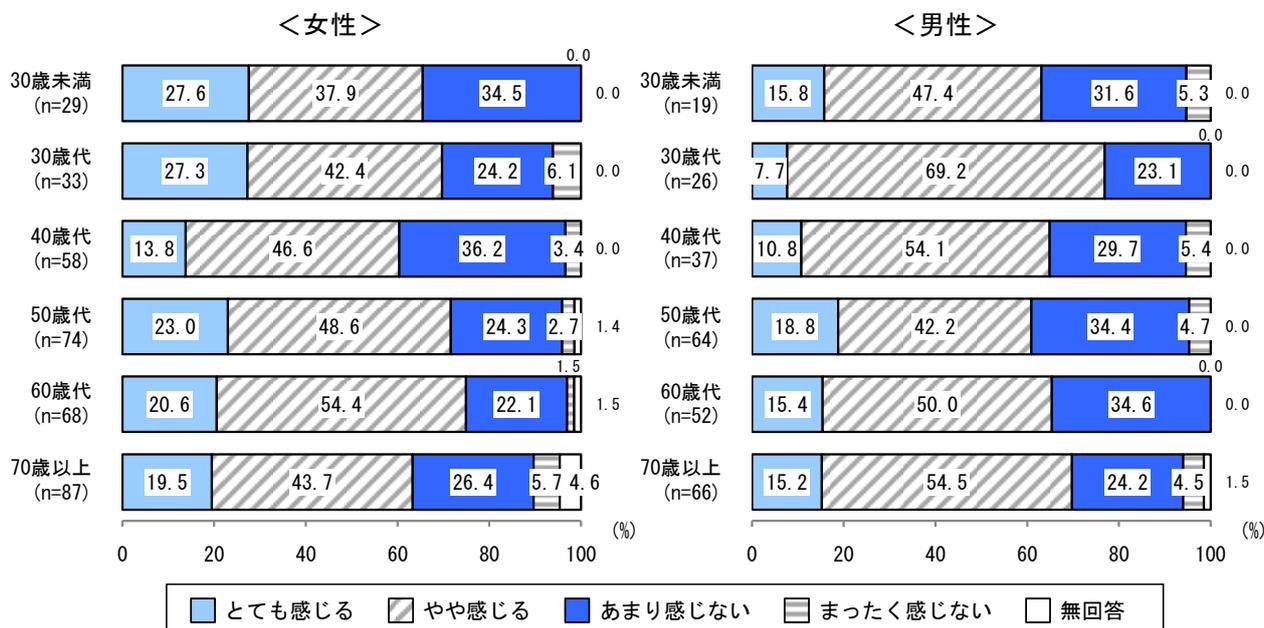
問7-1・7-2については、問7で「1」～「11」のいずれかを回答した方におたずねします。
 問7-1 ストレス（不安や悩み）で生活に困難を感じることはありますか。（○は1つ）

- ・全体では、「やや感じる」が47.9%で最も多く、次いで「あまり感じない」が28.2%、「とても感じる」が19.0%となっており、「とても感じる」と「やや感じる」をあわせた『感じる』は66.9%となっています。
- ・性別でみると、「とても感じる」は男性（15.1%）より女性（20.9%）の方が5.8ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別でみると、『感じる』の割合は、女性では60歳代が75.0%で最も高く、次いで50歳代が71.6%となっています。男性では30歳代が76.9%で最も高く、次いで70歳以上が69.7%となっています。また「とても感じる」割合は、女性の30歳代以下で高くなっています。
- ・『感じる』と回答した人の生活の中でのストレスを性別・年齢別にみると、女性では「経済的なこと」は30歳代、40歳代で9割前後を占めて高く、「仕事のこと」、「将来のこと」は40歳代以下で高くなっています。また「職場・学校の間関係のこと」は30歳代で6割以上と高くなっています。男性では「経済的なこと」は30歳代以上で6割以上と高く、「仕事のこと」は40歳代までの年代で6割から7割台と高くなっています。

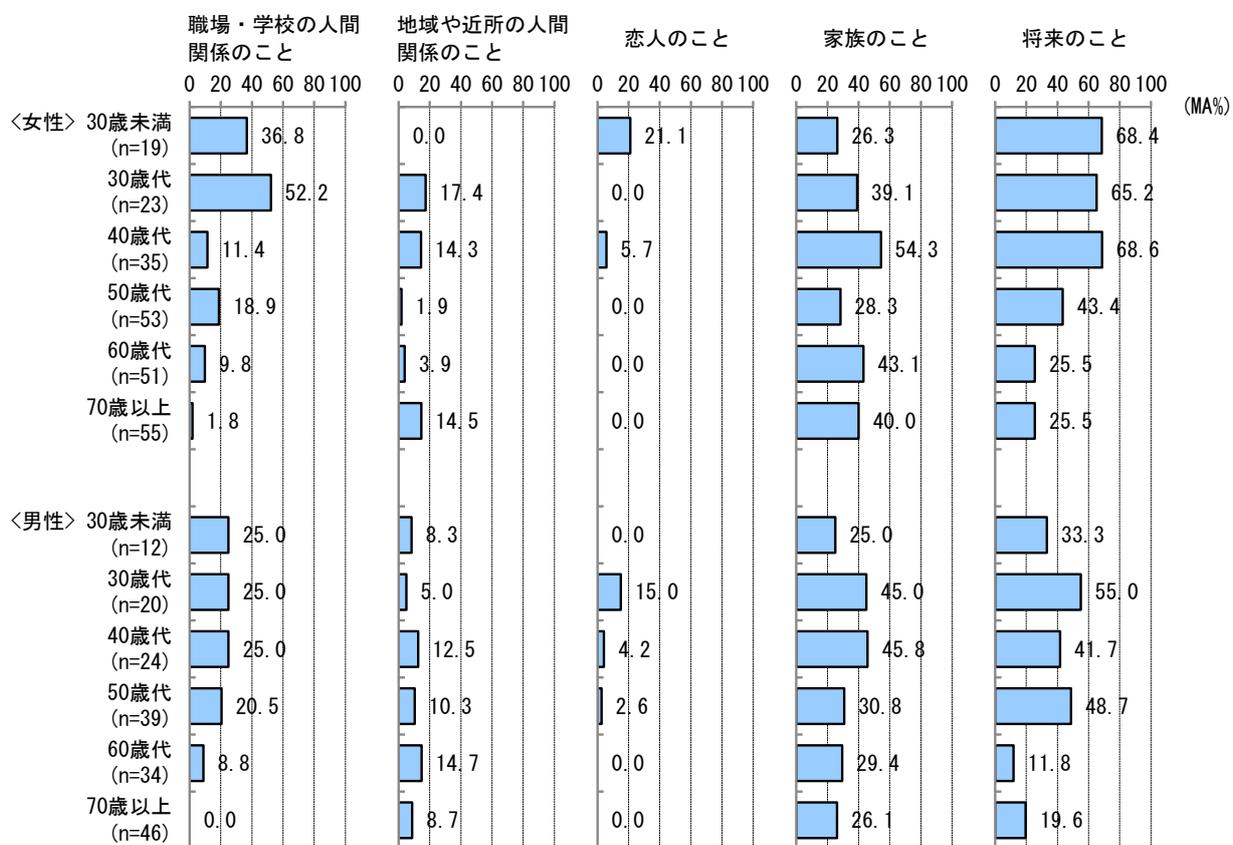
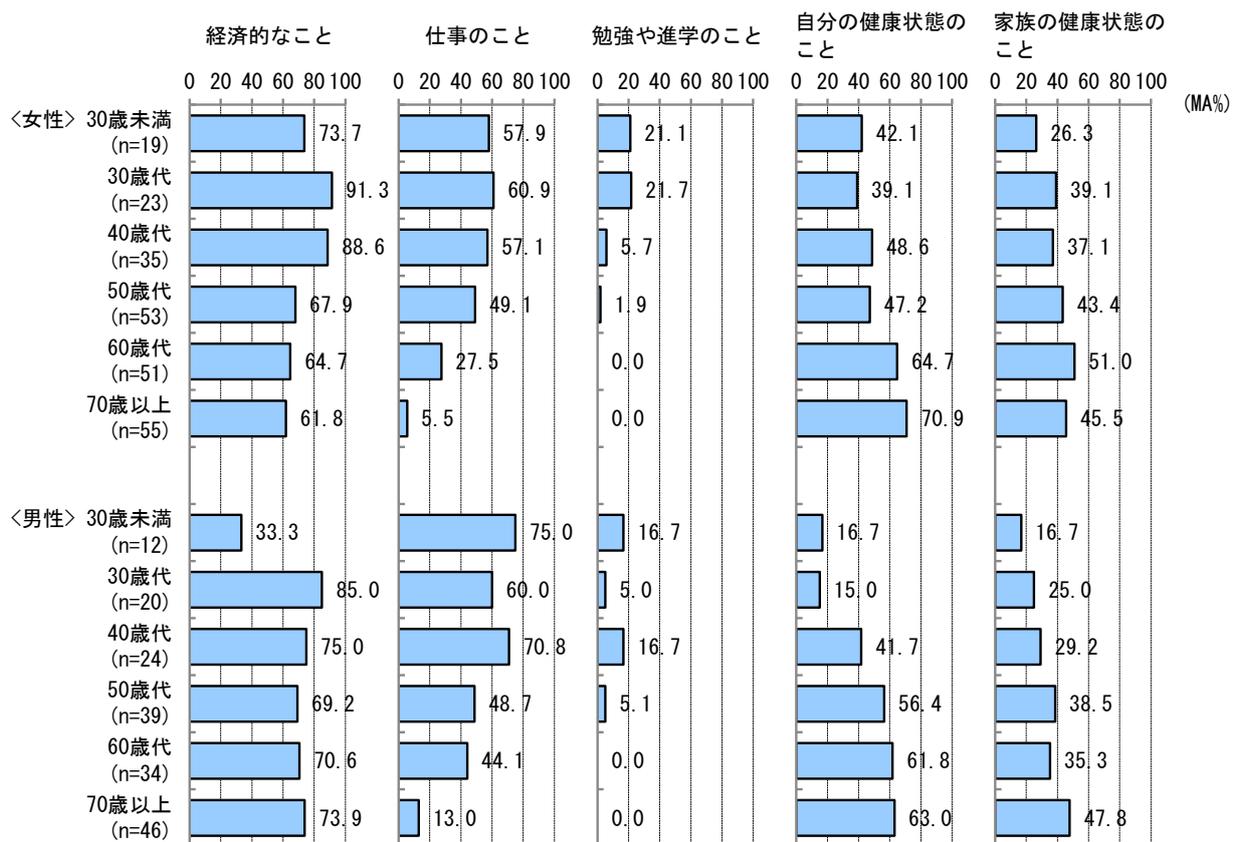
【性別】



【性別・年齢別】



【性別・年齢別 生活の中でのストレス（ストレスを『感じる』人のみ）】

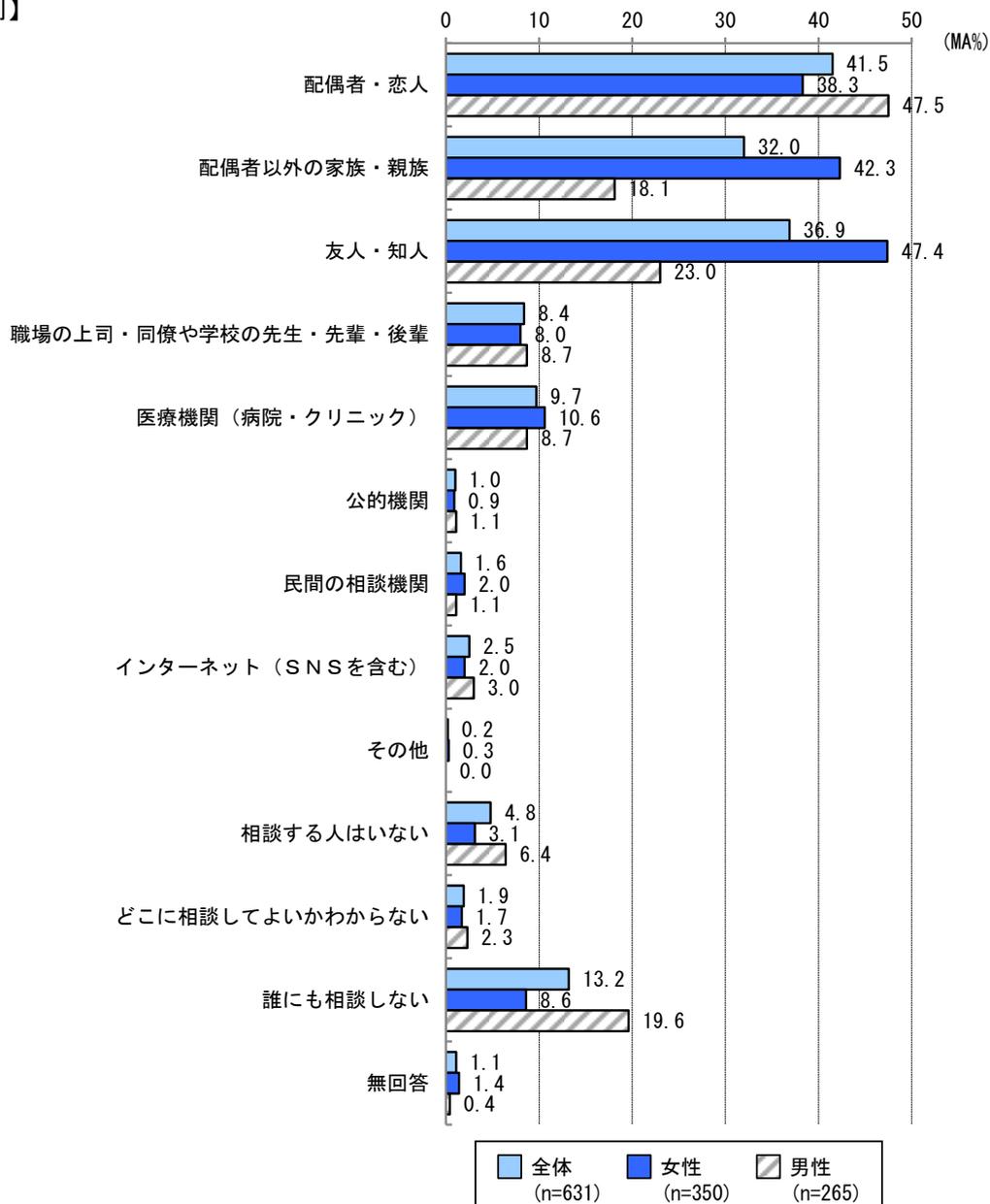


(3) ストレスについての相談相手

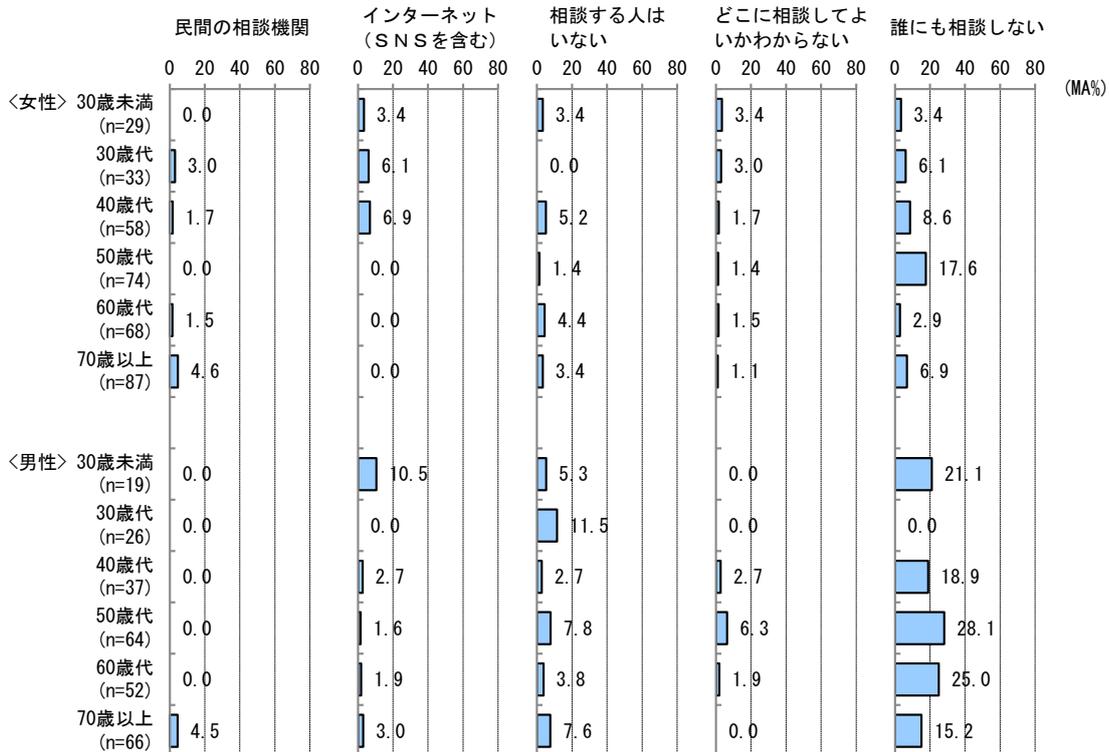
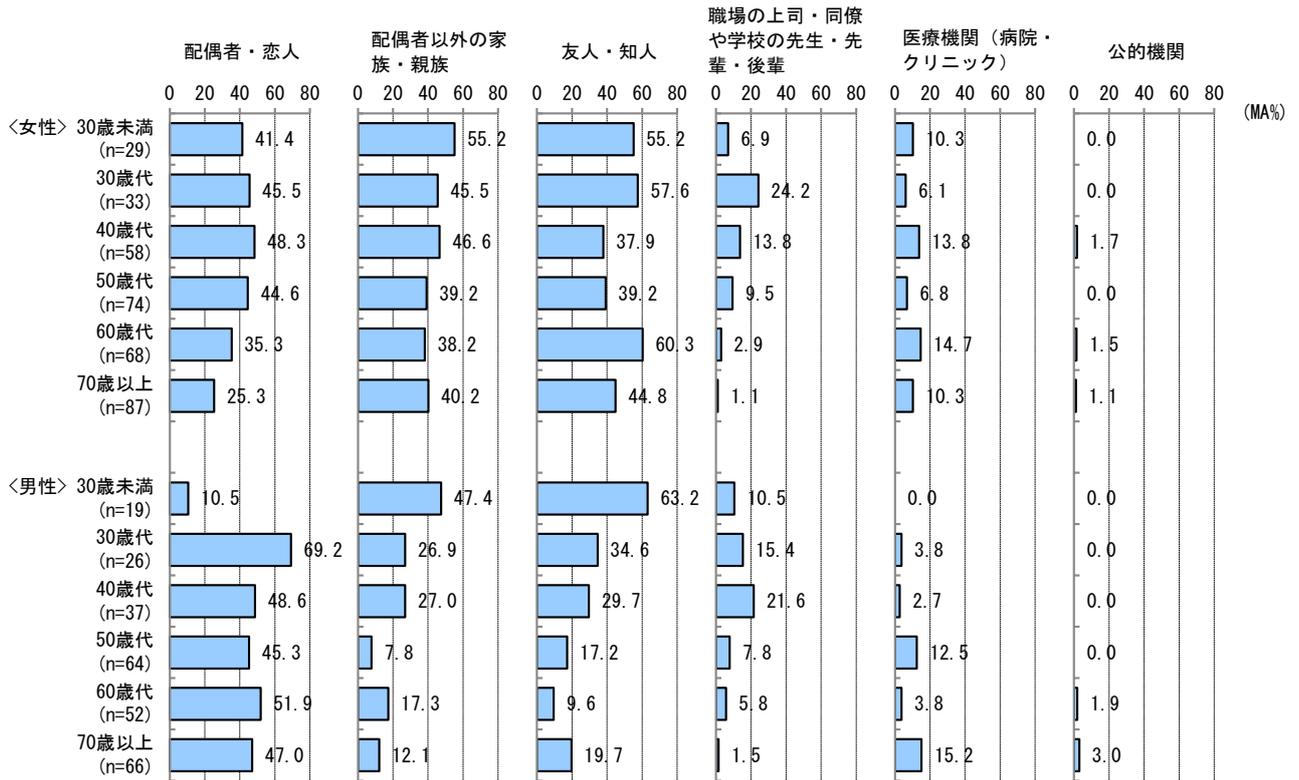
問7-2 ストレス(不安や悩み)について、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・全体では、「配偶者・恋人」が41.5%で最も多く、次いで「友人・知人」が36.9%、「配偶者以外の家族・親族」が32.0%となっています。また「公的機関」及び「民間の相談機関」より「医療機関(病院・クリニック)」が7.1ポイント高くなっています。
- ・性別で見ると、「友人・知人」は男性(23.0%)より女性(47.4%)の方が24.4ポイント、「配偶者以外の家族・親族」は男性(18.1%)より女性(42.3%)の方が24.2%ポイント、それぞれ高くなっています。一方、「誰にも相談しない」は女性(8.6%)より男性(19.6%)の方が11.0ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、30歳代男性では、「相談する人はいない」人が11.5%で最も高くなっています。「どこに相談してよいかわからない」は女性では30歳代以下、男性では40歳代、50歳代が多くなっています。

【性別】



【性別・年齢別】

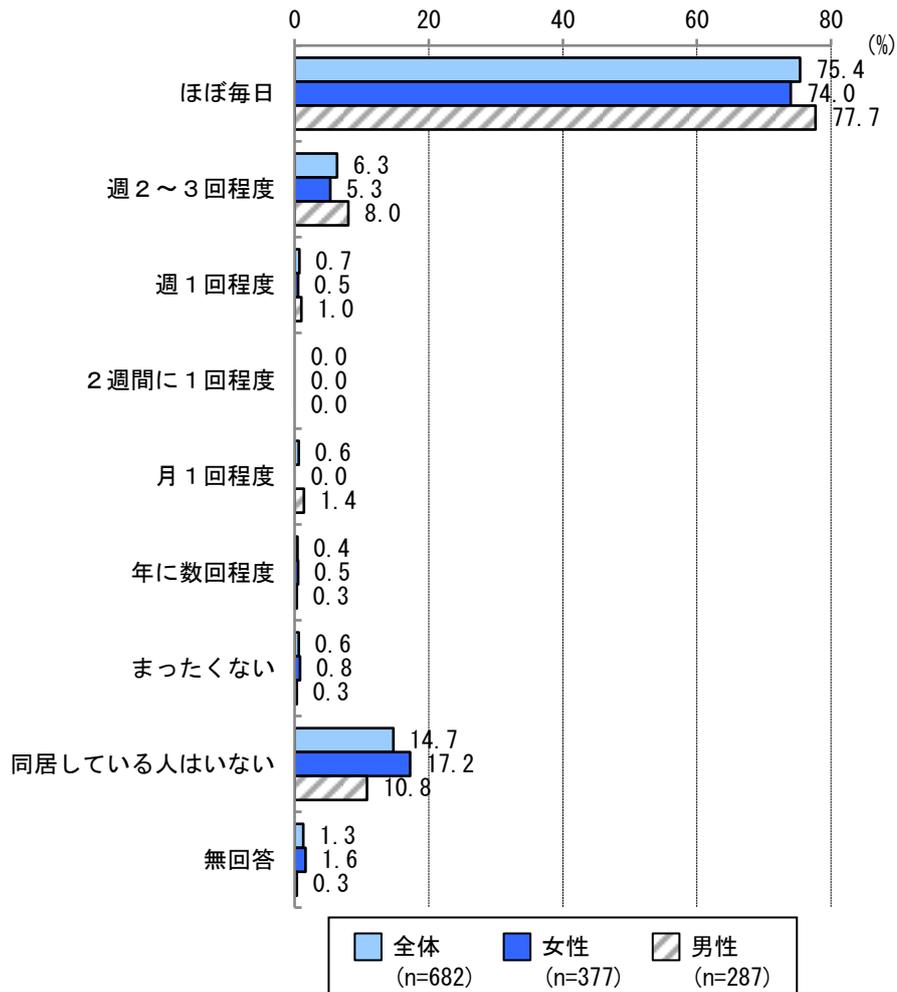


(4) 同居者とコミュニケーションをとる頻度

問8 同居している人と、会話などのコミュニケーションをどれくらいとっていますか。(〇は1つ)

- ・全体では、「ほぼ毎日」が75.4%で最も多く、次いで「同居している人はいない」が14.7%、「週2～3回程度」が6.3%となっています。
- ・性別でも、大きな差はみられません。

【性別】



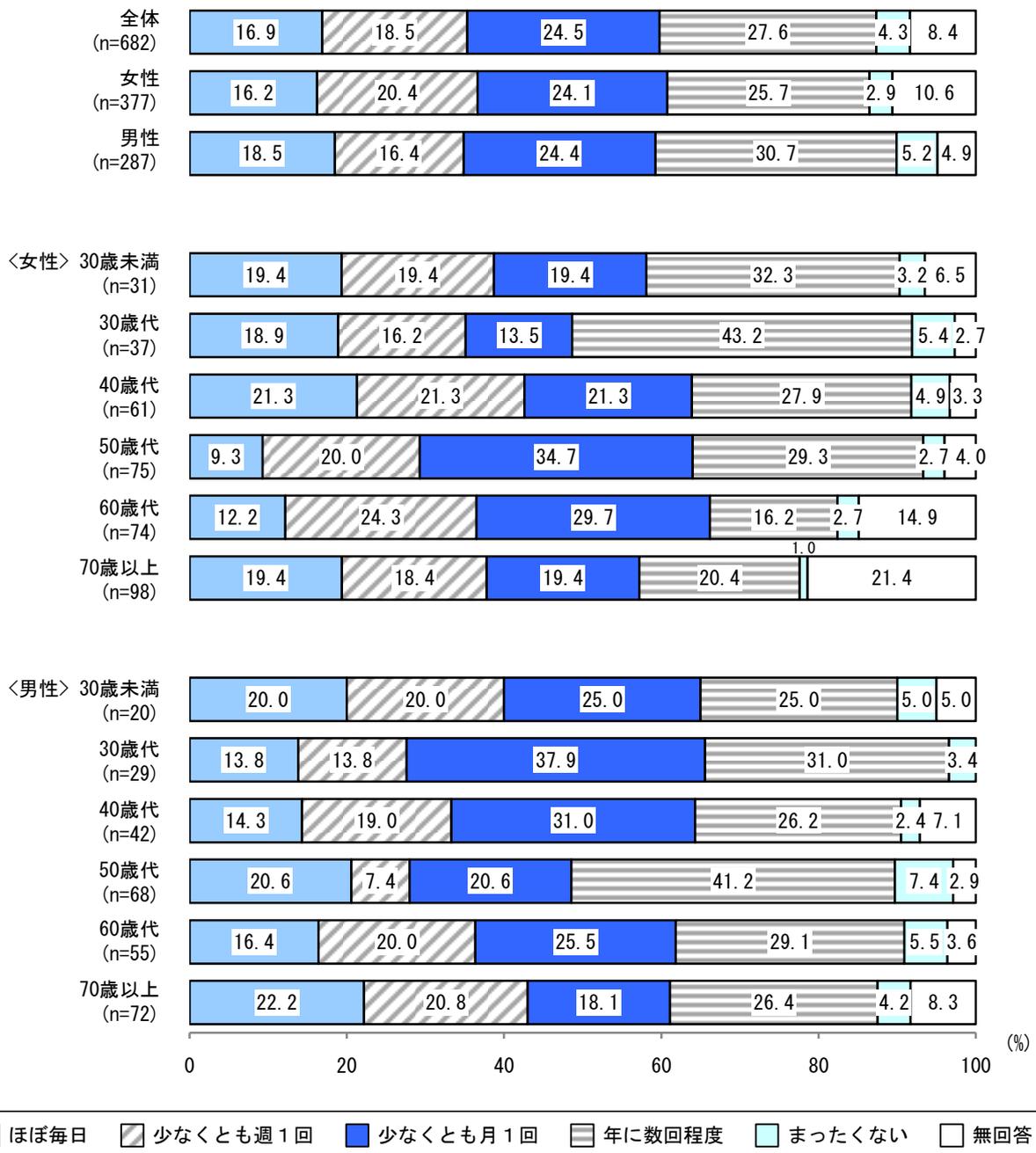
(5) 同居していない家族や友人とコミュニケーションをとる頻度

問9 同居していない家族や友人と、どれくらいコミュニケーションをとっていますか。
コミュニケーション手段別にお答えください。(それぞれ○は1つずつ)

- ・全体では、コミュニケーション頻度が「まったくない」と回答した人の割合は、“顔を合わせての会話”で4.3%、“電話”で13.9%、“SNS・メール”で8.2%となっています。
- ・性別で見ると、コミュニケーション頻度が「まったくない」と回答した人の割合は、“顔を合わせての会話”では2.3ポイント、“電話”では9.7ポイント、“SNS・メール”で8.7ポイント、男性の方が女性より高くなっています。
- ・性別・年齢別で、コミュニケーション頻度が「まったくない」と回答した人の割合をみると、“顔を合わせての会話”では女性の40歳未満、男性の50～60歳代で高くなっています。“電話”では女性の40歳未満、男性の40歳未満及び50歳代で高くなっています。“SNS・メール”では女性の30歳代及び70歳以上、男性の30歳未満及び50歳代で高くなっています。
- ・単身世帯（同居者がいない）の人のみで見ると、「まったくない」と回答した人は“電話”が8.7%で最も高く、次いで“SNS・メール”となっています。

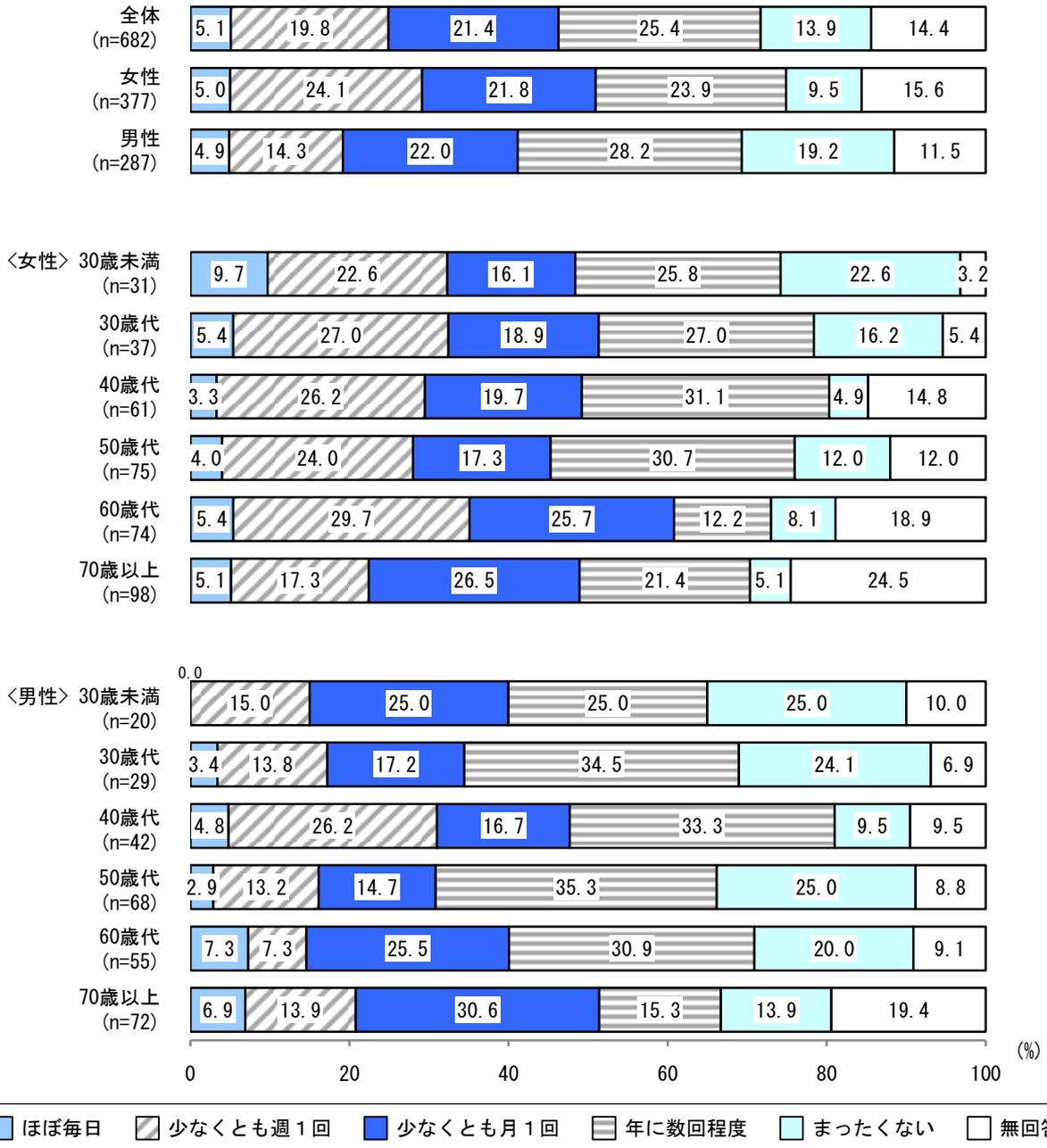
【性別・年齢別】

■顔を合わせての会話



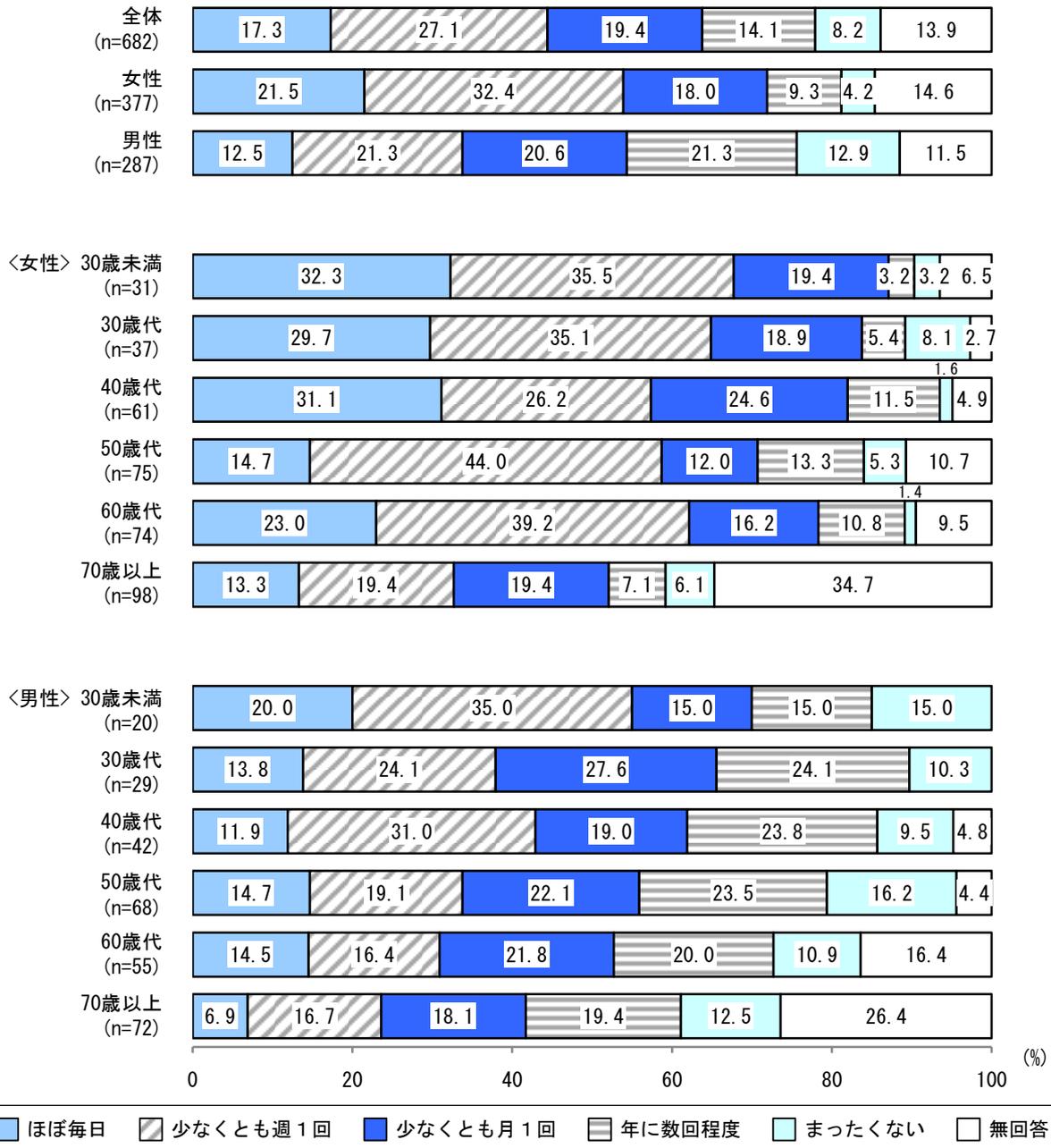
【性別・年齢別】

■電話

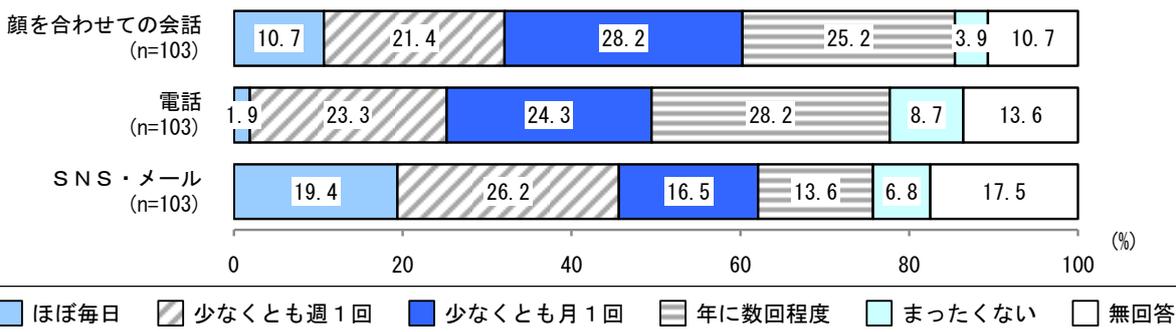


【性別・年齢別】

■ SNS・メール



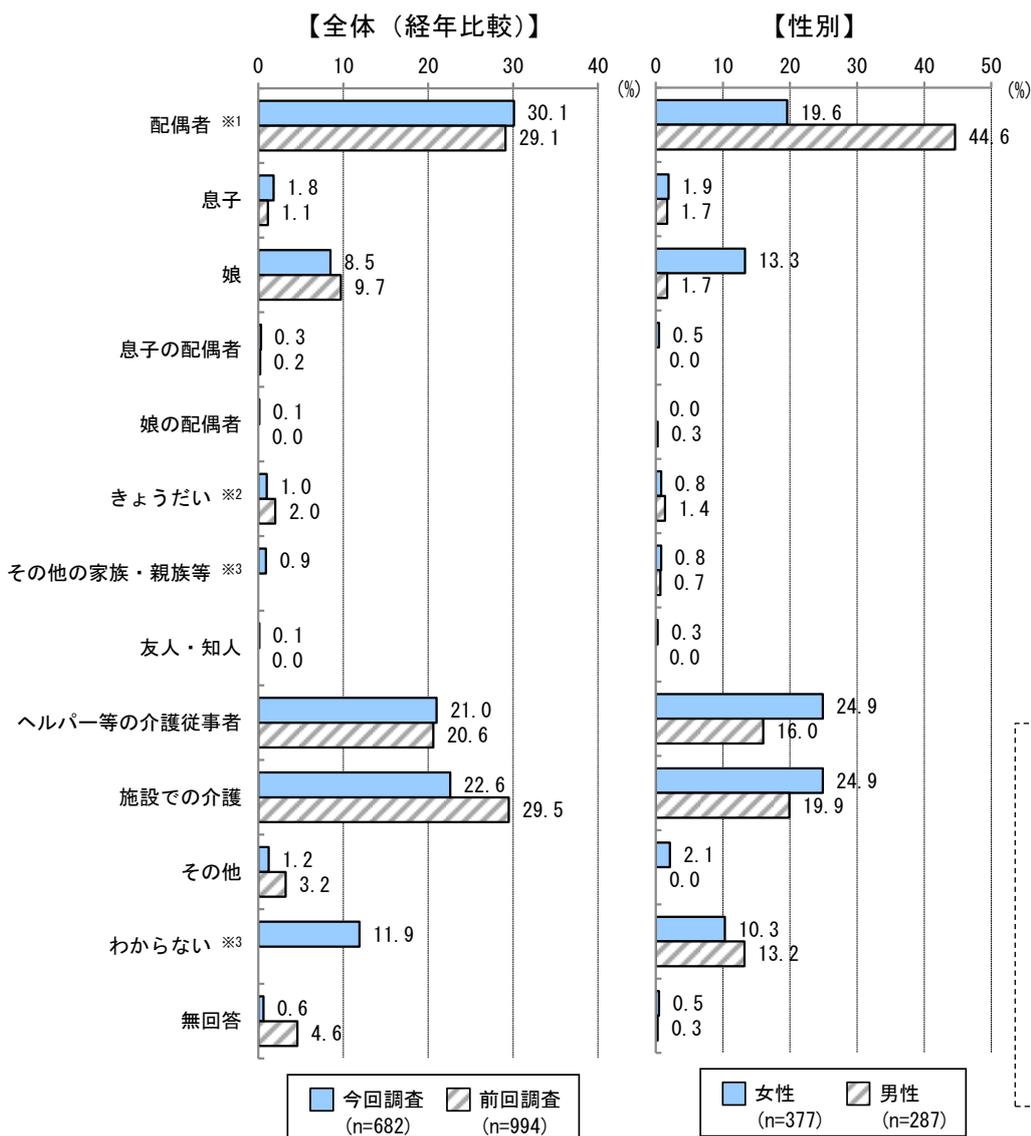
【単身世帯（同居者がいない）】



(6) 要介護状態になった場合に介護をしてもらいたい相手

問10 もしあなたご自身が介護を要する状態になった場合、主に誰に介護をしてもらいたいですか。(〇は1つ)

- ・全体では、「配偶者」が30.1%で最も多く、次いで「施設での介護」が22.6%、「ヘルパー等の介護従事者」が21.0%、「娘」が8.5%となっています。
- ・前回調査と比較すると、「施設での介護」が前回調査より6.9ポイント低くなっています。
- ・性別で見ると、女性では「ヘルパー等の介護従事者」と「施設での介護」がともに24.9%で最も多くなっています。男性では「配偶者」が44.6%で最も多く、女性（19.6%）より25.0ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、女性の70歳未満は「施設での介護」が1位であり、70歳以上は「ヘルパー等の介護従事者」が1位です。女性の30歳未満では「施設での介護」と同率で「配偶者」が1位です。女性の70歳以上は、「娘」が2位となっています。男性では30歳未満は「施設での介護」が1位ですが、30歳以上は「配偶者」が1位です。
- ・世帯収入別で見ると、「娘」と「ヘルパー等の介護従事者」は“収入はない”世帯で最も高く、「配偶者」と「施設での介護」は300万円以上の世帯で高くなっています。

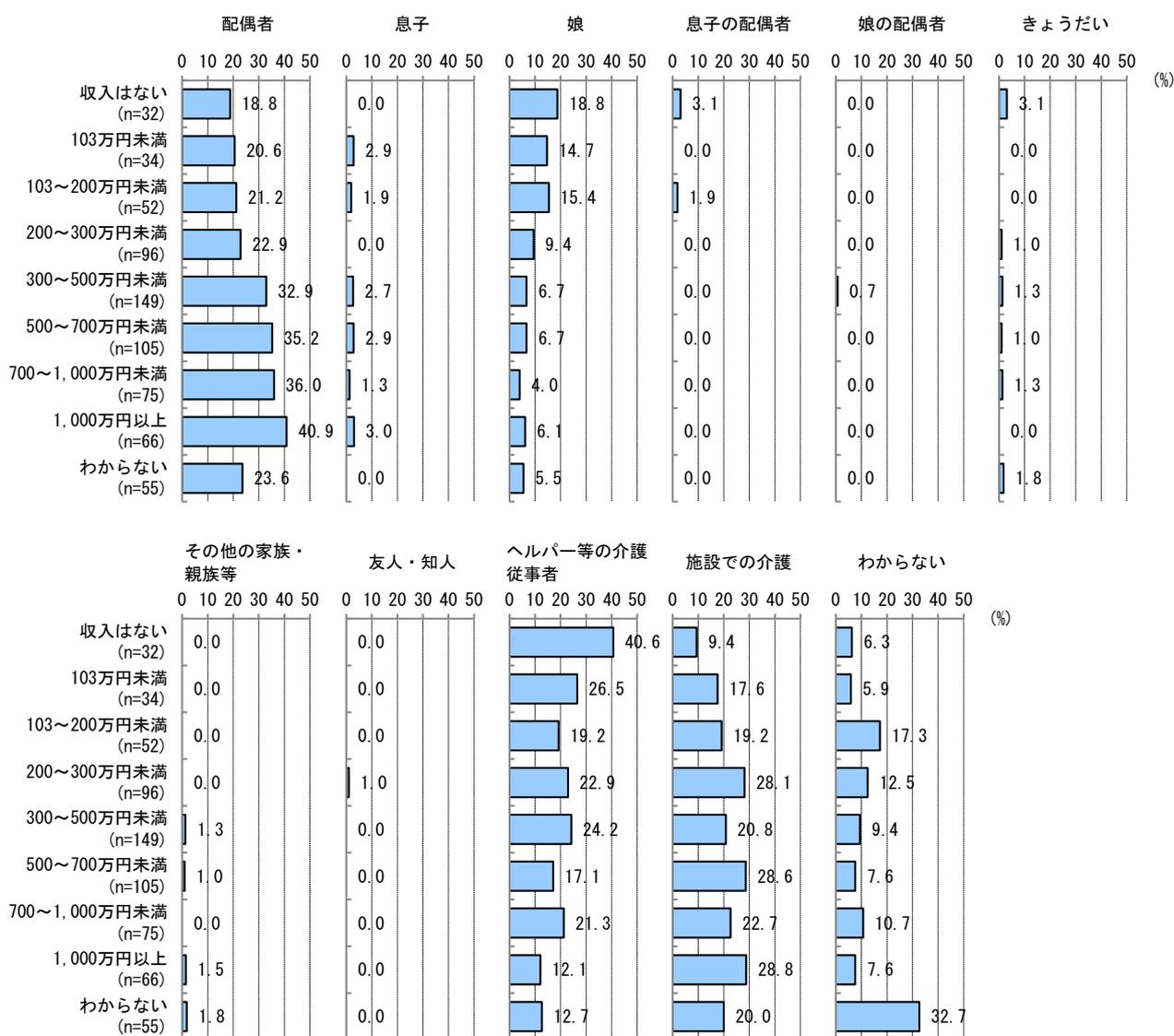


※1 今回調査の「配偶者」は、前回調査の「夫」と「妻」の計。
 ※2 今回調査の「きょうだい」は、前回調査の「兄弟」と「姉妹」の計。
 ※3 「その他の家族・親族等」、「わからない」は新規項目。

【性別・年齢別】

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=682)		配偶者	施設での介護	ヘルパー等の介護従事者
女性	30歳未満 (n=31)	配偶者／施設での介護		ヘルパー等の介護従事者
	30歳代 (n=37)	施設での介護	配偶者	
	40歳代 (n=61)		ヘルパー等の介護従事者	配偶者
	50歳代 (n=75)			娘
	60歳代 (n=74)		配偶者	
	70歳以上 (n=98)	ヘルパー等の介護従事者	娘	配偶者
男性	30歳未満 (n=20)	施設での介護	配偶者	ヘルパー等の介護従事者
	30歳代 (n=29)	配偶者	施設での介護	
	40歳代 (n=42)		ヘルパー等の介護従事者	施設での介護
	50歳代 (n=68)		施設での介護	ヘルパー等の介護従事者
	60歳代 (n=55)		ヘルパー等の介護従事者	施設での介護
	70歳以上 (n=72)		施設での介護	ヘルパー等の介護従事者

【世帯収入別】



4. 子どもの育て方や教育について

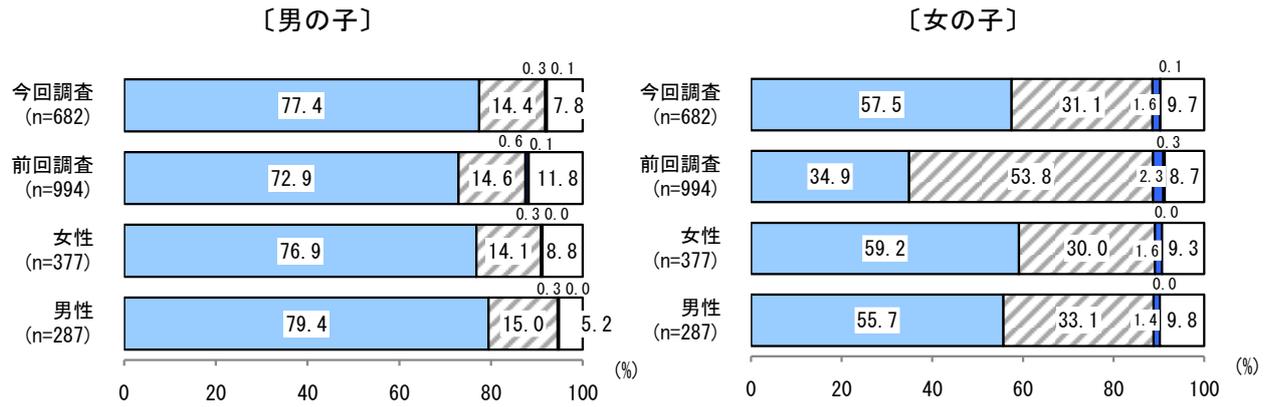
(1) 子どもに身につけてほしいこと

問11 あなたは、次のことについて、子どもにどのくらい身につけてほしいと思いますか。
(項目ごとに○は1つずつ) ※子どものいない方も仮にしていると想定してお答えください。

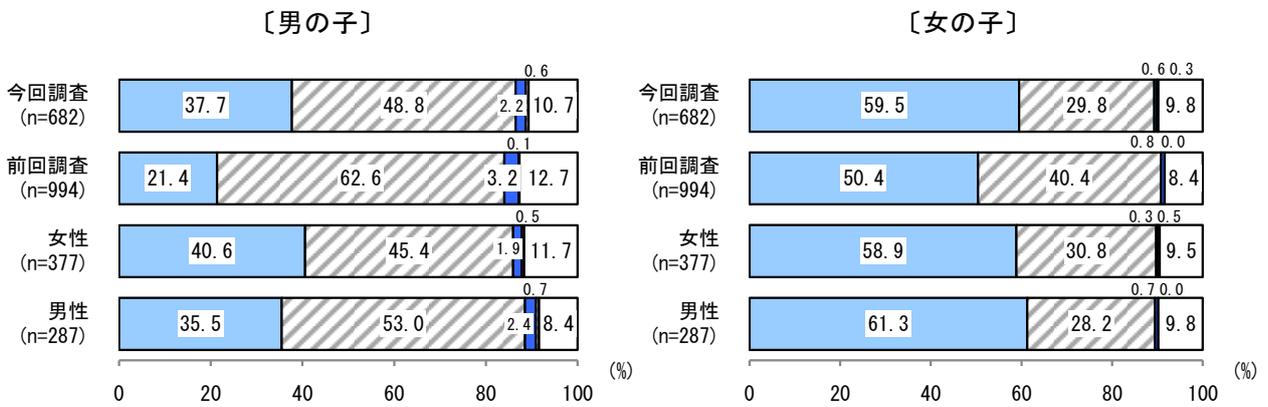
- ・全体では、子どもに身につけてほしいこととして、「必ず身につけるべき」の割合は、女の子の場合、“家事・育児の能力” > “困った時に助けを求める力” > “自立できる経済力” > “家族や周囲の人と協調して円滑に暮らす力” > “自分の意思によって社会とかかわる力”の順です。
男の子の場合、“自立できる経済力” > “家族や周囲の人と協調して円滑に暮らす力” > “困った時に助けを求める力” > “自分の意思によって社会とかかわる力” > “家事・育児の能力”の順です。
- ・前回調査と比較すると、「必ず身につけるべき」の割合は、女の子では“自立できる経済力”が22.6ポイント高くなっています。男の子では“家事・育児の能力”が16.3ポイント高くなっています。
- ・性別でみると、女の子では「必ず身につけるべき」は、“困った時に助けを求める力”が男性より女性のほうが5.9ポイント高くなっています。“リーダーシップ”は「あまり身につけなくてよい」「身につけなくてよい」が女性より男性のほうが6.3ポイント高くなっています。
男の子では「必ず身につけるべき」は、“困った時に助けを求める力”が男性より女性のほうが8.2ポイント、“家事・育児の能力”が男性より女性のほうが5.1ポイント、それぞれ高くなっています。
- ・性別・年齢別でみると、「必ず身につけるべき」については、女の子では、“自立できる経済力”は女性の40歳代で、“リーダーシップ”は女性の30歳未満で、“個性を伸ばすこと”、“自分の意思によって社会とかかわる力”は女性の30歳代で最も高くなっています。また男性では、“自立できる経済力”、“リーダーシップ”、“個性を伸ばすこと”、“自分の意思によって社会とかかわる力”はいずれも30歳未満で最も高くなっています。男女ともに70歳以上では、“自立できる経済力”について「必ず身につけるべき」とする意見が少なくなっています。
男の子では、“家事・育児の能力”では女性の30歳未満、“困った時に助けを求める力”はいずれも女性の30歳代で最も高くなっています。男性では“困った時に助けを求める力”は30歳未満、“家事・育児の能力”では40歳代で最も高くなっています。
男女ともに70歳以上では、女の子・男の子問わず、“困った時に助けを求める力”について「必ず身につけるべき」とする意見が少なくなっています。

※ “リーダーシップ”、“自分の意思によって社会とかかわる力”、“困った時に助けを求める力”は今回調査の新規設問であるため、前回調査との比較はありません。

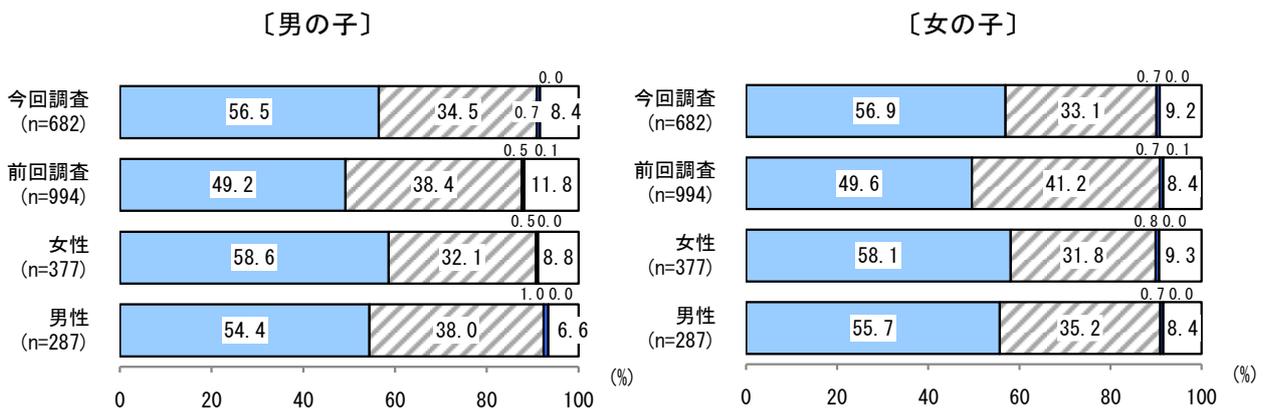
■自立できる経済力



■家事・育児の能力

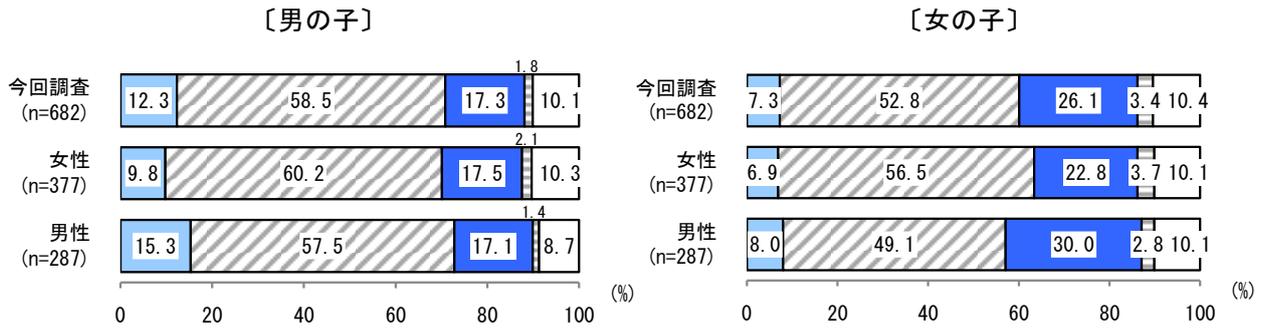


■家族や周囲の人と協調して円滑に暮らす力

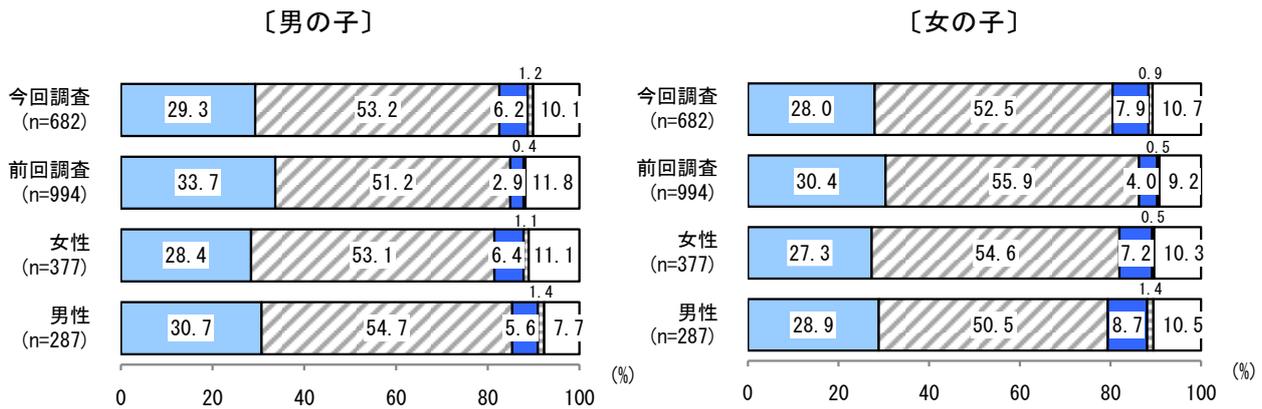


必ず身につけるべき
 できれば身につけてほしい
 あまり身につけなくてよい
 身につけなくてよい
 無回答

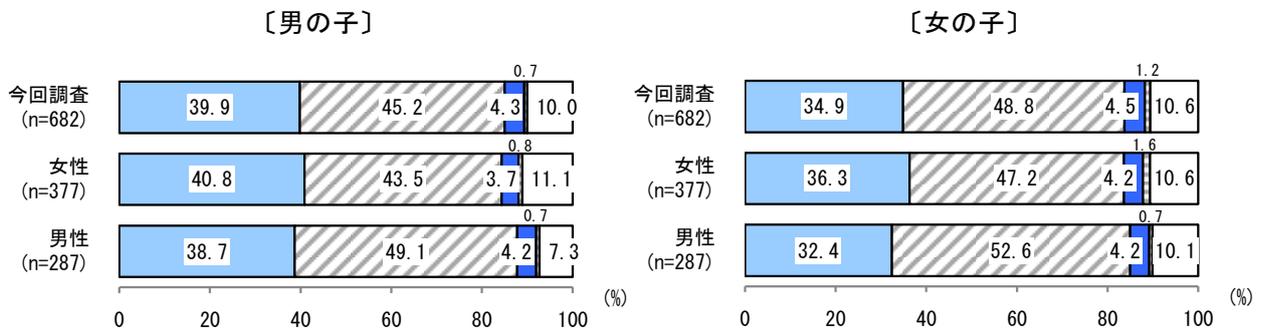
■リーダーシップ



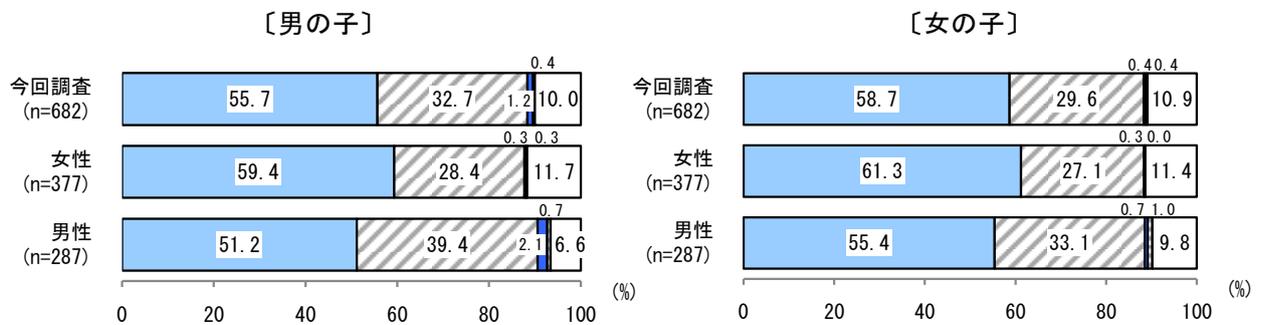
■個性を伸ばすこと



■自分の意思によって社会とかかわる力



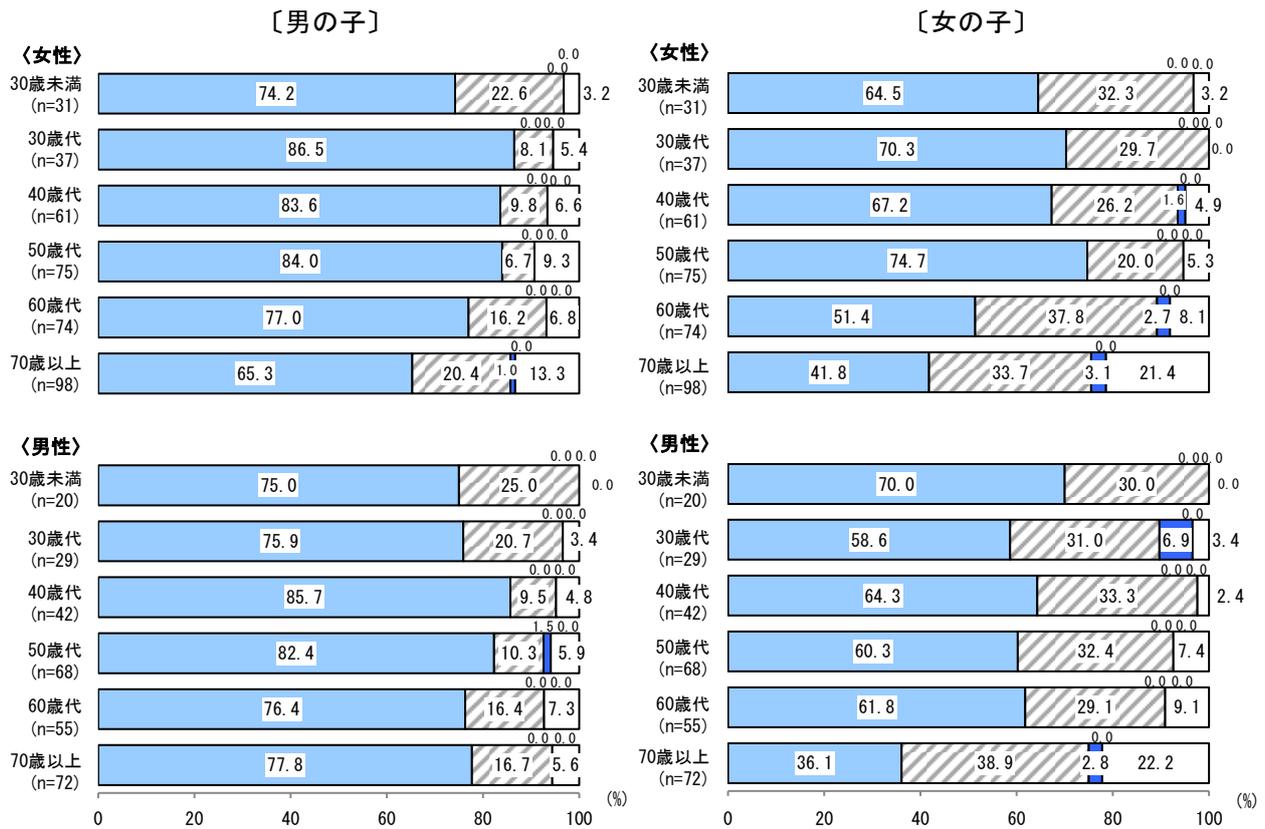
■困った時に助けを求める力



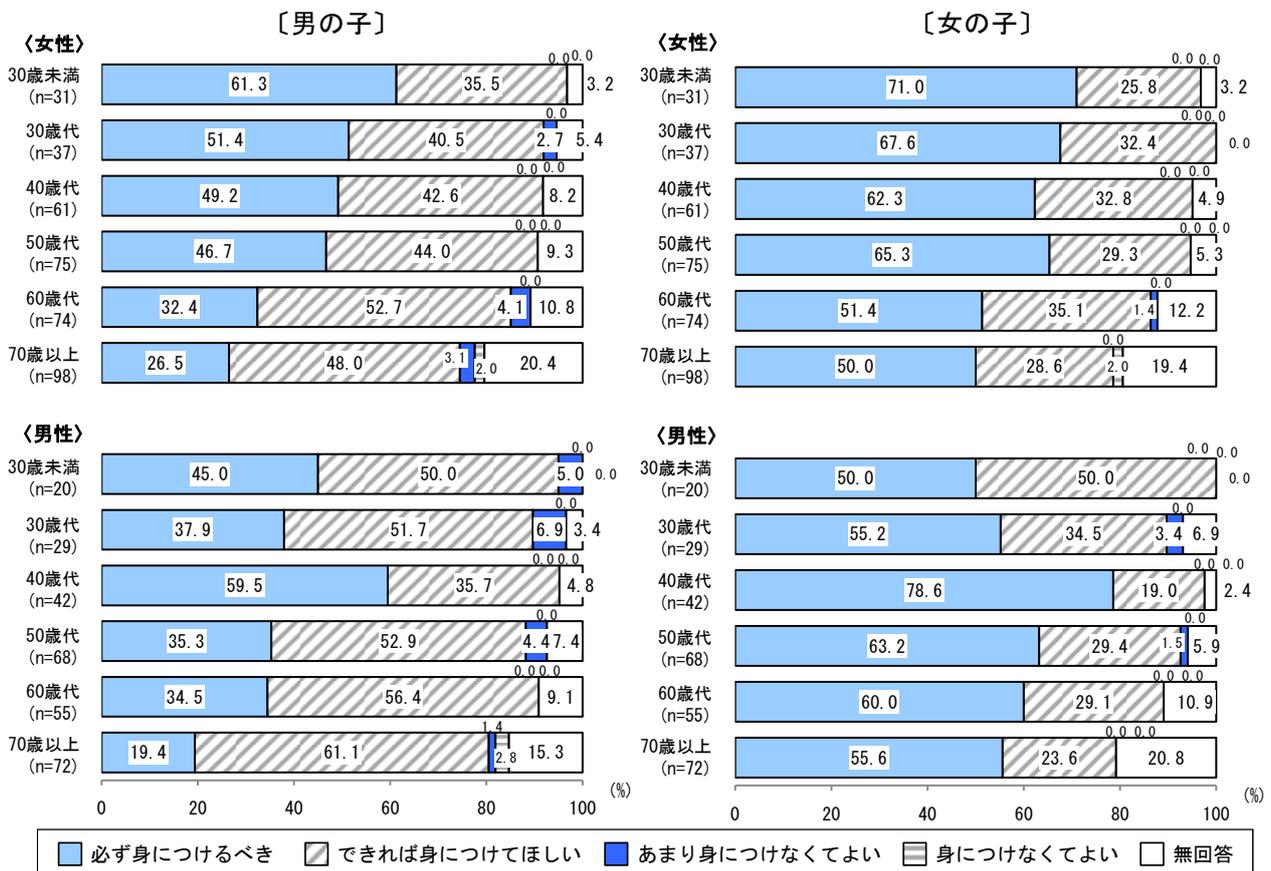
必ず身につけるべき
 できれば身につけてほしい
 あまり身につけなくてよい
 身につけなくてよい
 無回答

【性別・年齢別①】

■自立できる経済力

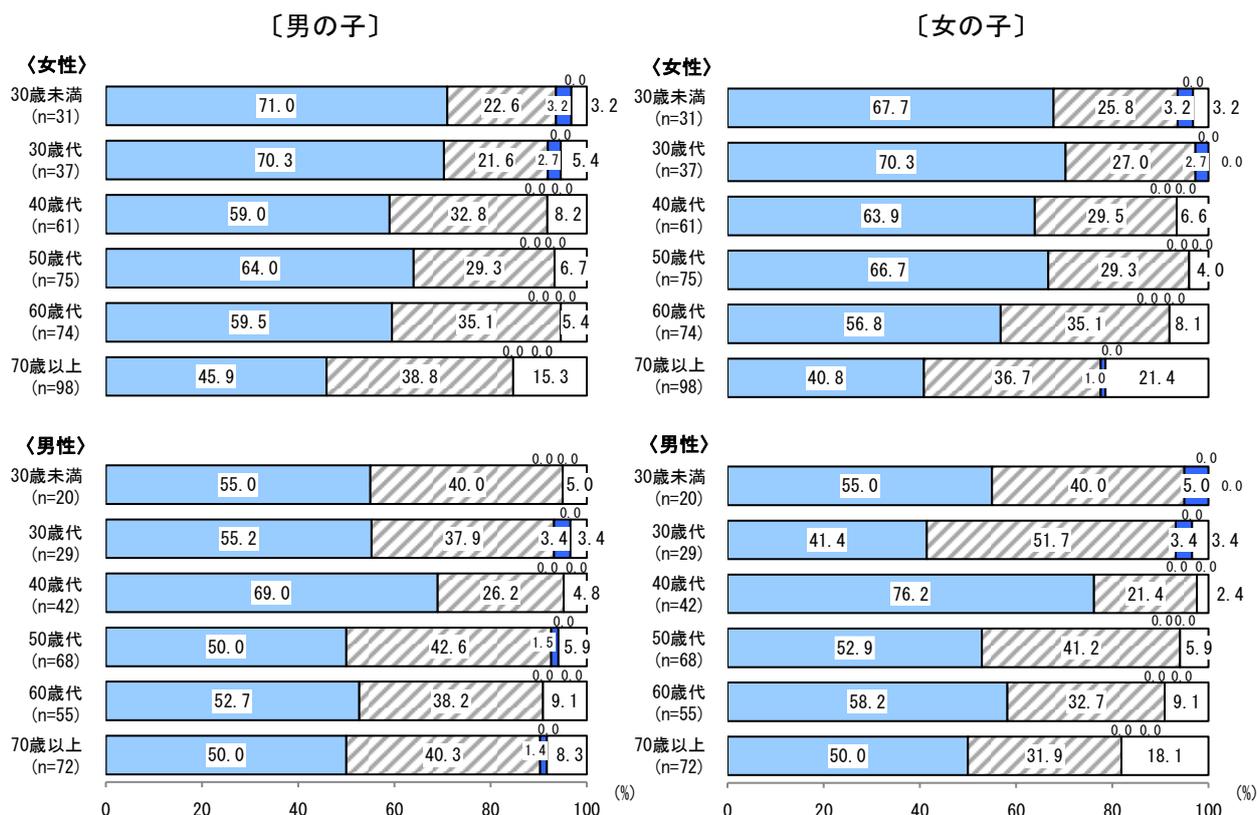


■家事・育児の能力

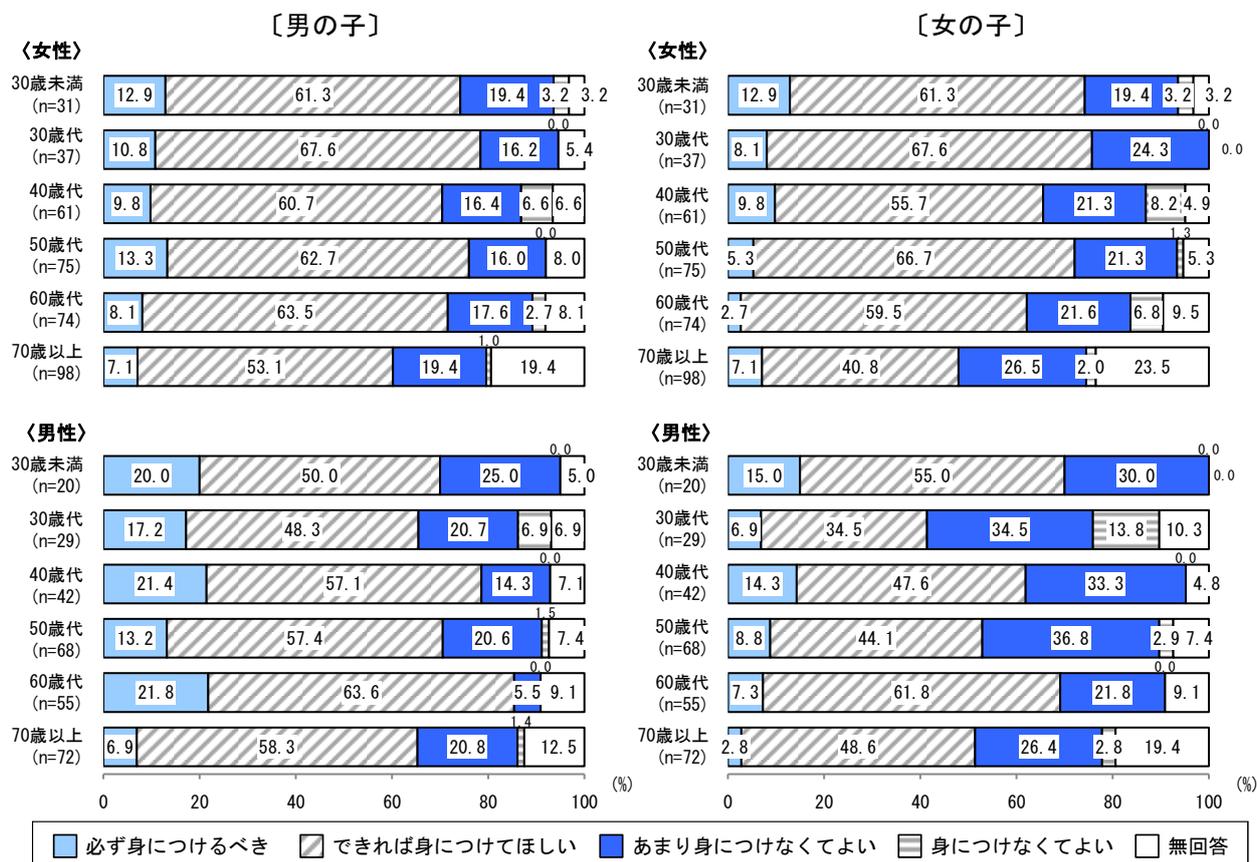


【性別・年齢別②】

■ 家族や周囲の人と協調して円滑に暮らす力

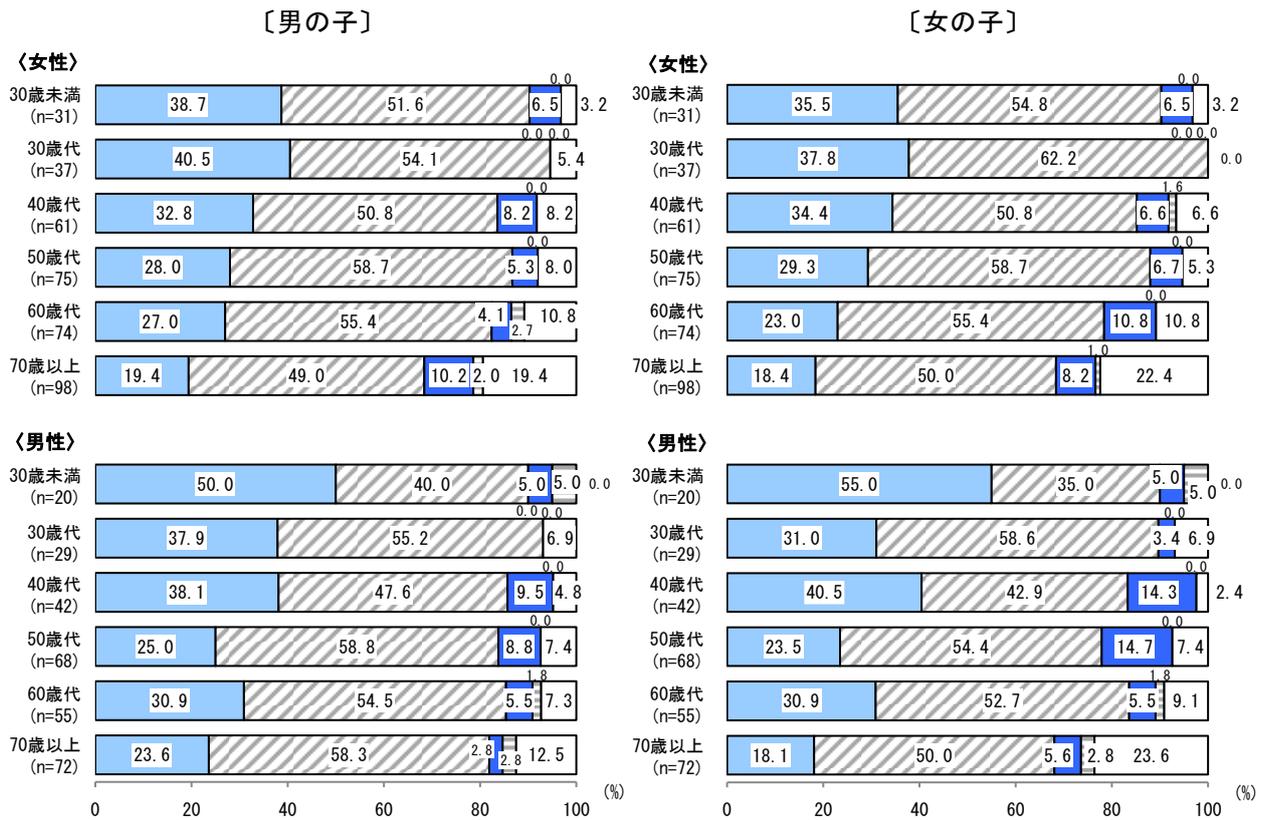


■ リーダーシップ

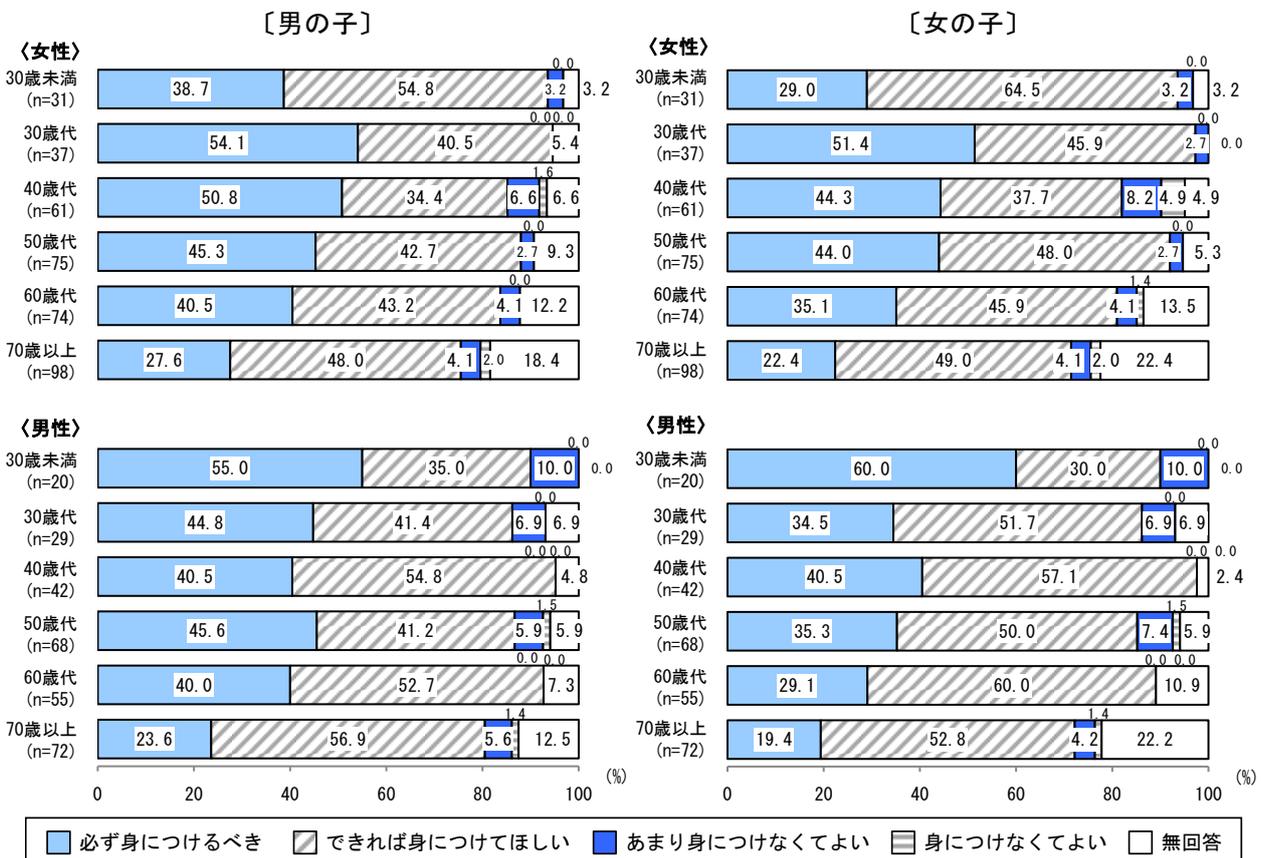


【性別・年齢別③】

■個性を伸ばすこと



■自分の意思によって社会とかがわる力

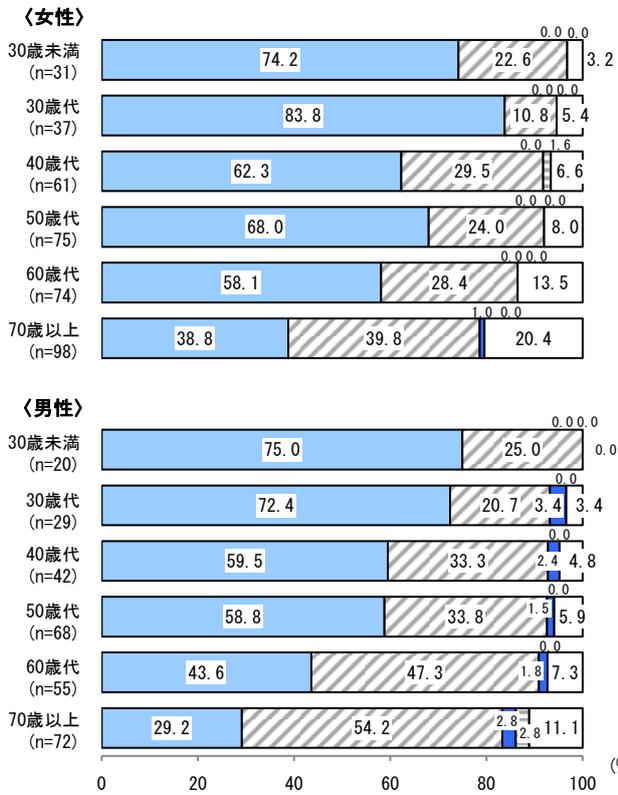


必ず身につけるべき
 できれば身につけてほしい
 あまり身につけなくてよい
 身につけなくてよい
 無回答

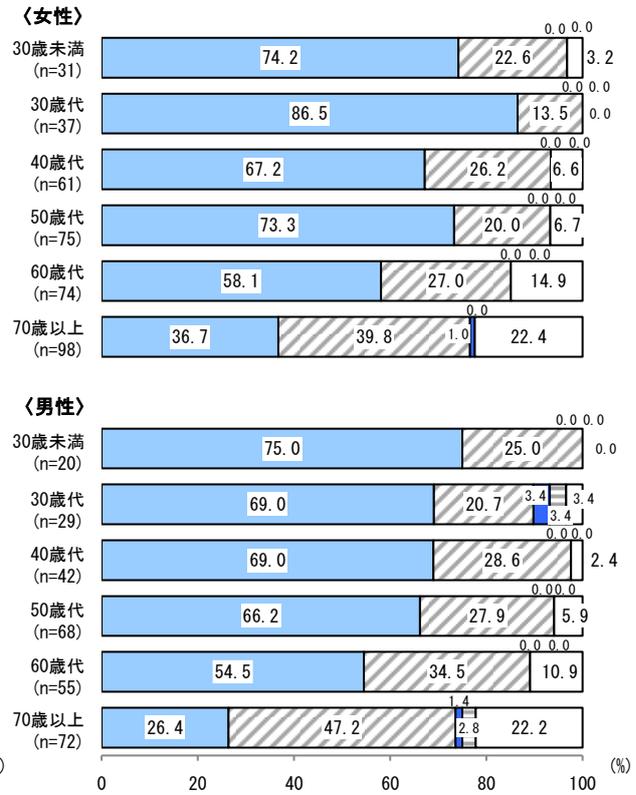
【性別・年齢別④】

■ 困った時に助けを求める力

〔男の子〕



〔女の子〕



必ず身につけるべき
 できれば身につけてほしい
 あまり身につけなくてよい
 身につけなくてよい
 無回答

(2) 男女共同参画社会を進めるために、保育・教育事業で重要な取り組み

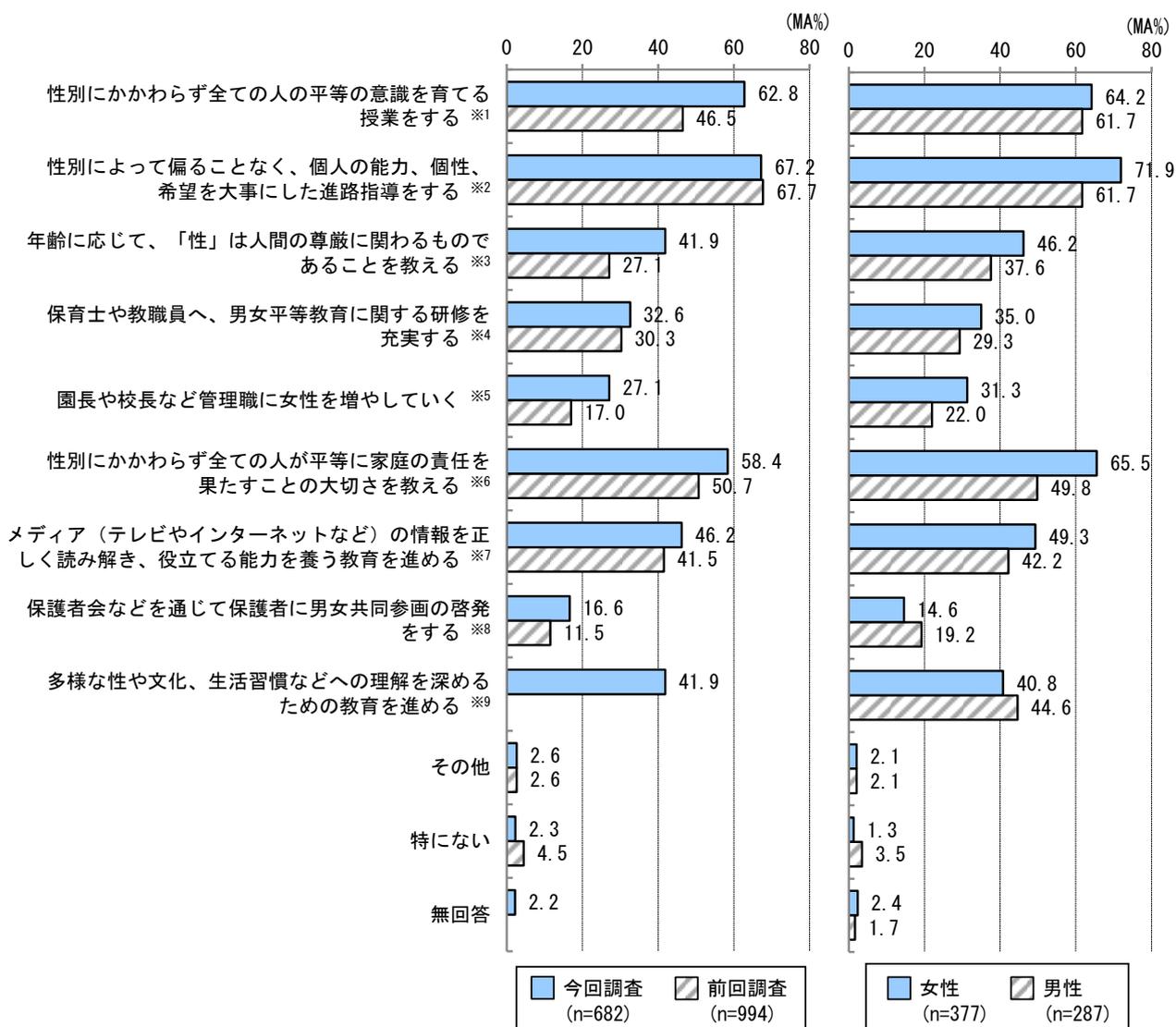
問12 男女共同参画社会を進めるために、保育施設・幼稚園・小学校・中学校※でどのような取り組みが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・全体では、「性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」が67.2%で最も多く、次いで「性別にかかわらず全ての人の平等の意識を育てる授業をする」が62.8%、「性別にかかわらず全ての人が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」が58.4%で、いずれも5割を超えています。
- ・前回調査と比較すると、順位はほぼ同様に、また今回調査では、ほとんどの選択肢の割合が高くなっています。
- ・性別で見ると、女性では「性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」が71.9%で最も高く、男性では「性別にかかわらず全ての人の平等の意識を育てる授業をする」と「性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」がともに61.7%で最も高くなっています。また、「性別にかかわらず全ての人が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」は男性(49.8%)より女性(65.5%)の方が15.7ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、男女ともに40歳代以下で「保育士や教職員へ、男女平等教育に関する研修を充実する」、「園長や校長など管理職に女性を増やしていく」、「メディア(テレビやインターネットなど)の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める」、「多様な性や文化、生活習慣などへの理解を深めるための教育を進める」で高くなっており、指導者への教育、管理職への女性参画、メディア報道の受け取り方や多文化理解に関心が強いことがうかがえます。

※ 前回調査では「小学校・中学校」でした。

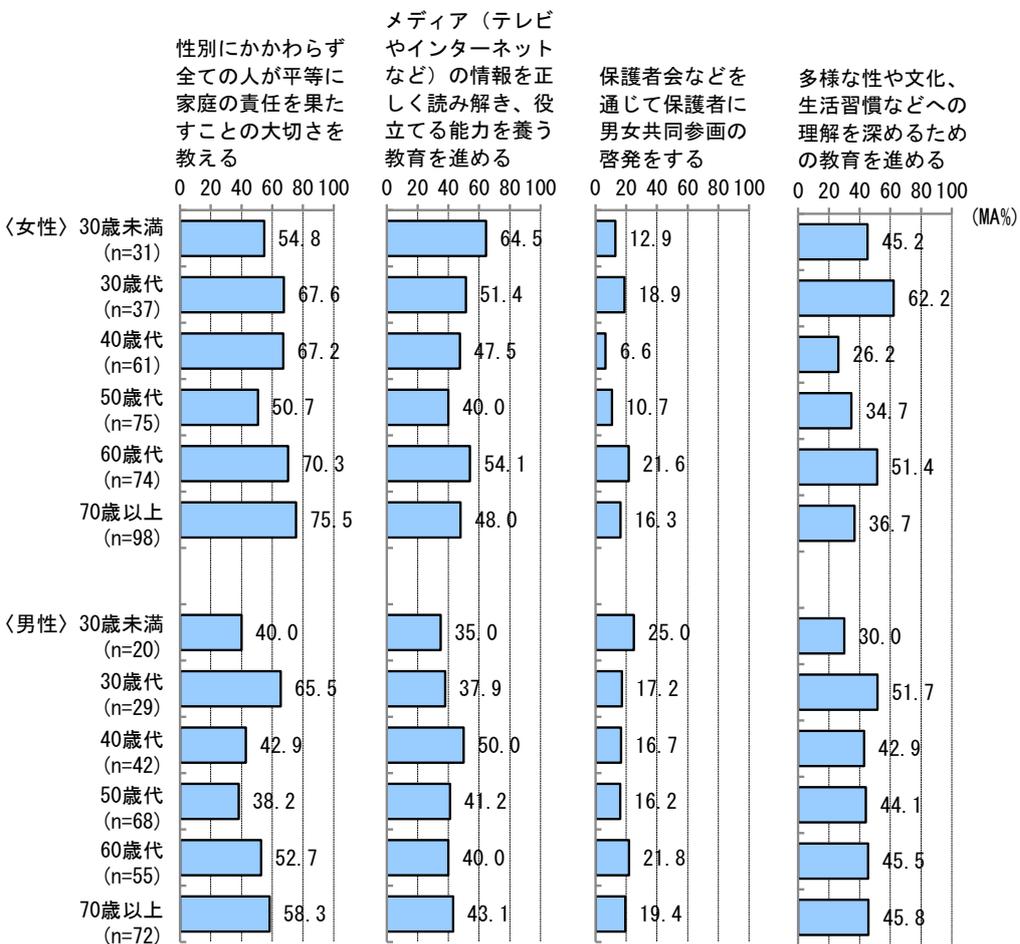
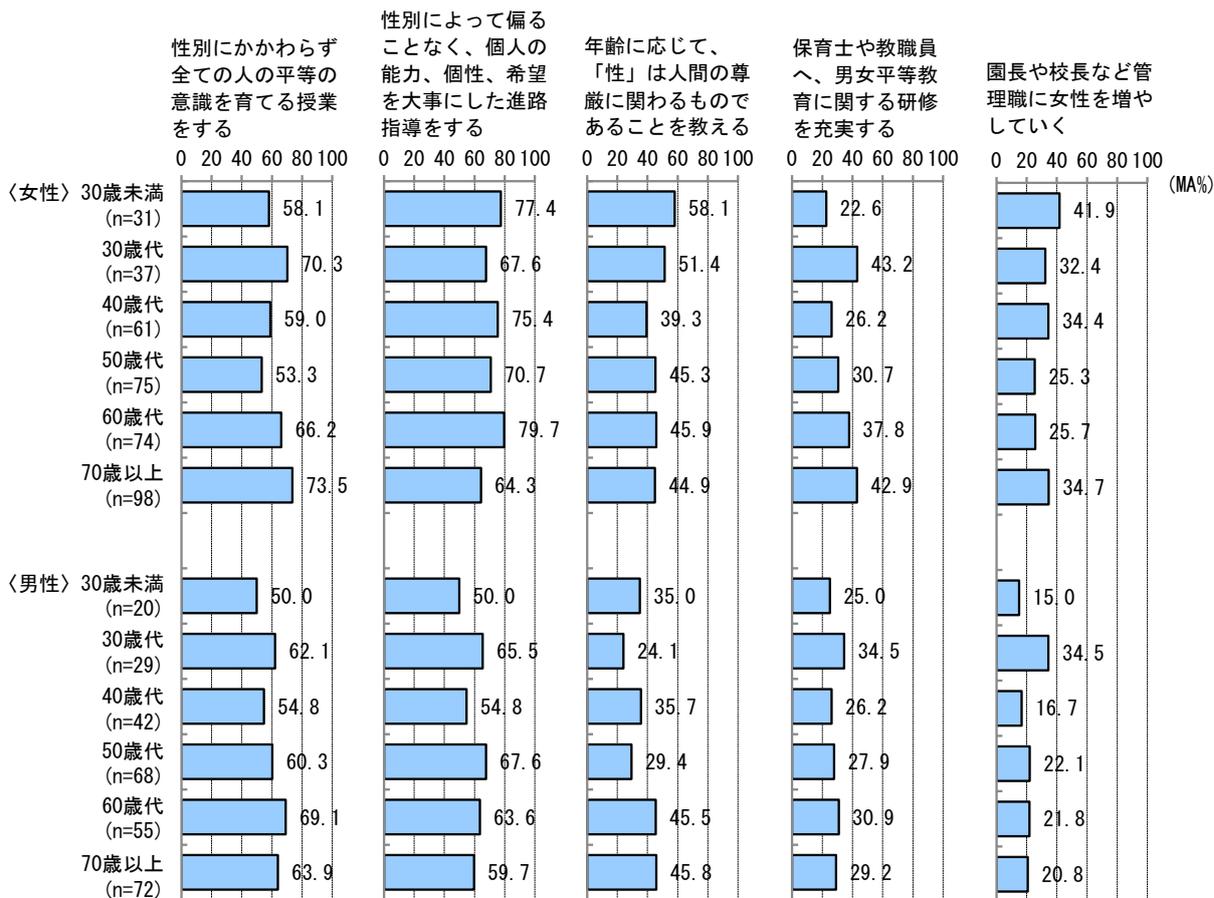
【全体（経年比較）】

【性別】



- ※1 前回調査では「男女平等の意識を育てる授業をする」でした。
- ※2 前回調査では「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」でした。
- ※3 前回調査では「小学校の低学年から、「性」は人間の尊厳に関わるものであることを教える」でした。
- ※4 前回調査では「教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する」でした。
- ※5 前回調査では「校長や教頭に女性を増やす」でした。
- ※6 前回調査では「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」でした。
- ※7 前回調査では「メディア（インターネット、テレビ、新聞など）の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める」でした。
- ※8 前回調査では「保護者会などを通じて保護者に対して男女共同参画の啓発をする」でした。
- ※9 「多様な性や文化、生活習慣などへの理解を深めるための教育を進める」は新規項目。

【性別・年齢別】



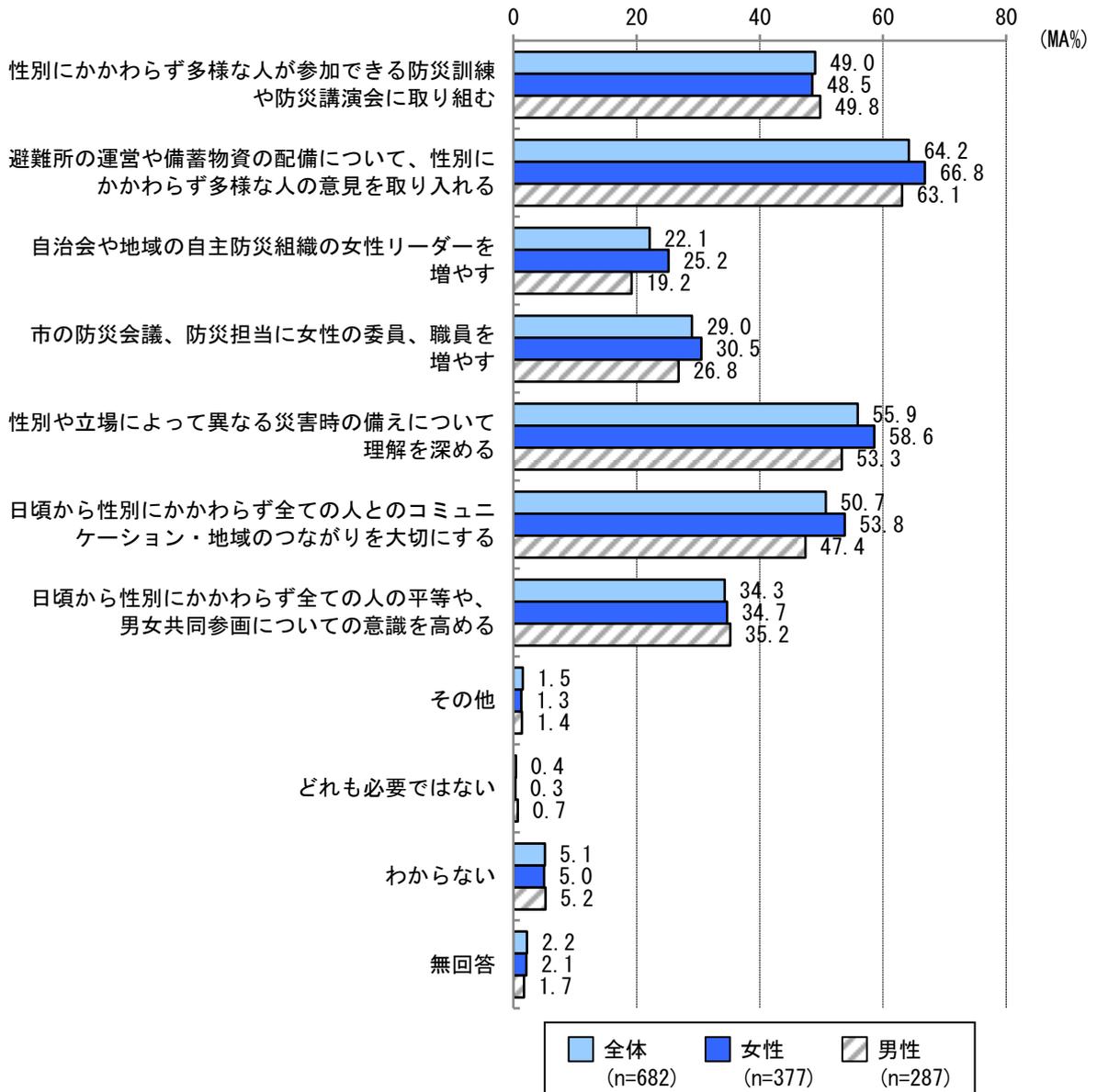
5. 防災・災害復興対策について

(1) 防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した防災に必要な取り組み

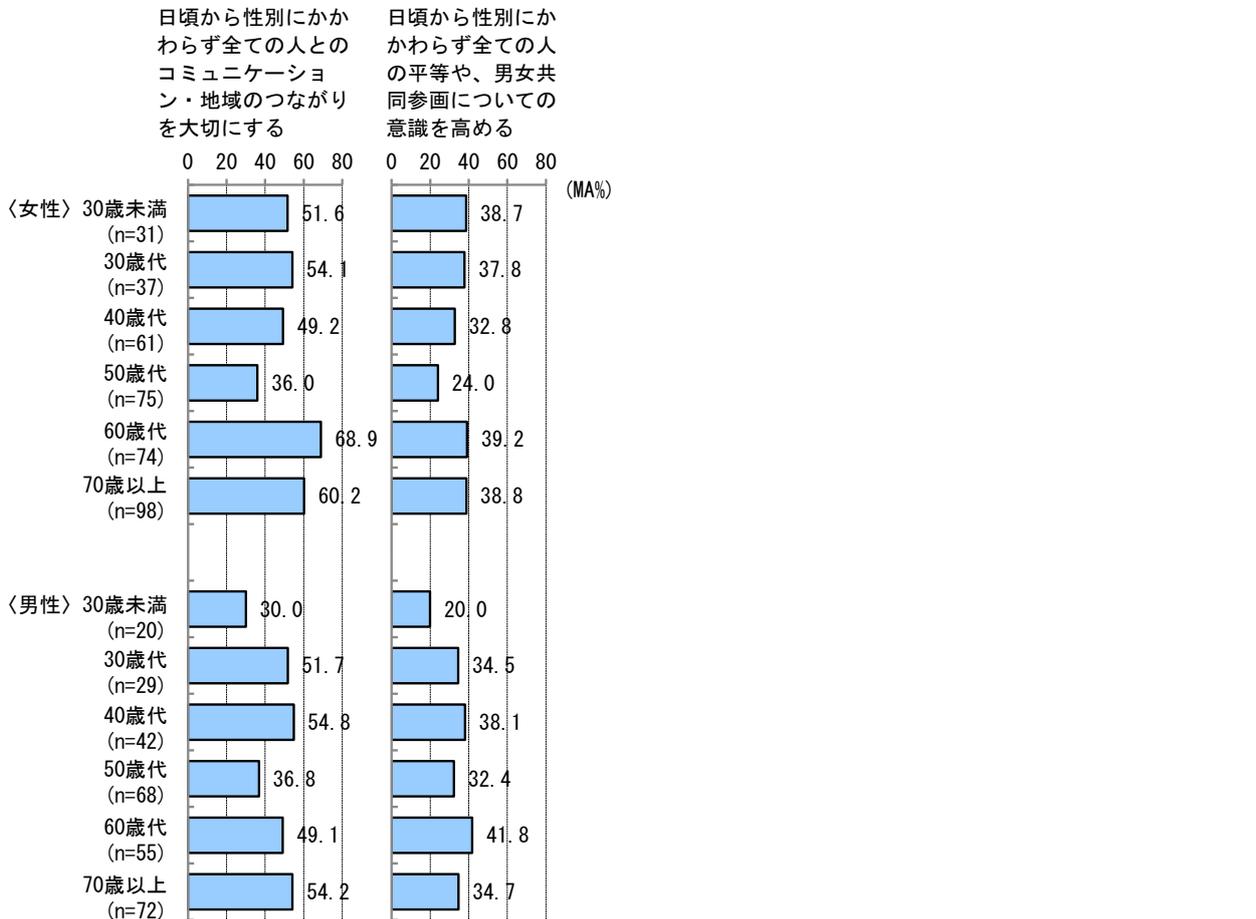
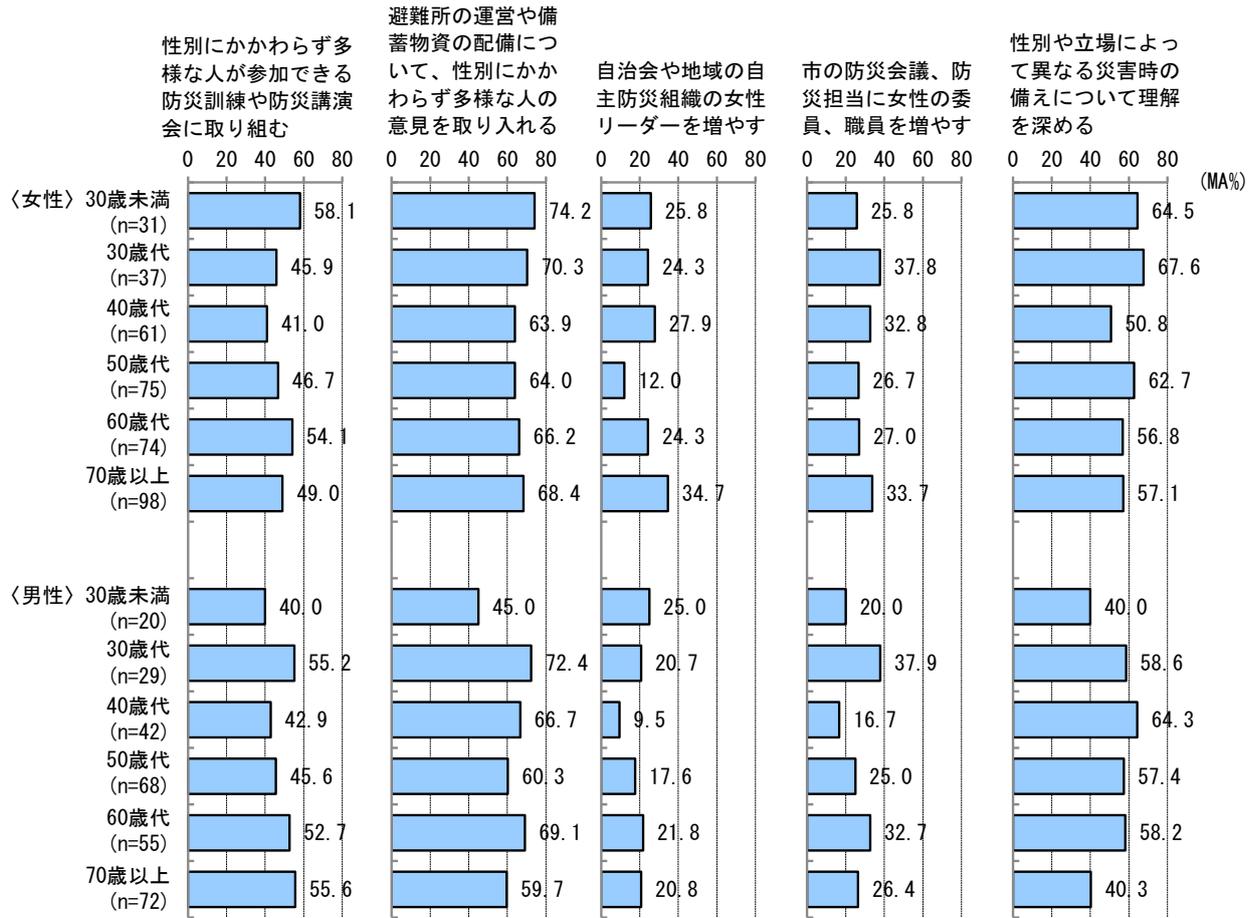
問13 防災・災害復興対策において、性別による違いや多様性に配慮した視点を防災に活かすために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- ・全体では、「避難所の運営や備蓄物資の配備について、性別にかかわらず多様な人の意見を取り入れる」が64.2%で最も多く、次いで「性別や立場によって異なる災害時の備えについて理解を深める」が55.9%、「日頃から性別にかかわらず全ての人とのコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」が50.7%となっています。
- ・性別でみると、「日頃から性別にかかわらず全ての人とのコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」は男性(47.4%)より女性(53.8%)の方が6.4ポイント、「自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす」は男性(19.2%)より女性(25.2%)の方が6.0ポイント、それぞれ高くなっています。
- ・性別・年齢別でみると、女性では「性別にかかわらず多様な人が参加できる防災訓練や防災講演会に取り組む」と「避難所の運営や備蓄物資の配備について、性別にかかわらず多様な人の意見を取り入れる」が30歳未満で最も高く、「市の防災会議、防災担当に女性の委員、職員を増やす」と「性別や立場によって異なる災害時の備えについて理解を深める」は30歳代で最も高くなっています。
男性では「避難所の運営や備蓄物資の配備について、性別にかかわらず多様な人の意見を取り入れる」と「市の防災会議、防災担当に女性の委員、職員を増やす」が30歳代で最も高く、「性別や立場によって異なる災害時の備えについて理解を深める」と「日頃から性別にかかわらず全ての人とのコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」は40歳代で最も高くなっています。

【性別】



【性別・年齢別】

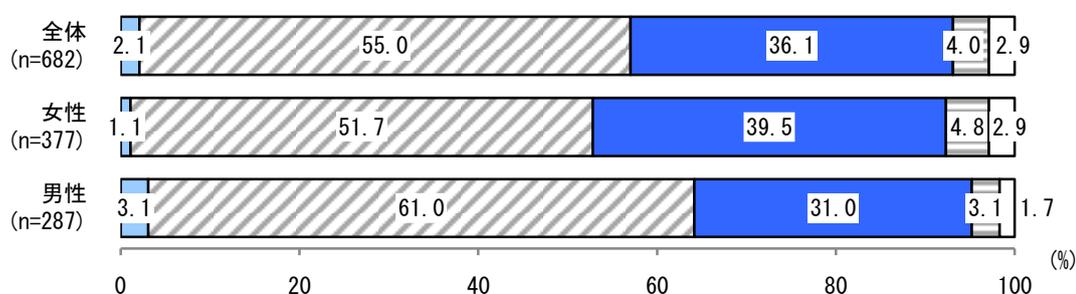


(2) 避難所運営への関心

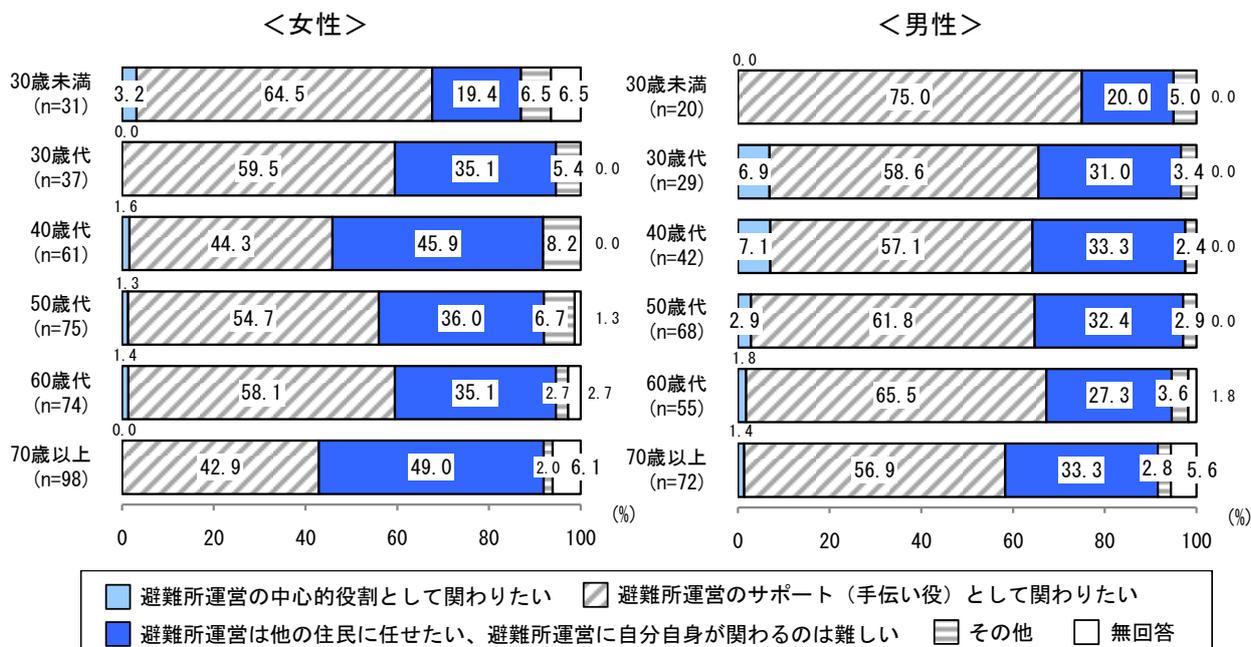
問14 大規模災害が発生した場合、避難所生活を強いられる可能性があります。仮に避難所生活になった場合、あなたは避難所の運営等に何らかの形で関わりたいと思いますか。(〇は1つ)

- ・全体では、「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が55.0%で最も多く、次いで「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身が関わるのは難しい」が36.1%となっています。
- ・性別で見ると、「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」は女性（51.7%）より男性（61.0%）のほうが9.3ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、男女とも30歳未満が「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」を最も多く回答しています。

【性別】



【性別・年齢別】



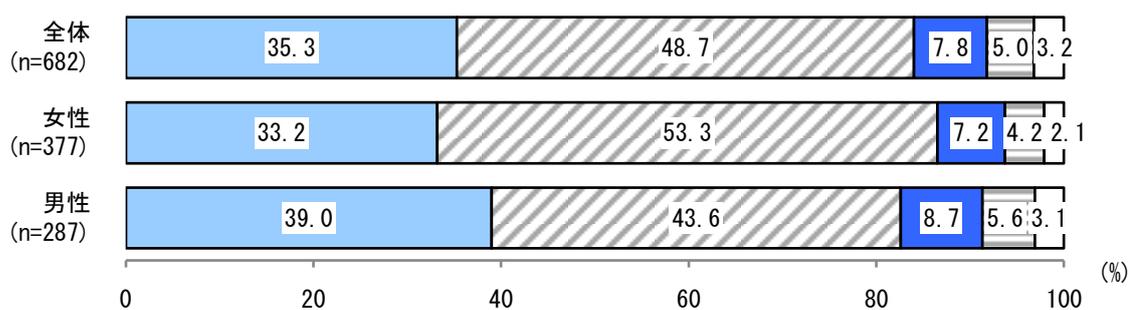
6. 性のあり方について

(1) 性的マイノリティの人々に対する偏見や差別の有無

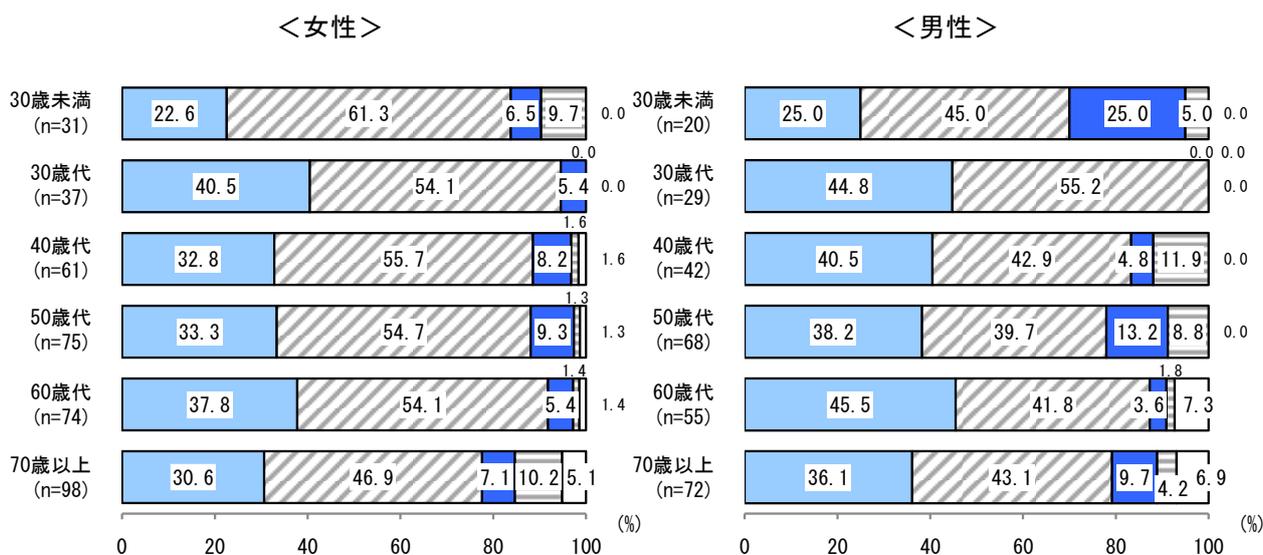
問15 性的マイノリティの方々にとって、現在の社会には偏見や差別があると思いますか。
(○は1つ)

- ・全体では、「どちらかといえばそう思う」が48.7%で最も多く、次いで「そう思う」が35.3%、「どちらかといえばそう思わない」が7.8%、「そう思わない」が5.0%となっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『あると思う』は84.0%となっています。
- ・性別で見ると、『あると思う』は男性（82.6%）より女性（86.5%）の方が3.9ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、『あると思う』の割合は、男女とも30歳代が最も高く、女性は94.6%、男性は100.0%となっています。

【性別】



【性別・年齢別】



そう思う

 どちらかといえばそう思う

 どちらかといえばそう思わない

 そう思わない

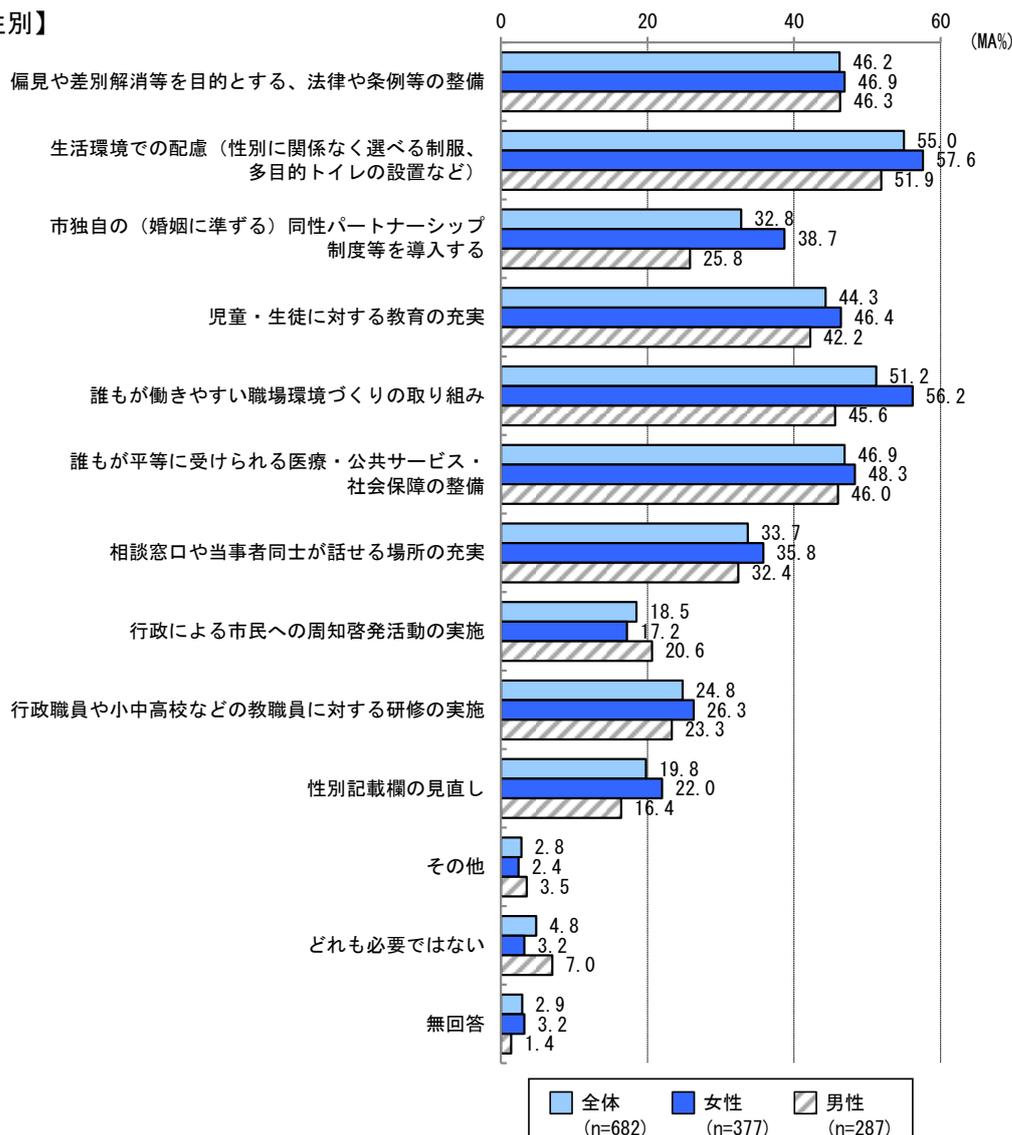
 無回答

(2) 性的マイノリティの人々にとって生活しやすい社会を実現するために必要な対策

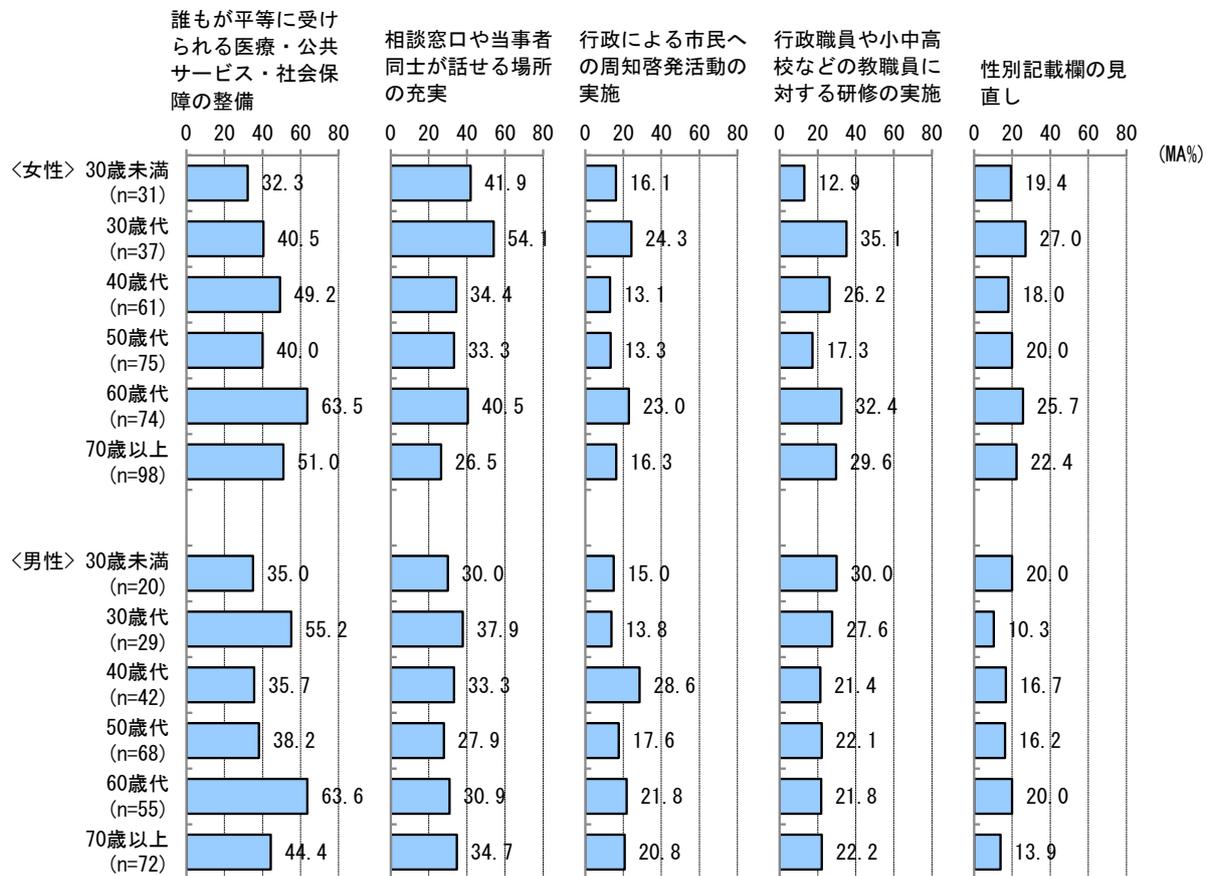
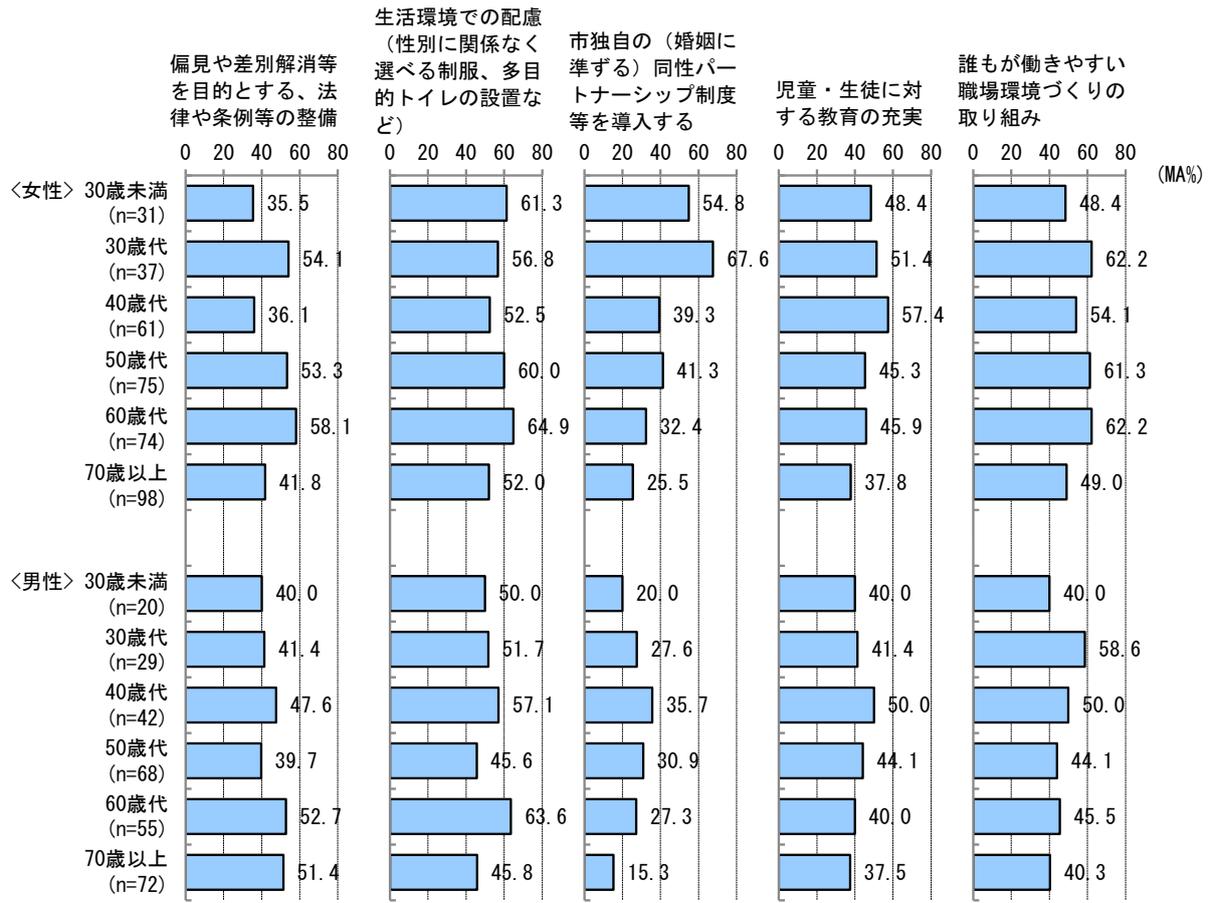
問16 性的マイノリティの方々にとって、偏見や差別をなくし生活しやすい社会を実現するためには、どのような対策が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・全体では、「生活環境での配慮（性別に関係なく選べる制服、多目的トイレの設置など）」が55.0%で最も多く、次いで「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」が51.2%、「誰もが平等に受けられる医療・公共サービス・社会保障の整備」が46.9%となっています。
- ・性別で見ると、「市独自の（婚姻に準ずる）同性パートナーシップ制度等を導入する」が男性より女性の方が12.9ポイント、「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」は男性より女性の方が10.6ポイント、それぞれ高くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、女性では「市独自の（婚姻に準ずる）同性パートナーシップ制度等を導入する」、「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」、「相談窓口や当事者同士が話せる場所の充実」では、いずれも30歳代が50%を超えており最も高くなっています。また男女ともに70歳以上では、「市独自の（婚姻に準ずる）同性パートナーシップ制度等を導入する」が最も低くなっています。

【性別】



【性別・年齢別】



7. 配偶者や恋人間の暴力について

(1) 配偶者や恋人間の暴力の状況

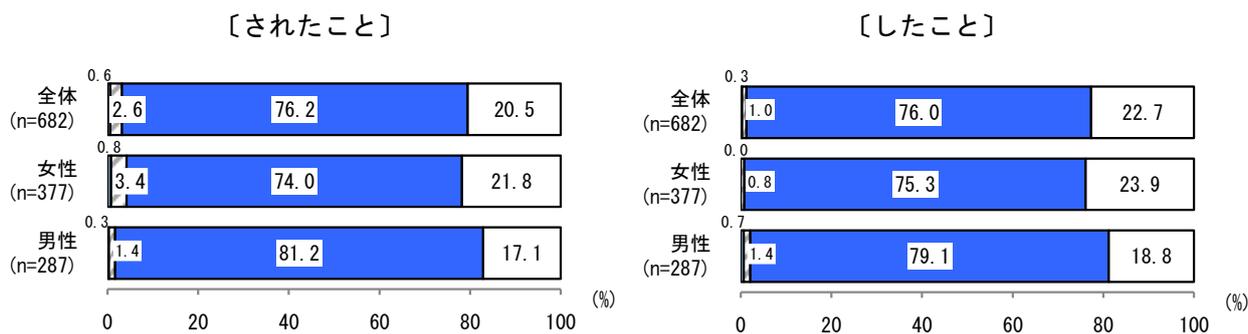
問17 あなたは、過去5年間で配偶者や恋人に、次のようなことをされたり、したことがありますか。(それぞれあてはまるものすべてに○)
※過去5年間に配偶者や恋人がいない場合は、問18に進んでください。

- ・全体では、過去5年間で配偶者や恋人にされたことは、「何度もあった(ある)」と「1、2度あった(ある)」をあわせた『あった(ある)』は“精神的暴力”が11.0%で最も高く、次いで“経済的暴力”が3.3%、“身体的暴力”が3.2%となっています。いずれかの暴力を受けたことがある人の割合は、13.5%となっています。前回調査(23.5%)と比較すると、10%下がっています。
一方、過去5年間で配偶者や恋人にしたことは、『あった(ある)』は“精神的暴力”が8.3%で最も高く、次いで“身体的暴力”が1.3%となっています。
- ・性別で見ると、されたことでは、『あった(ある)』は“精神的暴力”で男性より女性のほうが6.5ポイント高くなっています。いずれの暴力も男性より女性のほうが高い割合となっています。したことでは、『あった(ある)』は“精神的暴力”で女性より男性のほうが2.3ポイント高くなっています。

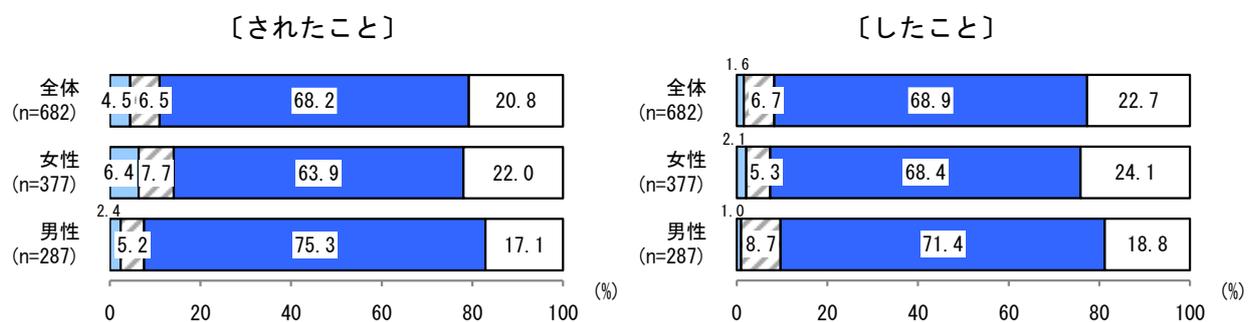
身体的暴力	殴る蹴る、首をしめる、つきとばす、髪を引っ張る、物をなげつける など
精神的暴力	どなる、脅す、ばかにする、無視する、自殺をほのめかす など
性的暴力	性行為を強要する、避妊に協力しない など
経済的暴力	生活費を渡さない、外で働かせない、借金を繰り返す など
社会的暴力	外出を制限する、メールや電話をチェックする、友人や家族と会わせない など
子どもを利用した暴力	子どもを取り上げると脅す、子どもに暴力を見せる など

【性別①】

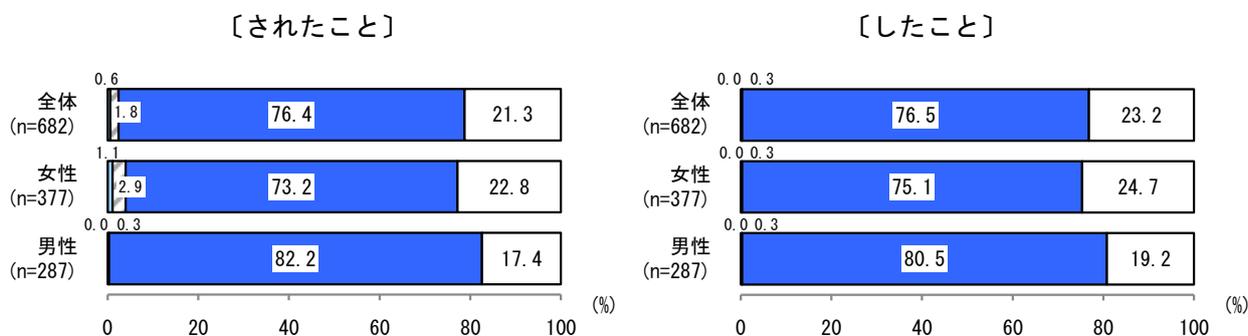
■ 身体的暴力



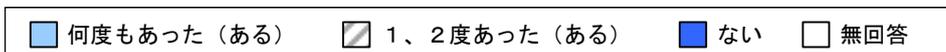
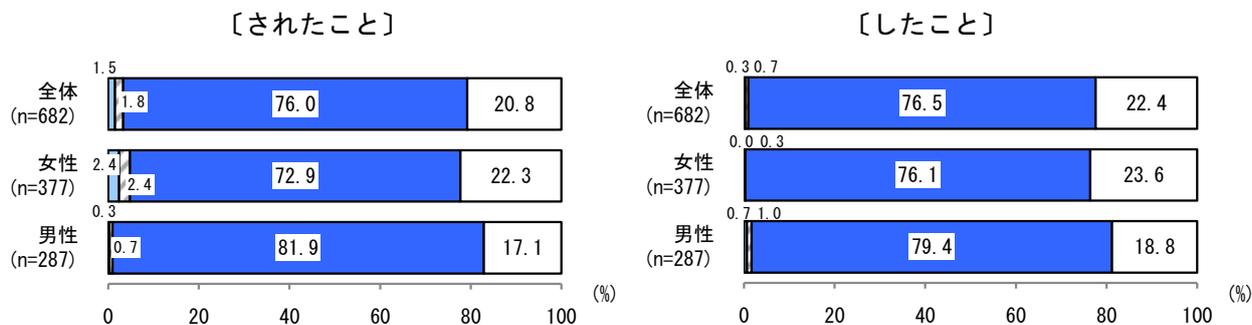
■ 精神的暴力



■ 性的暴力

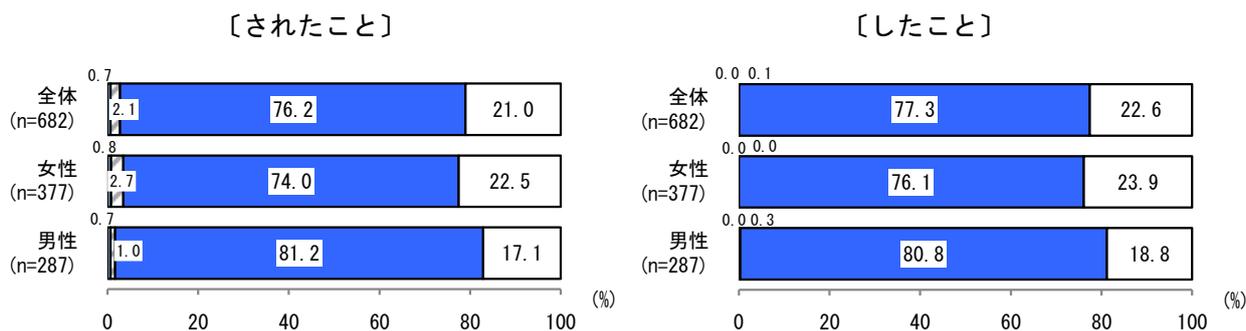


■ 経済的暴力

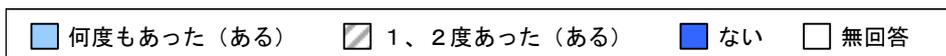
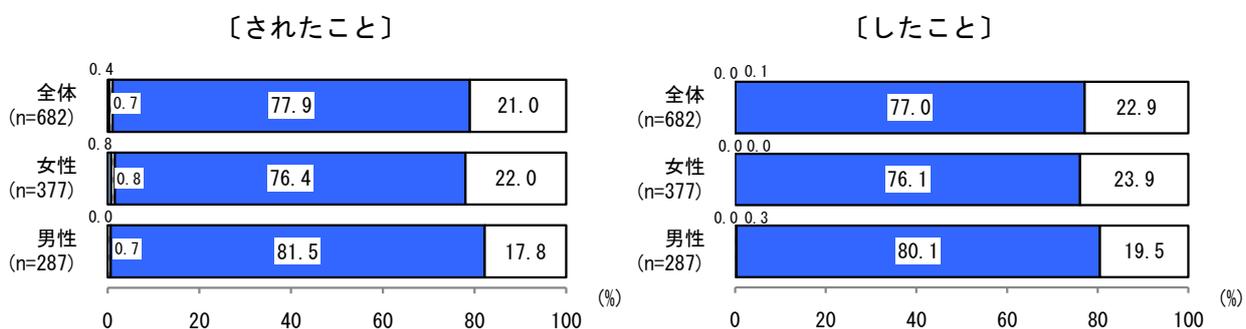


【性別②】

■社会的暴力



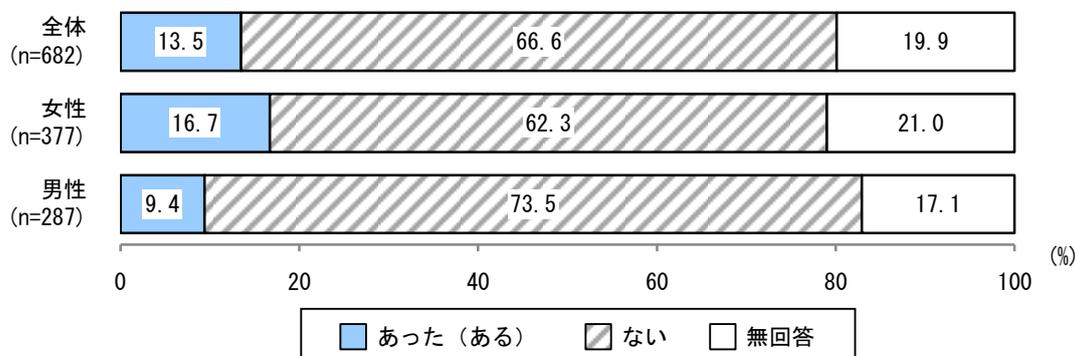
■子どもを利用した暴力



■過去5年間に配偶者や恋人から暴力を受けたことがある人の割合

(それぞれの暴力について「何度もあった (ある)」または「1、2度あった (ある)」に1つでも回答した人→「あった (ある)」)

※前回調査では、過去5年間に限定しない形で質問しており、「何どもあった (ある)」または「1、2度あった (ある)」に1つでも回答した人が234人と、全体 (994人) の23.5%でした。

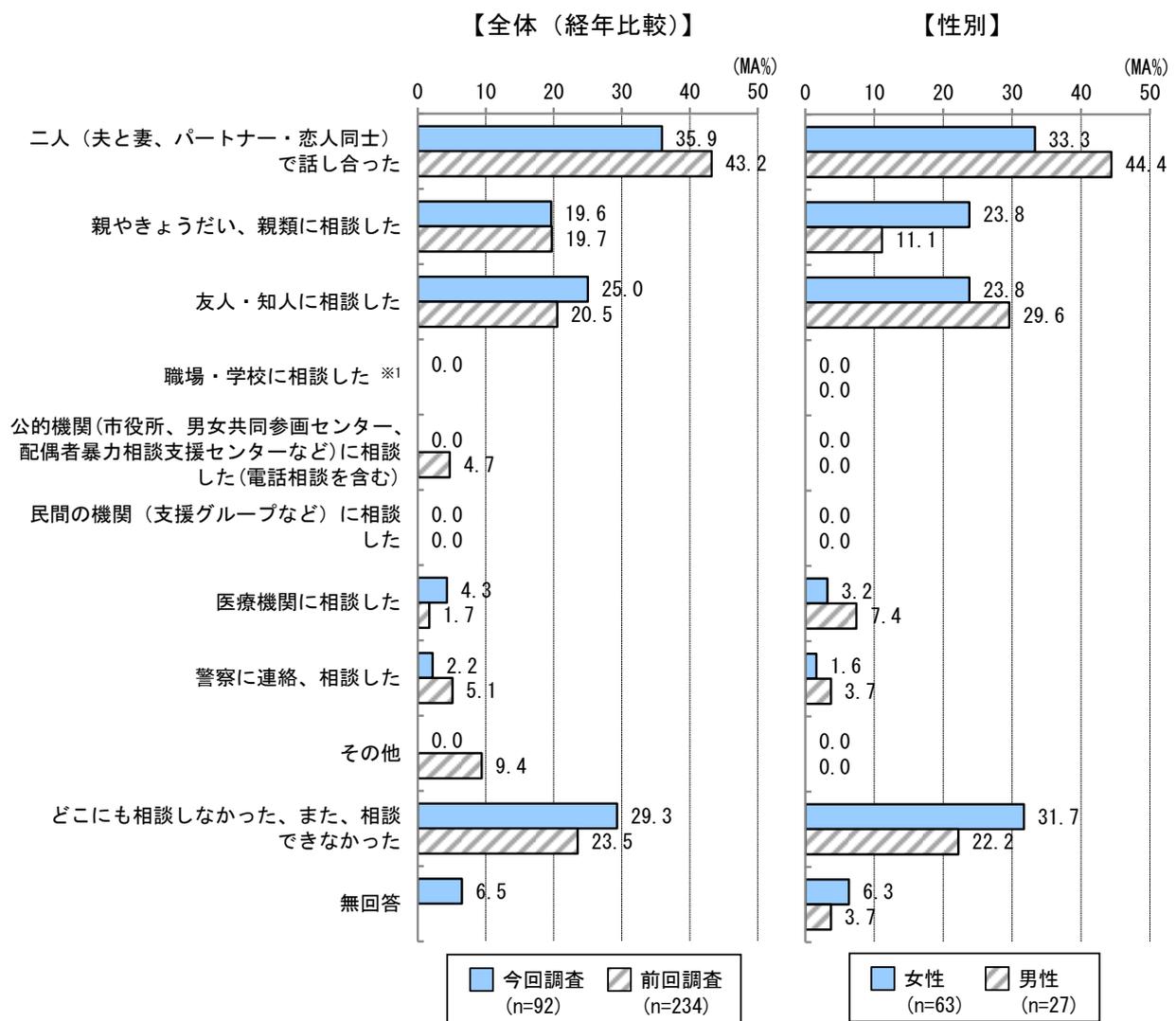


(2) 配偶者や恋人間から暴力を受けたときの相談状況

問17(1)で「1」または「2」に1つ以上○をした方におたずねします。

問17-1 問17のようなことをされたとき、誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- ・全体では、「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」が35.9%で最も多く、次いで「友人・知人に相談した」が25.0%、「親やきょうだい、親類に相談した」が19.6%となっています。
- ・前回調査と比較すると、「公的機関(市役所、男女共同参画センター、配偶者暴力相談支援センターなど)に相談した(電話相談を含む)」は回答者がありませんでした。一方、「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」は前回調査より5.8ポイント高くなっています。
- ・性別でみると、「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」は男性より女性の方が9.5ポイント高くなっています。



※1 「職場・学校に相談した」は新規項目。

※2 前回調査の「安全なところに避難した」は削除しました。

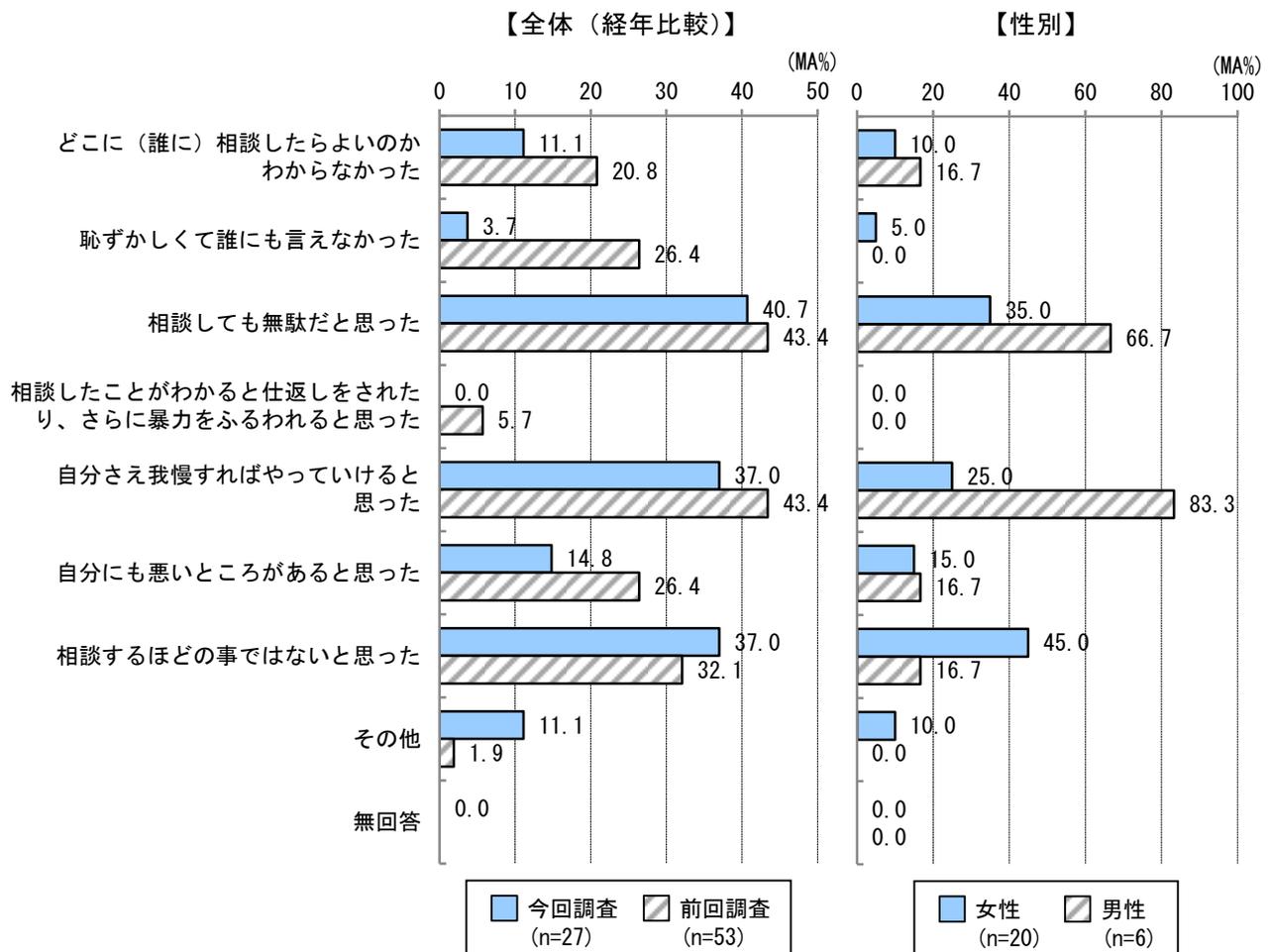
(3) 配偶者や恋人間から暴力を受けたときに相談しなかった理由

問17-1で「10 どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」と答えた方におたずねします。

問17-2 どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

- ・全体では、「相談しても無駄だと思った」が40.7% (11人) で最も多く、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思った」と「相談するほどの事ではないと思った」がそれぞれ37.0% (10人) となっています。
- ・前回調査と比較すると、「どこに (誰に) 相談したらよいのかわからなかった」が9.7%低くなっています。
- ・性別で見ると、母数が少ないため一概にはいえないが、女性では「相談するほどの事ではないと思った」が最も多いですが、男性では「自分さえ我慢すればやっていけると思った」が83.3% (5人) で最も多くなっています。



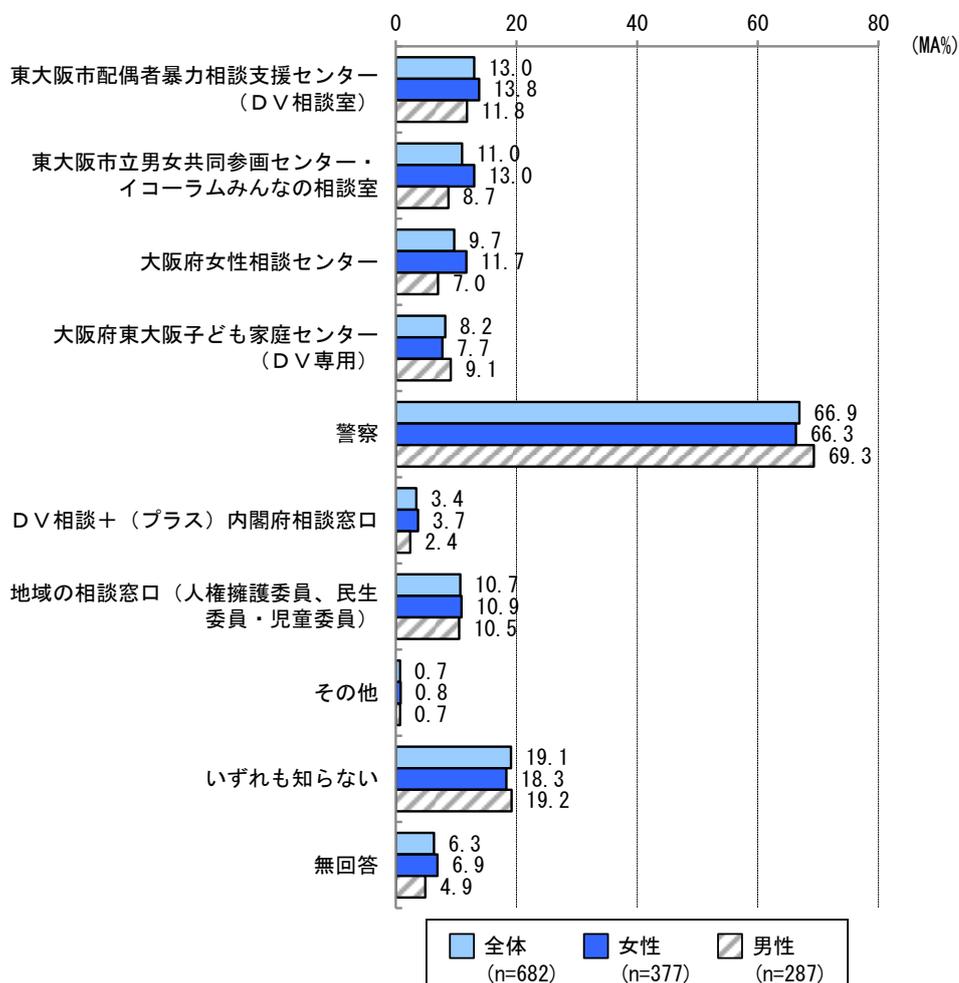
※ 前回調査の「わからない」は削除しました。

(4) 配偶者や恋人から暴力の被害にあった際の相談機関や窓口の認知度

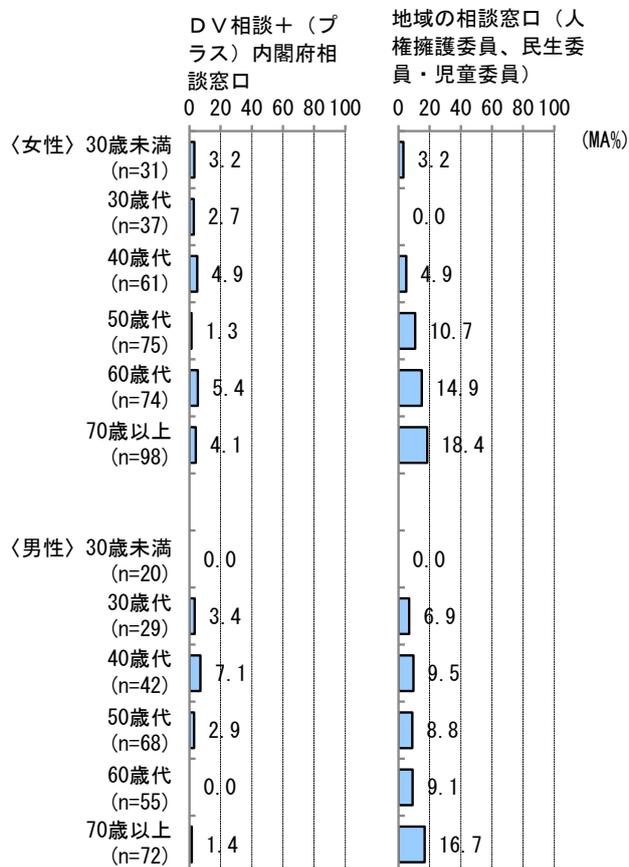
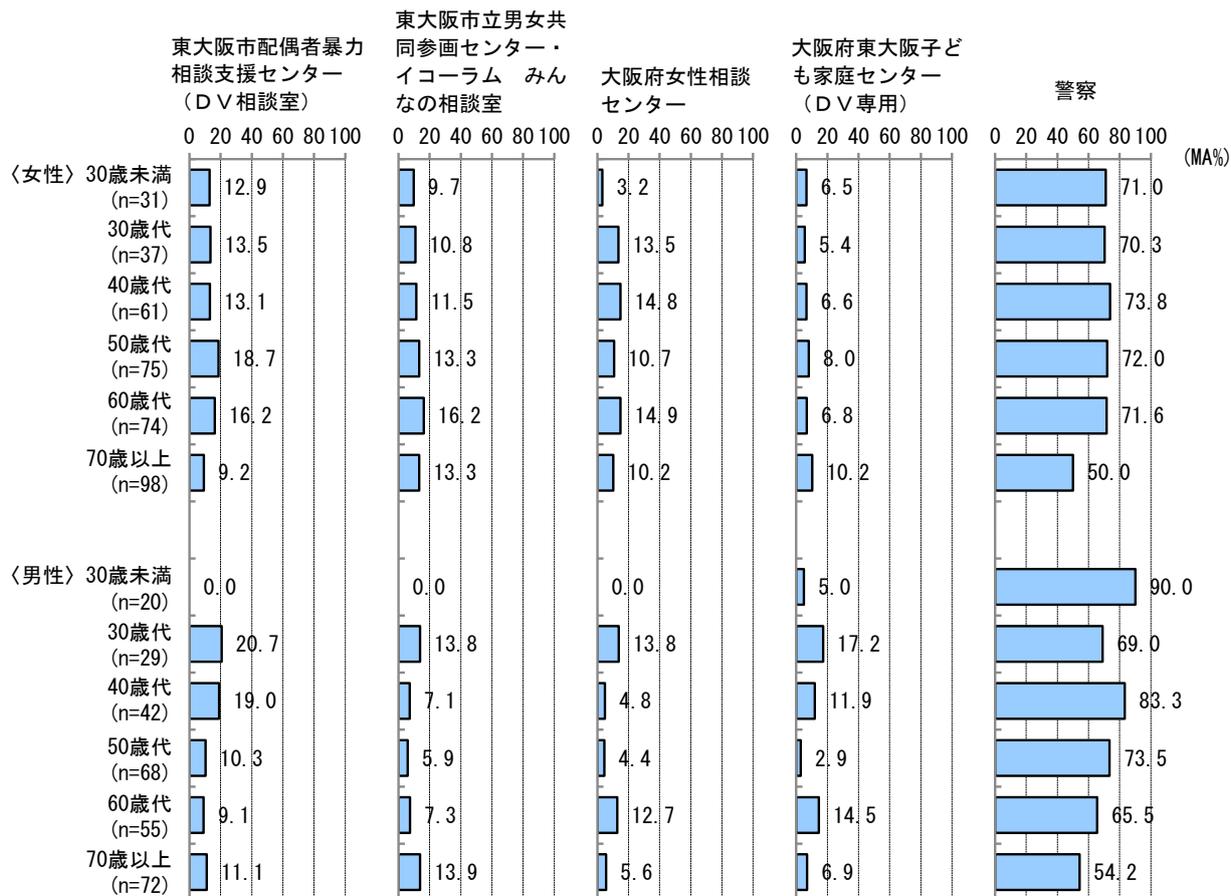
問18 配偶者や恋人から暴力の被害にあった際の相談機関や窓口として、あなたが知っているところがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・配偶者や恋人から暴力の被害にあった際の相談機関や窓口の認知度は、「警察」が66.9%で最も多く、次いで「いずれも知らない」が19.1%、「東大阪市配偶者暴力相談支援センター（DV相談室）」が13.0%、「東大阪市立男女共同参画センター・イコーラム みんなの相談室」が11.0%となっています。
 - ・性別でみると、「東大阪市配偶者暴力相談支援センター（DV相談室）」は男性より女性のほうが2.7ポイント、「東大阪市立男女共同参画センター・イコーラム みんなの相談室」は男性より女性のほうが4.3ポイント、それぞれ高くなっています。一方、「いずれも知らない」は女性より男性のほうが0.9ポイント高くなっています。
 - ・性別・年齢別でみると、男女ともに「地域の相談窓口（人権擁護委員、民生委員・児童委員）」は70歳以上で最も高くなっています。
- また「東大阪市配偶者暴力相談支援センター（DV相談室）」について、女性は50歳代、男性は30歳代が最も高くなっています。「東大阪市立男女共同参画センター・イコーラム みんなの相談室」について、女性は60歳代、男性は70歳以上が最も高く、年齢が上がるにつれ認知度も上がる傾向が見られます。

【性別】



【性別・年齢別】



8. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

(1) 家庭での役割や子どもの育て方などへの考え方

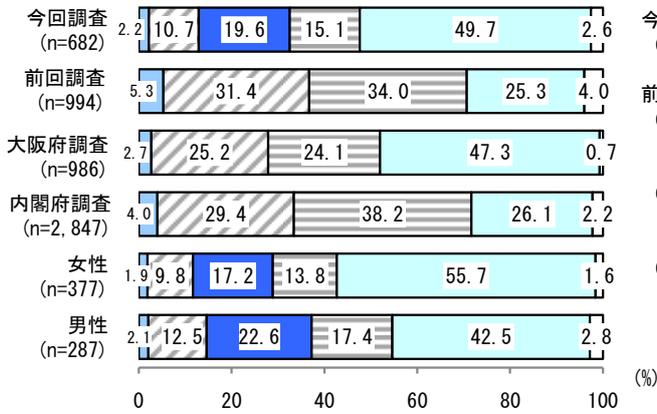
問19 あなたは、次の考え方についてどう思いますか。(それぞれ○は1つずつ)

- ・計画推進のための指標である「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『そう思わない』は64.8%となっており、前回調査の59.3%と比べると5.5ポイント高くなっています。
- ・全体では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』は、“子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい”が49.1%で最も高く、次いで“妻や子どもを養うのは男性の責任である”が40.9%となっています。
- ・前回調査と比較すると、『そう思う』の割合はいずれの項目も前回調査より低くなっています。
- ・性別でみると、『そう思う』の割合は、いずれの項目も女性より男性のほうが高く、特に“妻や子どもを養うのは男性の責任である”は女性より男性のほうが26.2ポイント高くなっています。
- ・性別・年齢別でみると、『そう思う』の割合は、男女ともに年齢が上がるに伴い『そう思う』が多くなる傾向が見られます。

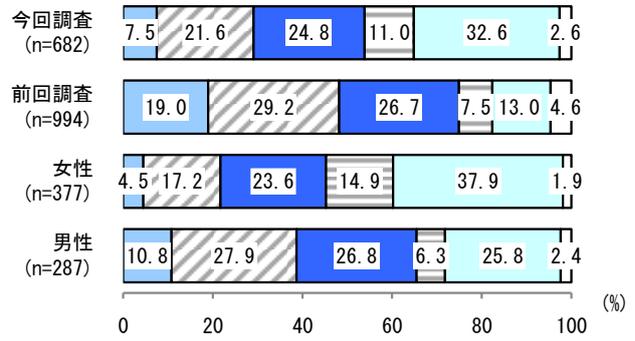
※ “「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方”については、前回調査の選択肢は「同感である」「どちらかといえば同感である」「どちらかといえば同感しない」「同感しない」、大阪府調査の選択肢は「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そうは思わない」、内閣府調査の選択肢は「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」といずれも4択であるため、比較するには注意が必要です。

【性別】

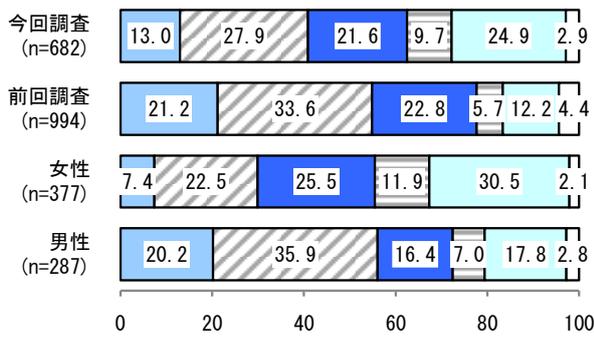
■「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方



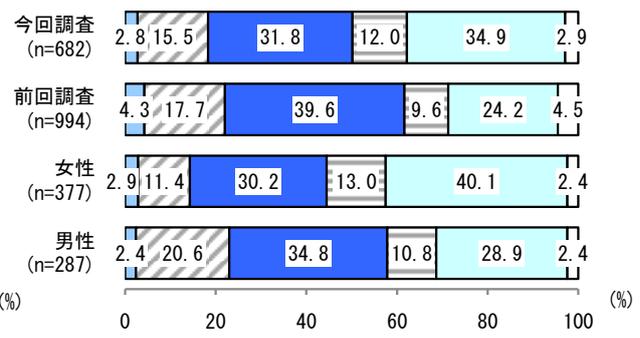
■男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい



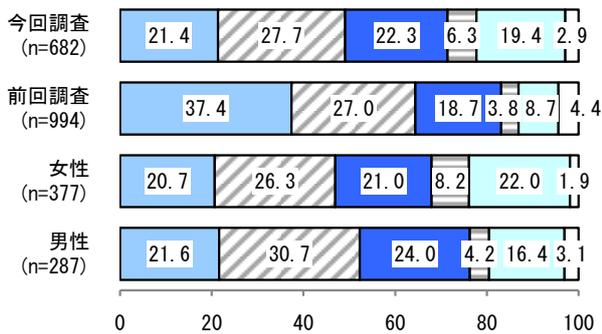
■妻や子どもを養うのは男性の責任である



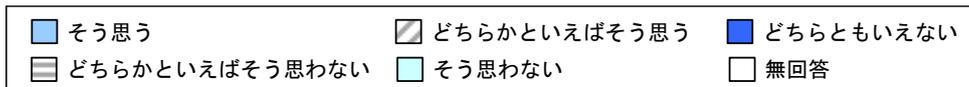
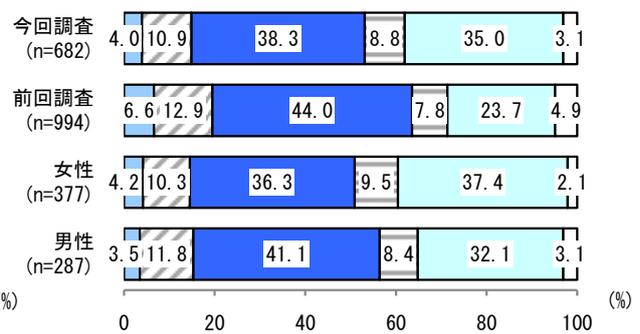
■育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい



■子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい

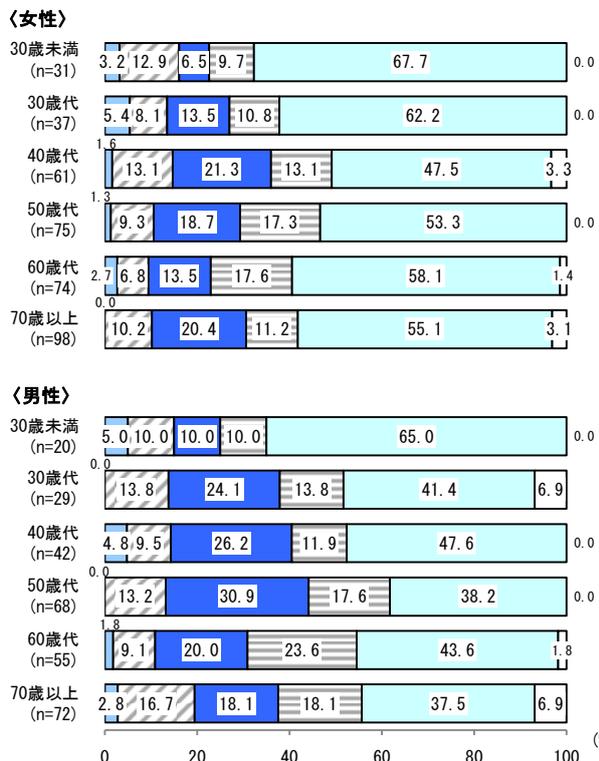


■男性の方が女性より、管理職としての資質がある

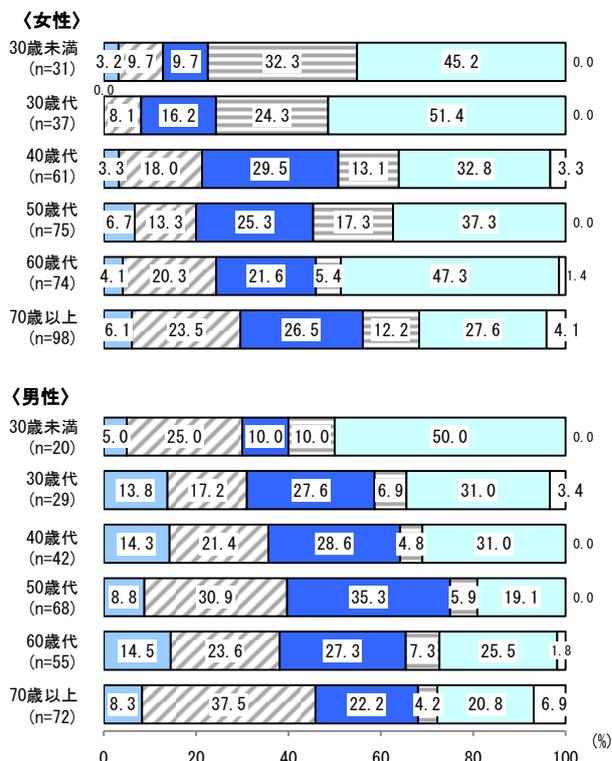


【性別・年齢別①】

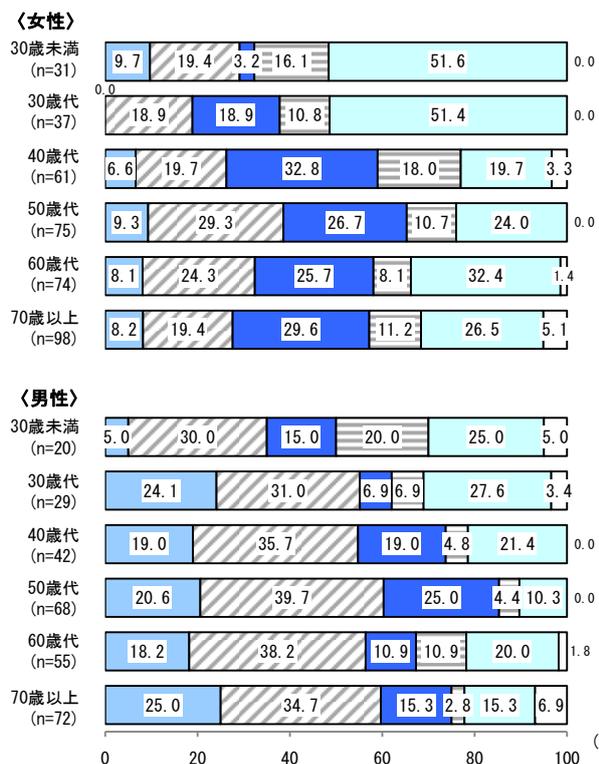
■「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方を



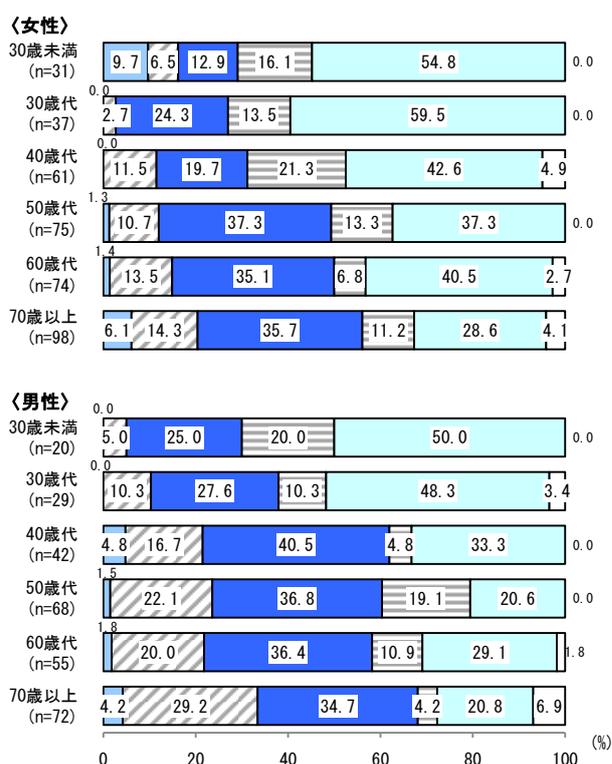
■男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい



■妻や子どもを養うのは男性の責任である



■育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい



そう思う

 どちらかといえばそう思う

 どちらともいえない

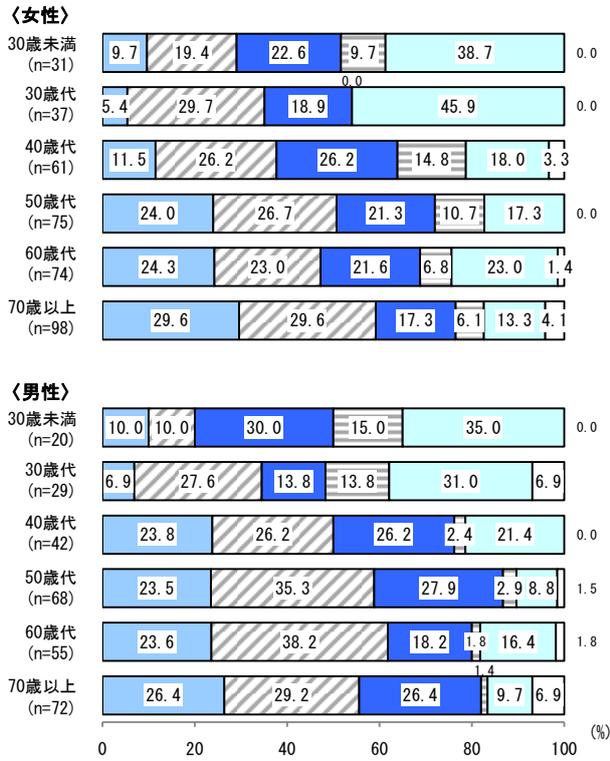
 どちらかといえばそう思わない

 そう思わない

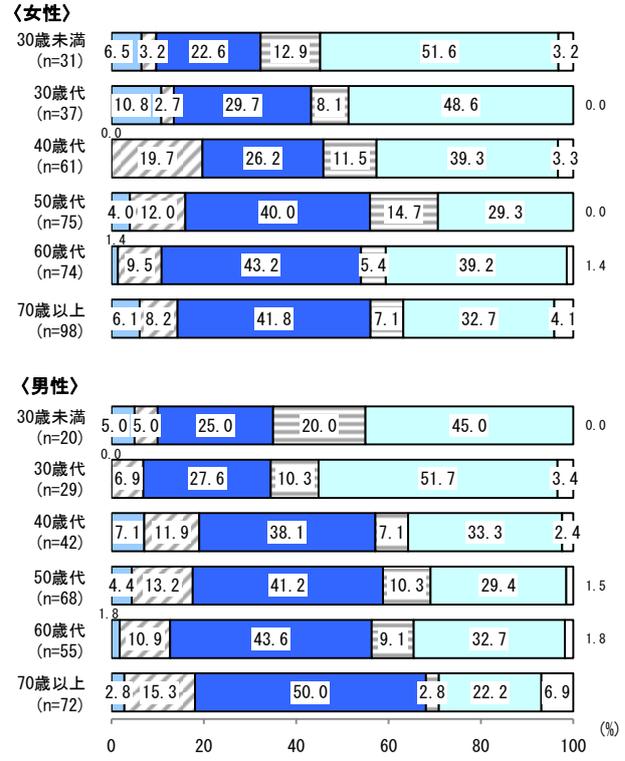
 無回答

【性別・年齢別②】

■子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい



■男性の方が女性より、管理職としての資質がある



そう思う

 どちらかといえばそう思う

 どちらともいえない

 どちらかといえばそう思わない

 そう思わない

 無回答

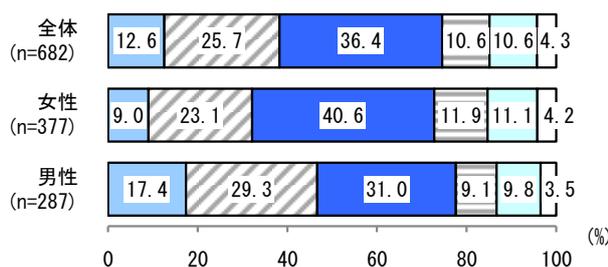
(2) 社会における男女平等意識

問20 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(それぞれ○は1つずつ)

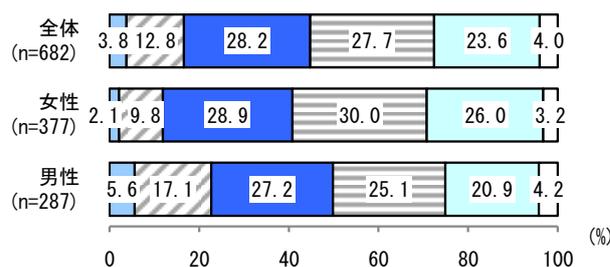
- ・計画推進のための指標である“社会全体からみて”「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『平等になっていると思う』と回答した人の割合は12.3%で、前回調査(18.7%)と比べると6.4ポイント低くなっています。
- ・全体では、「そう思う」の割合は、“学校教育の場では”が12.6%で最も高く、次いで“家庭生活の場では”が7.3%、“地域活動、社会活動への参加では”が5.4%となっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『平等になっていると思う』は“学校教育の場では”が38.3%で最も高く、次いで“家庭生活の場では”が21.1%、“地域活動、社会活動への参加では”が18.6%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『平等になっていないと思う』は“職場(賃金や待遇など)では”が54.9%で最も高く、次いで“社会全体からみて”が54.0%、“雇用の機会や働く分野では”が51.3%、“政治・経済活動への参加では”が50.2%となっています。
- ・性別でみると、『平等になっていると思う』の割合は、いずれの項目も女性より男性のほうが高く、特に“家庭生活の場では”、“社会通念・慣習やしきたり(冠婚葬祭など)では”、“法律や制度では”で差が大きくなっています。
- ・性別・年齢別でみると、『平等になっていると思う』の割合は、“学校教育の場では”、“雇用の機会や働く分野では”、“家庭生活の場では”、“地域活動、社会活動への参加では”、“社会全体からみて”はいずれも男女ともに30歳未満が最も高くなっています。

【性別①】

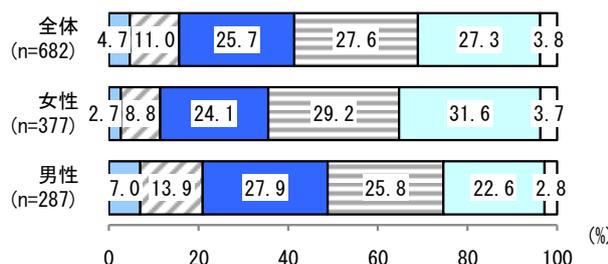
■学校教育の場では



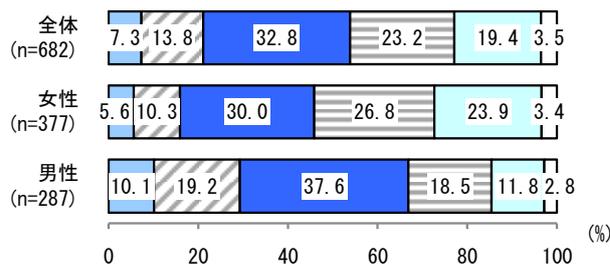
■雇用の機会や働く分野では



■職場(賃金や待遇など)では



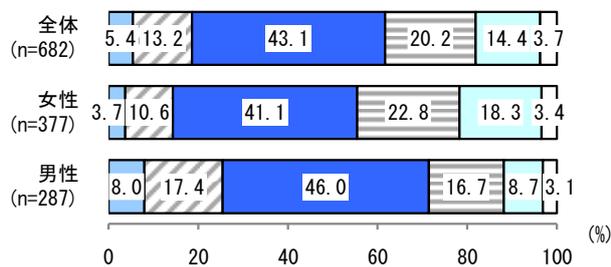
■家庭生活の場では



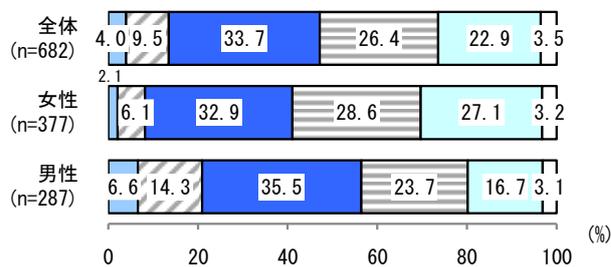
■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない
 ■ 無回答

【性別②】

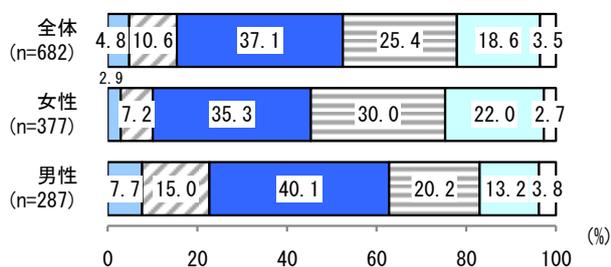
■地域活動、社会活動への参加では



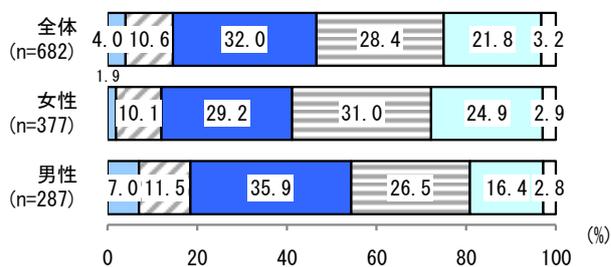
■社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では



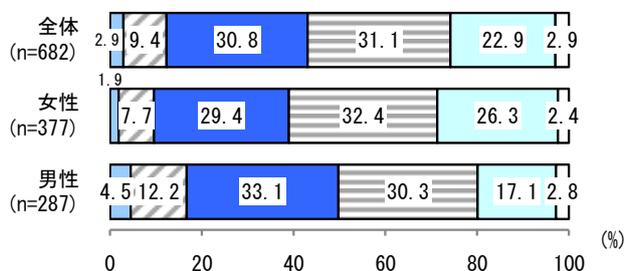
■法律や制度では



■政治・経済活動への参加では



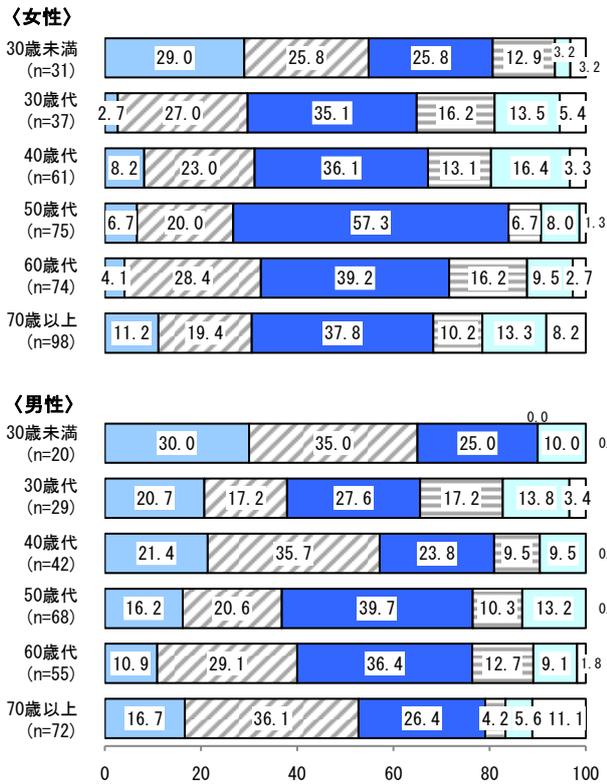
■社会全体からみて



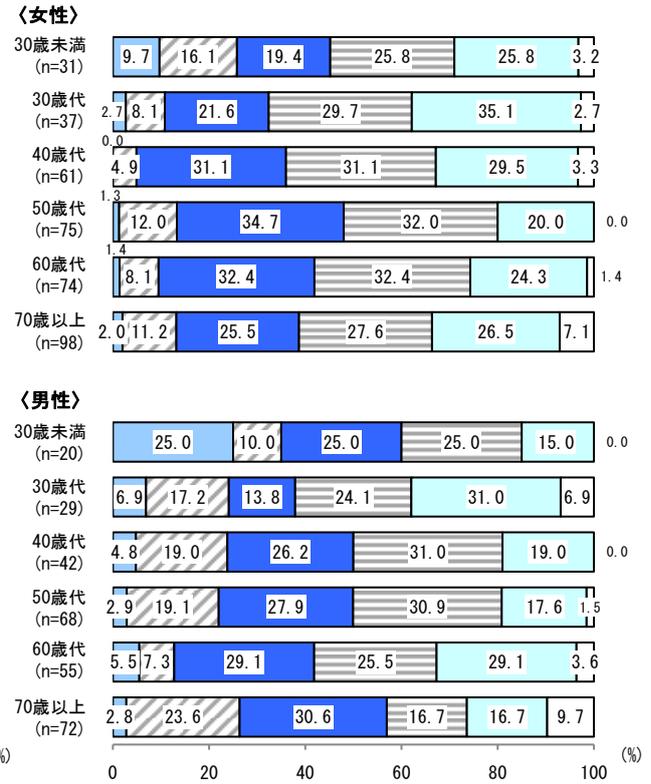
そう思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらともいえない
 どちらかといえばそう思わない
 そう思わない
 無回答

【性別・年齢別①】

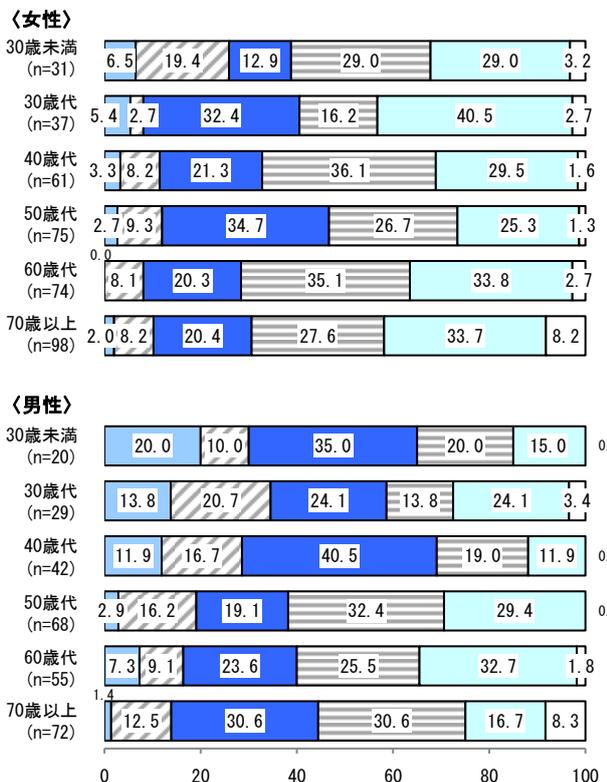
■学校教育の場では



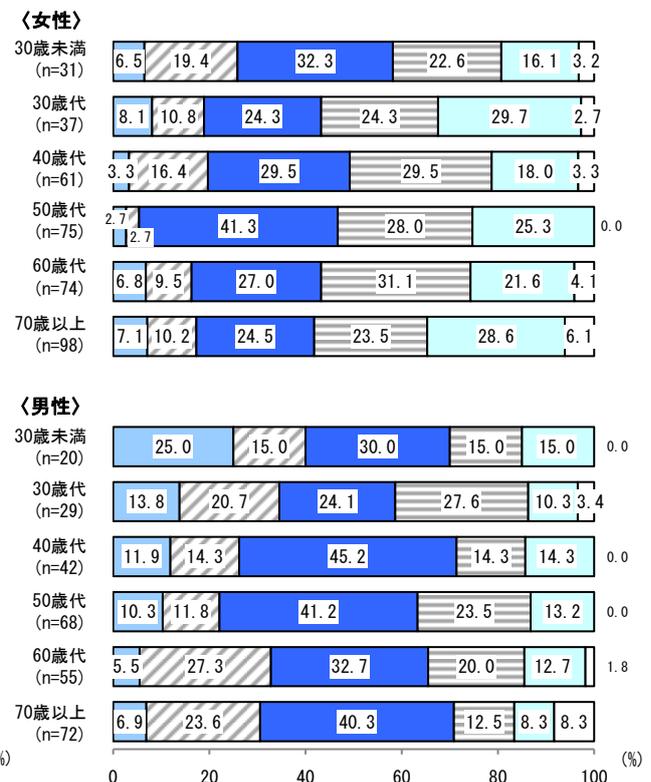
■雇用の機会や働く分野では



■職場（賃金や待遇など）では



■家庭生活の場では



そう思う

 どちらかといえばそう思う

 どちらともいえない

 どちらかといえばそう思わない

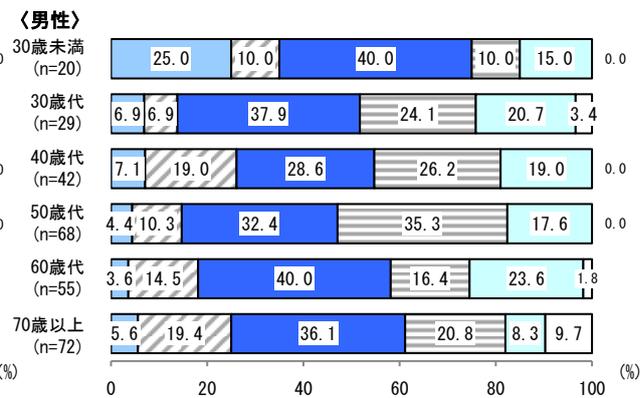
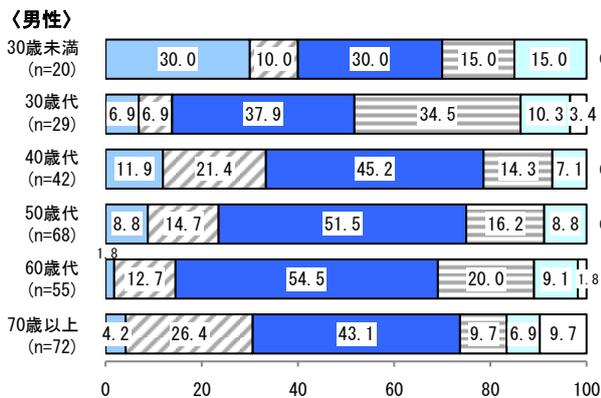
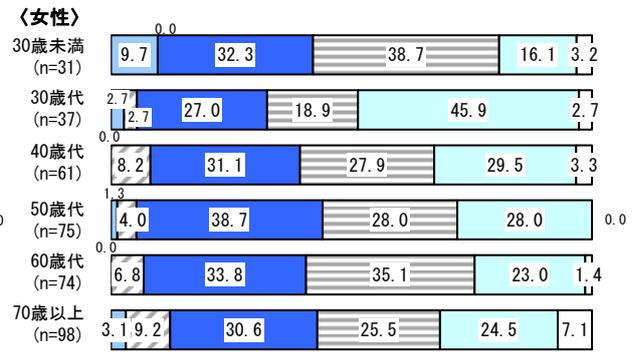
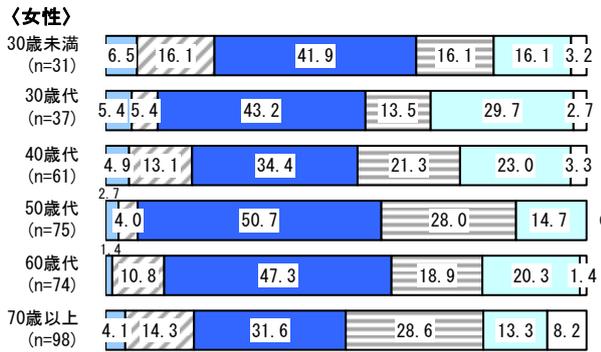
 そう思わない

 無回答

【性別・年齢別②】

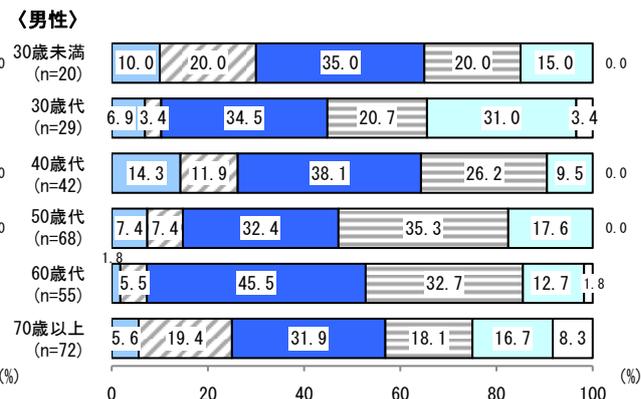
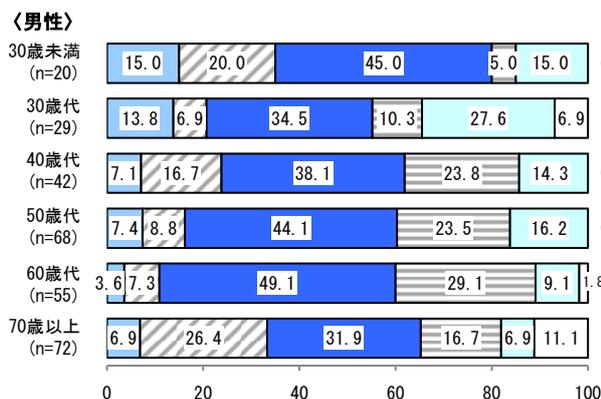
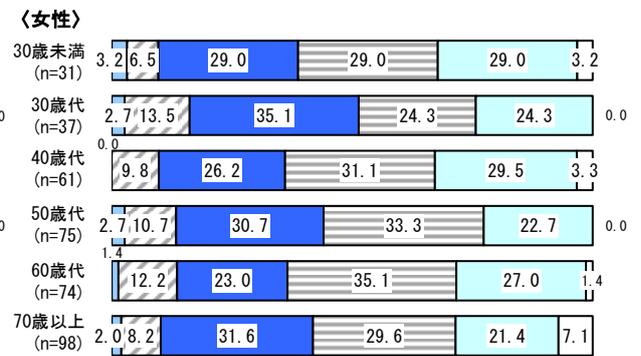
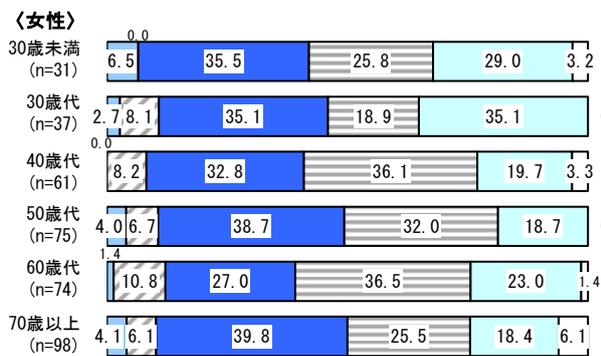
■地域活動、社会活動への参加では

■社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では



■法律や制度では

■政治・経済活動への参加では

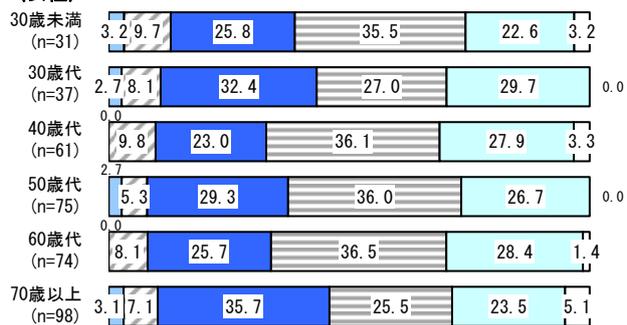


■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらともいえない ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

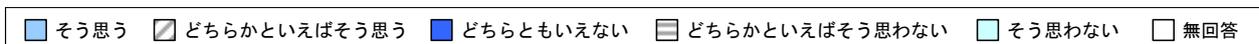
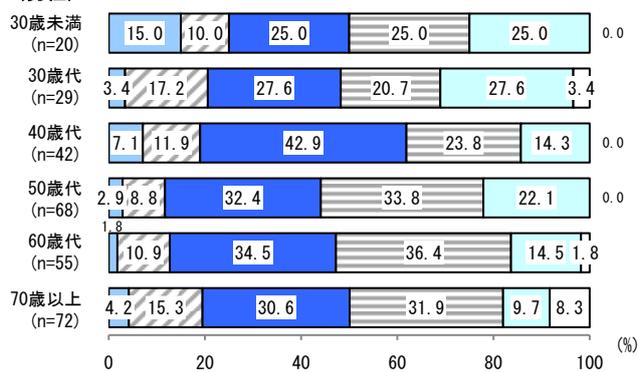
【性別・年齢別③】

■社会全体からみて

〈女性〉



〈男性〉



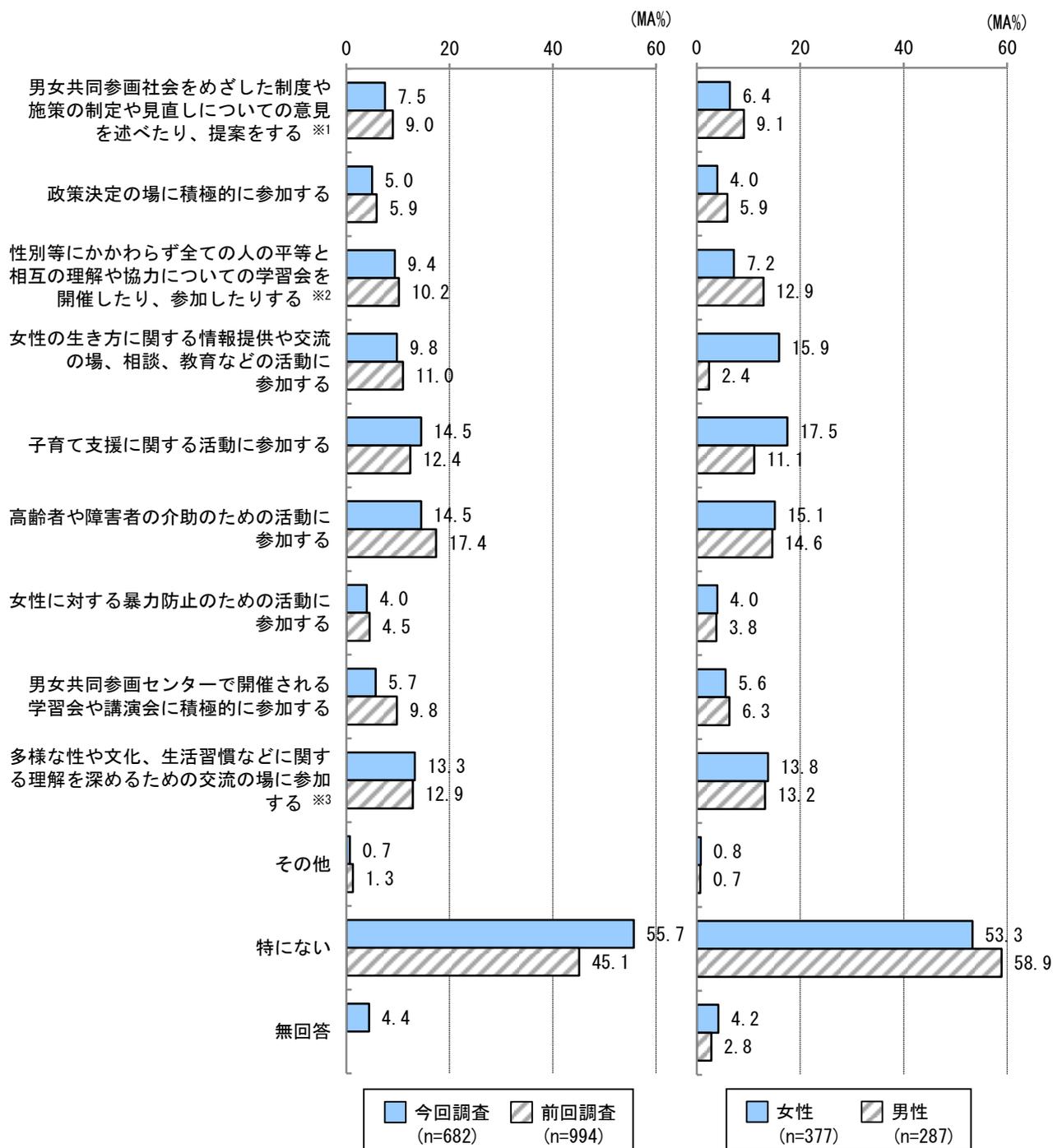
(3) 男女共同参画社会を推進するために参加したい活動

問21 あなたは、「男女共同参画社会」を推進するために、どのような活動に参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・全体では、「特にない」を除くと「子育て支援に関する活動に参加する」と「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」がそれぞれ14.5%で最も多く、次いで「多様な性や文化、生活習慣などに関する理解を深めるための交流の場に参加する」が13.3%となっています。
- ・前回調査と比較すると、「子育て支援に関する活動に参加する」が2.1ポイント高くなっています。一方、「男女共同参画センターで開催される学習会や講演会に積極的に参加する」が4.1ポイント低くなっています。また「特にない」の割合が10.6ポイント高くなっています。
- ・性別で見ると、女性では「子育て支援に関する活動に参加する」が17.5%で最も多いですが、男性は「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」が14.6%で最も多くなっています。
- ・性別・年齢別で見ると、男女ともに「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」以外の項目では30歳未満もしくは30歳代が最も高い割合となっています。また、男女ともに40歳代から50歳代の60%以上が「特にない」と回答しています。

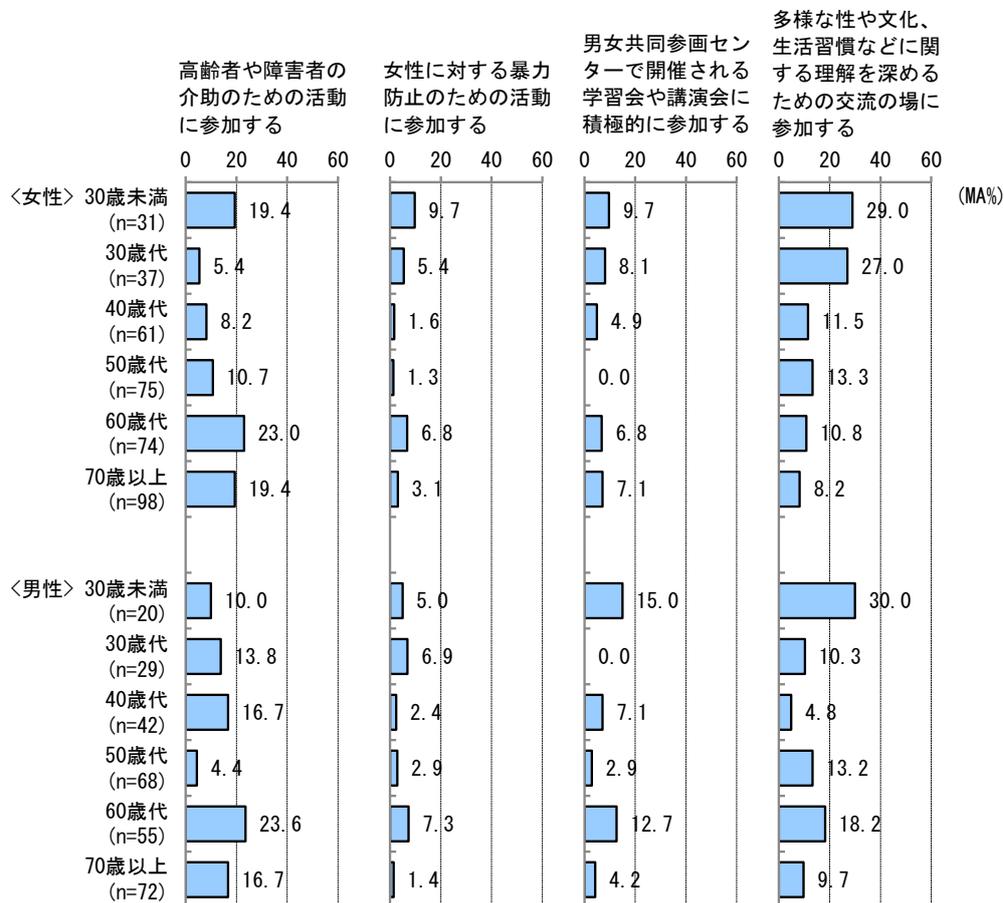
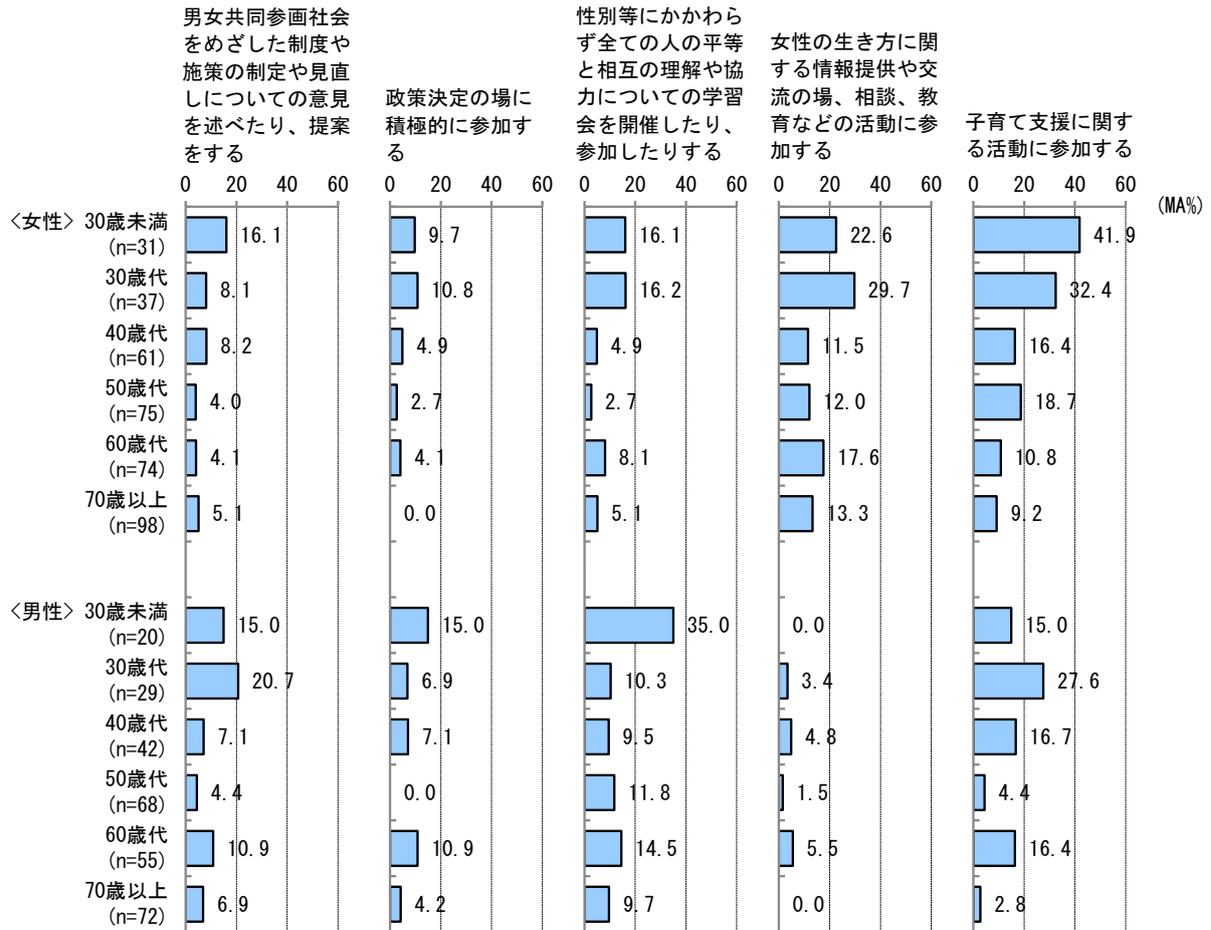
【全体（経年比較）】

【性別】



※1 前回調査では「男女平等をめざした制度や施策の制定や見直しについての意見を述べたり、提案をする」でした
 ※2 前回調査では「男女の平等と相互の理解や協力についての学習会を開催したり、参加したりする」でした。
 ※3 前回調査では「多様な文化や生活習慣に関する理解を深めるための国際交流の場に参加する」でした。

【性別・年齢別】



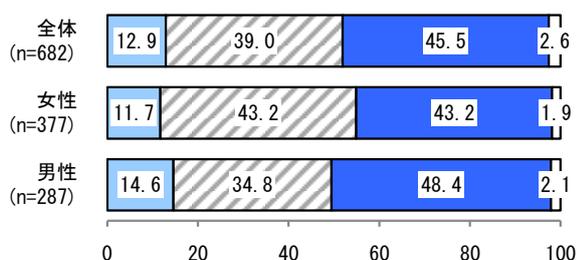
(4) 男女共同参画に関する言葉や市の取り組みの認知度

問22 あなたは、次の言葉や東大阪市の取り組みをご存じですか。(それぞれに○は1つずつ)

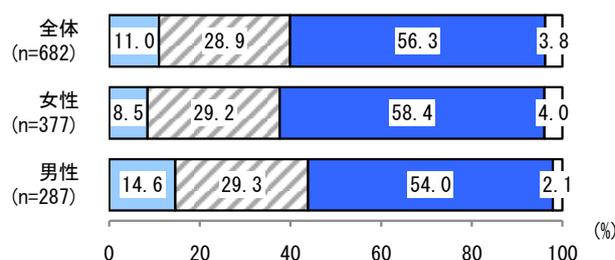
- ・全体では、「よく知っている」の割合は“SDGs”が32.6%で最も高く、次いで“男女共同参画社会”が12.9%、“ダイバーシティ”が11.0%、“デートDV”が10.9%となっています。一方、「知らない」の割合は“リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)”が87.0%で最も高く、次いで“SOGI”が85.3%、“アンコンシャス・バイアス”が82.7%、“大阪府パートナーシップ宣誓証明制度”が75.1%となっています。
- ・性別でみると、「よく知っている」の割合は、“東大阪市立男女共同参画センター・イコラム”では男性より女性のほうが7.7ポイント高いです。
- ・性別・年齢別でみると、「よく知っている」の割合は、“東大阪市立男女共同参画センター・イコラム”は年齢が上がるほど割合が高くなっています。

【性別①】

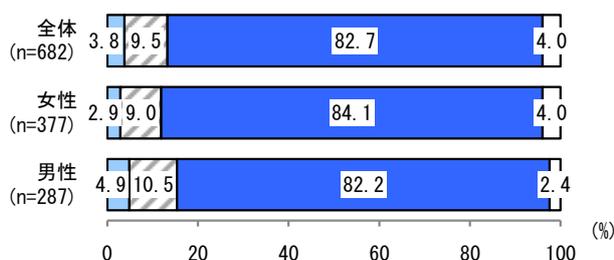
■男女共同参画社会



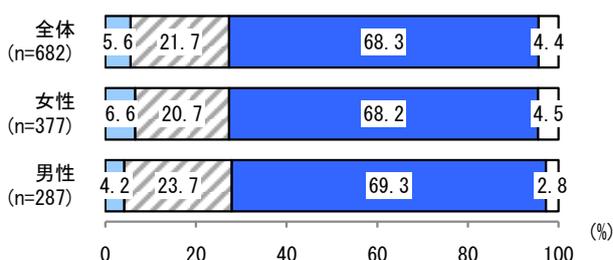
■ダイバーシティ



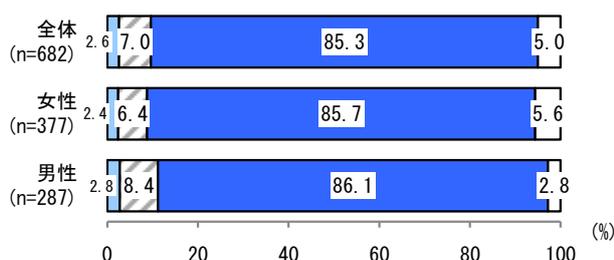
■アンコンシャス・バイアス



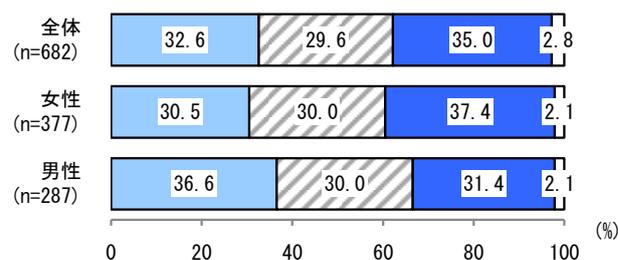
■ジェンダーギャップ指数



■SOGI



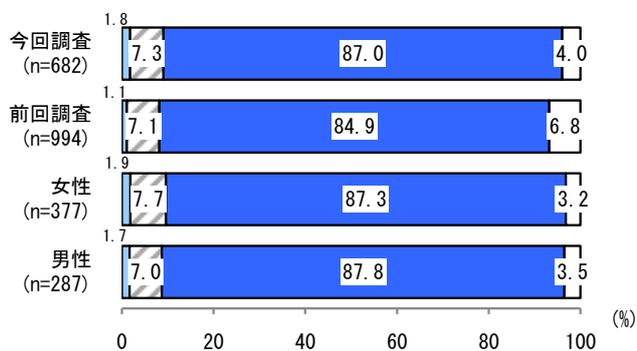
■SDGs



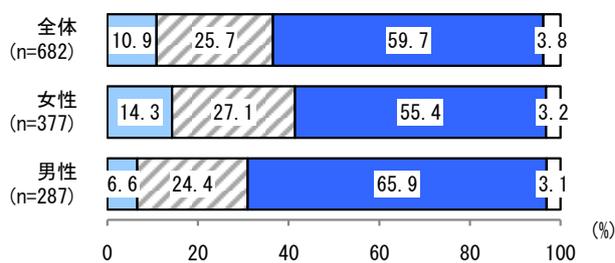
よく知っている 聞いたことがある 知らない 無回答

【性別②】

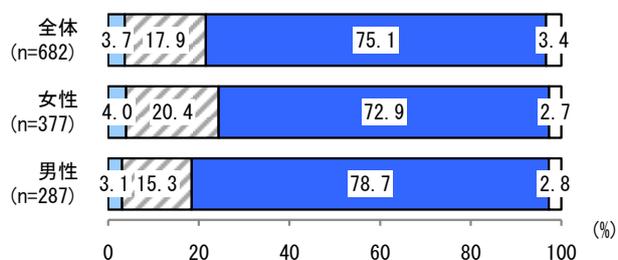
■リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）



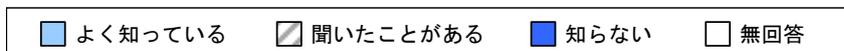
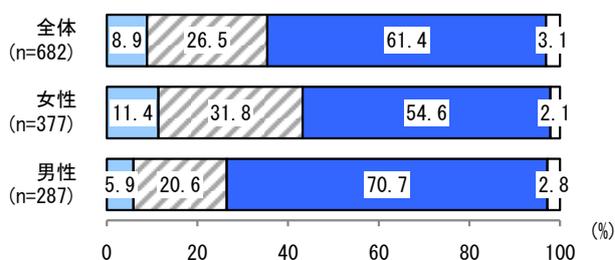
■デートDV



■大阪府パートナーシップ宣誓証明制度

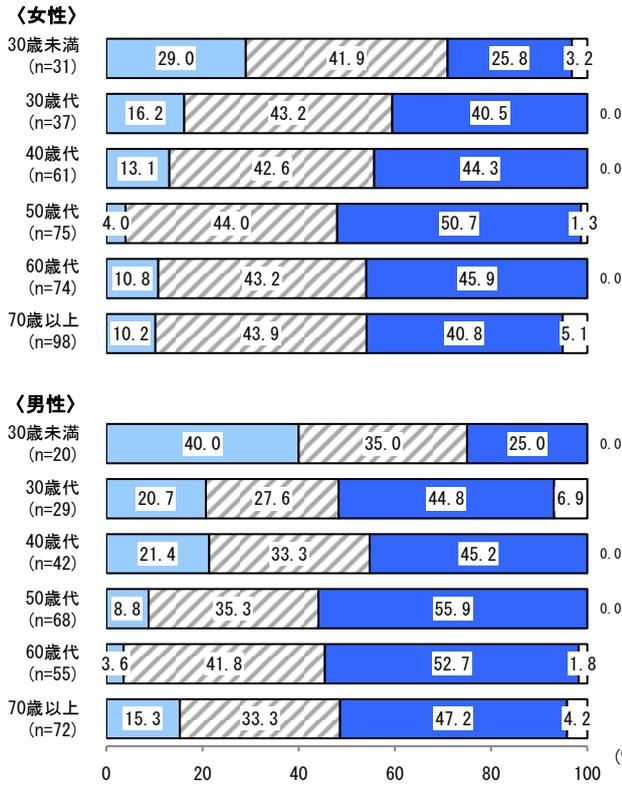


■東大阪市立男女共同参画センター・イコーラム

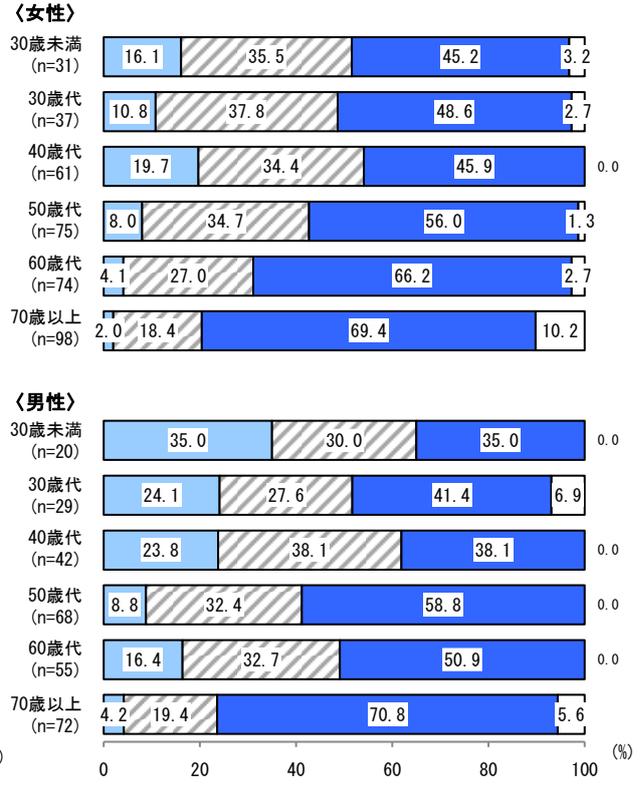


【性別・年齢別①】

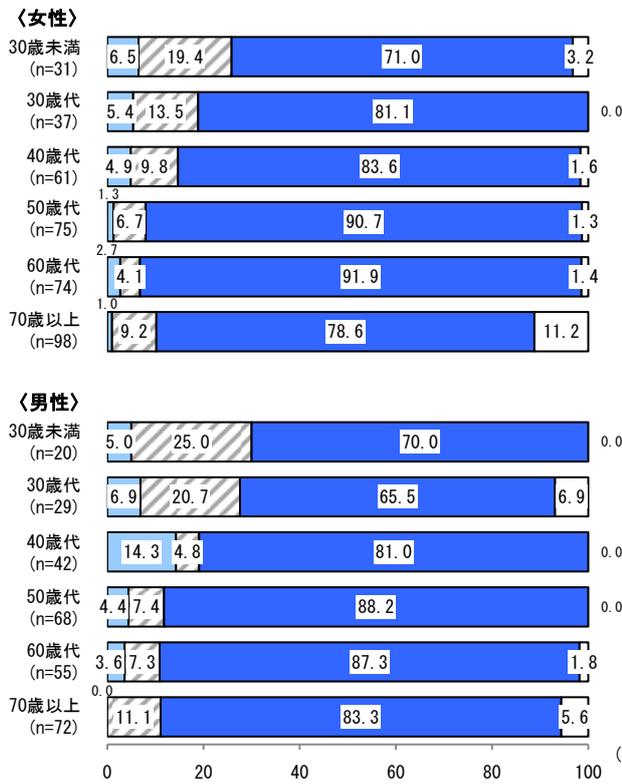
■男女共同参画社会



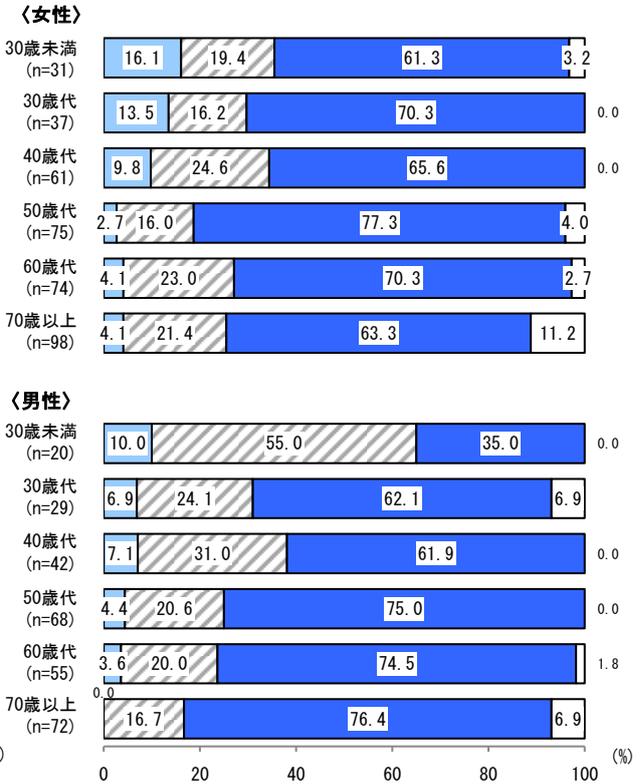
■ダイバーシティ



■アンコンシャス・バイアス



■ジェンダーギャップ指数

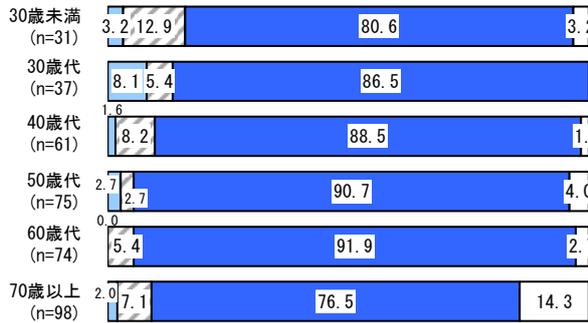


よく知っている 聞いたことがある 知らない 無回答

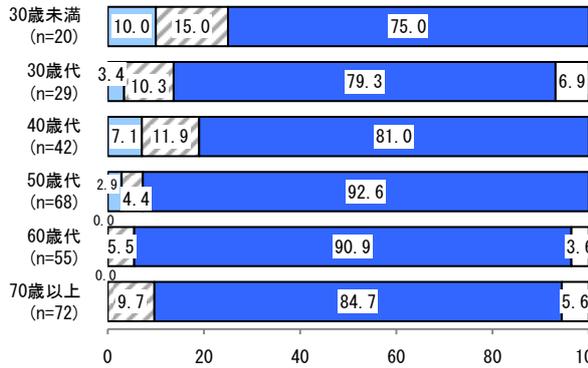
【性別・年齢別②】

■ SOGI

〈女性〉

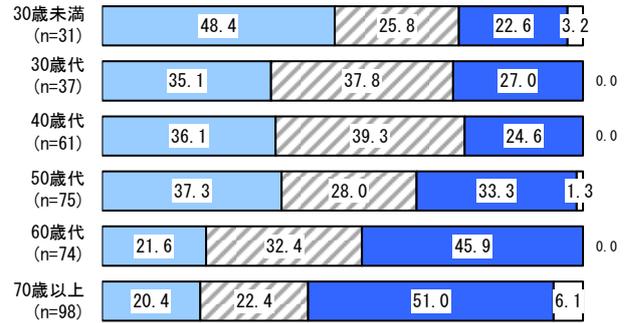


〈男性〉

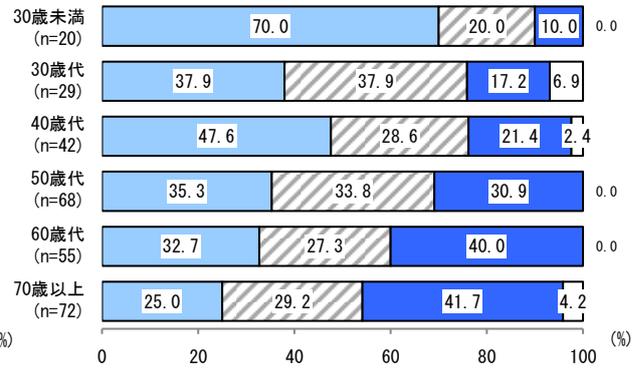


■ SDGs

〈女性〉

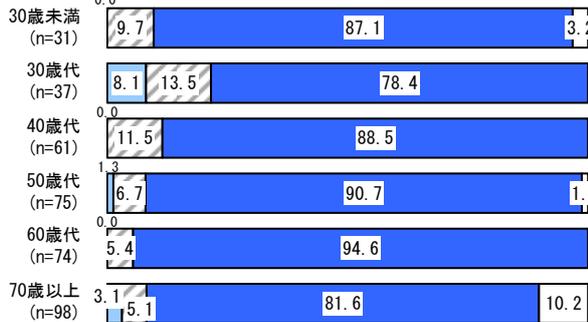


〈男性〉

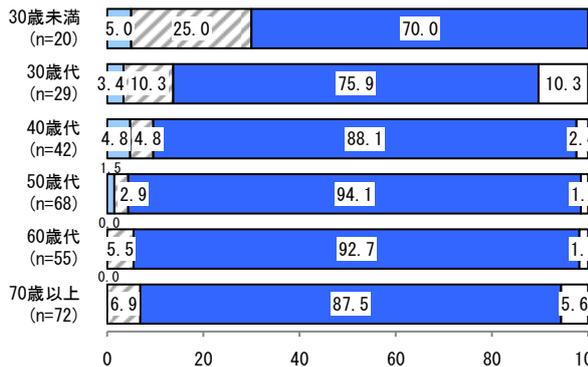


■ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)

〈女性〉

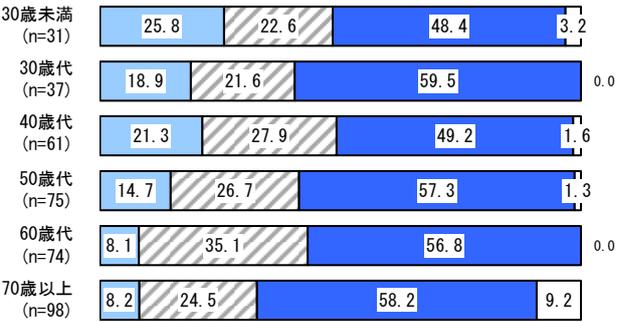


〈男性〉

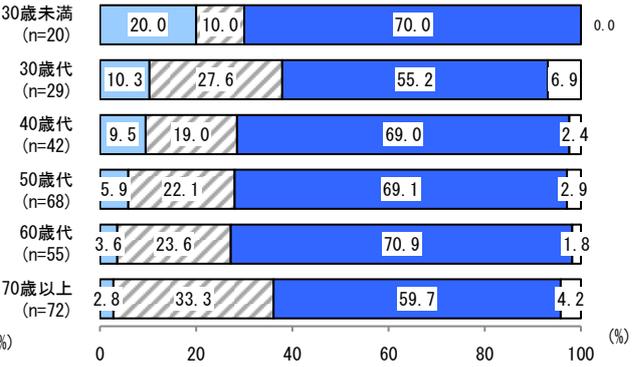


■ デートDV

〈女性〉



〈男性〉



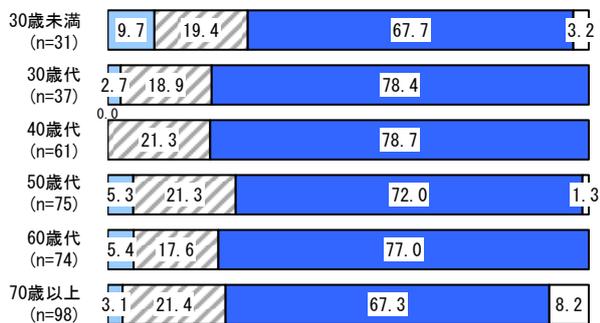
よく知っている
 聞いたことがある
 知らない
 無回答

【性別・年齢別③】

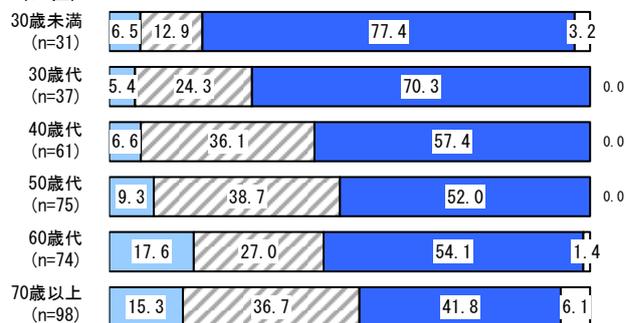
■大阪府パートナーシップ宣誓証明制度

■東大阪市立男女共同参画センター・イコーラム

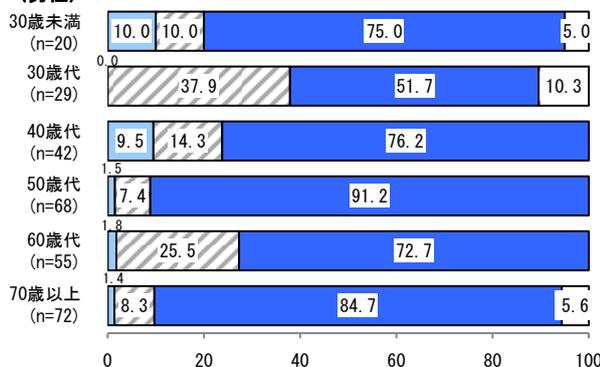
〈女性〉



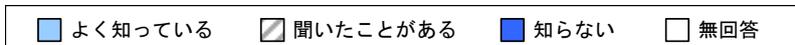
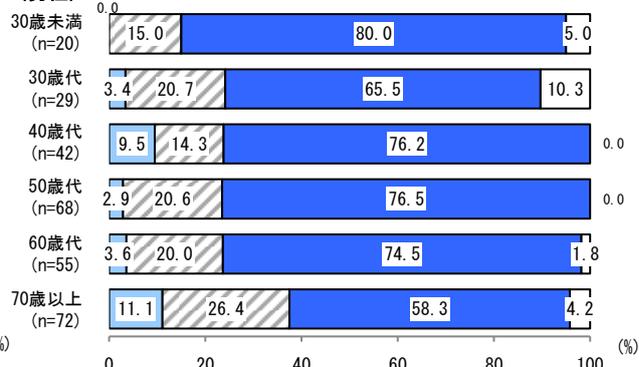
〈女性〉



〈男性〉



〈男性〉



9. 自由意見

男女共同参画社会実現のための意見、要望について寄せられた自由記述は、71人から挙げられました。

分類ごとの主な意見は、原則として原文のまま掲載していますが、明らかな誤字・脱字は修正しています。

分 類	件 数
(1) 仕事について	11
(2) 日常生活や子育てについて	6
(3) 男女の地位に関する意識について	17
(4) 健康や地域活動、老後の暮らしについて	5
(5) 人権の尊重について	5
(6) 男女共同参画社会の形成に関する意識について	21
(7) その他	8
延べ件数	73

(1) 仕事について (11件)

- 女性の出産、育児休暇後の仕事復帰を充実した状態にしないとしんどいばかりで出産したいと思えないと感じます。少子化社会が進むばかりです。結婚しない女性も増えています。政府の大きな改革が必要です。(女性 50歳代)
- 職場で上司は男性が多いためか、男性であれば何か大きな失敗、モラハラやパワハラといった行為は許される傾向がありますが、対して女性は許されないため、退職に追い込まれたりするのを見かけ、社会で女性は弱者であることを痛感します。まずは男性の意識を変えていかなければ男女平等は不可能だと思います。日本の教育は考える力は養われるかもしれませんが、思いやり、人の心を考えるなど、そもそも1人の人間としてどうすべきなのか教わることもなく、加害者になっていることに気付けない大人が多いと思います。まずはそういうことを認識しない限り、いくら周囲から男女平等だと言っても他人事で、自分たちが知らないうちに差別をしていることを何かしらの形で周知する必要があります。(女性 30歳代)
- 女性の社会進出や産後の職場復帰、育児との両立は、会社の制度が適してないから難しいのではないかと思います。時短勤務は大企業なら小学校低学年まで進んでいますが、中小はまだまだですし、小学校中までは時短勤務と学童に入りやすい状況でないとな女性が働き続けることは難しいと思います。また、女性が働きつづけられる土台がないと、出世にも絡まず総合職での勤務を続けることも難しい。職種も一般職など、賃金の高い職にステップアップしてつけない事も多くあると考えます。出産、育児で戦力として外れてしまう可能性のあるスタッフは、能力ではなく属性で出世から外れていると思います。(男性 40歳代)
- 現代において、男性の育児参加が少ないという状況があると思います。その要因として、男性の育児への意識の低さや、育児休暇などを取得するための職場の理解が不足してい

ることなどがあると考えます。その解消のため、子どもの頃から育児は父母共同で行うものであることを伝える教育の実施や、職場の目標として女性と同じ水準まで男性社員の育児休暇取得率を上げる取組を行うことなどがあると考えます。(男性 20歳代)

- 職場での男女の平等が徹底されておらず昭和から大きく変わっていないように感じる。まずは職場から事務職→女性→雑用のバイアスを、総合職のサポート役→事務職に変えていかななくてはいけないと思う。(女性 50歳代)
- 家庭でも、子どもの体調不良などで休むのはだいたい母親というのはおかしいので、子どもが体調不良のため休む男性がもっと増えればいいのにとと思う。(女性 30歳代)
- 女性が働きたくてもまだまだ保育所が不足している問題。育休明けに合わせて対応できる柔軟な入所形態の実施を検討してほしい。
看護師、保育士、介護士の不足。低賃金の問題→質の低下にもつながっている。
男性が育児休暇を取得するにもなかなか難しい職場が多数ある問題。
子育て家事を男女平等同比率で分担する社会にするには多難である。(女性 60歳代)

(2) 日常生活や子育てについて (6件)

- 40年前の社会とは、ずいぶん変化してきていることは実感します。出産をして子どもを預ける場所も増えてきていて、働きやすくなってきていますね。私の出産時のことを思えば、うらやましいことです。自分の両親に子どもを見てもらえず働けませんでした。子育ても相談する所や人にも恵まれず、大変苦労してきたので、ますます発展してほしいです。(女性 70歳以上)
- 不妊治療など保険適用にするべき。経済的負担大きい。(男性 40歳代)
- 子育てについてアンケートが逆差別のように感じた(問6)。子育て期の働き方、子育ては個人の自由で職場復帰を会社が拒むのはいけないが、働き続けられないといけないという社会が問題だと思う。健全な生活のためには子どもの学費(大学)の補助が大事。誰でも自由な進路が選べる社会になってほしい。(女性 50歳代)

(3) 男女の地位に関する意識について (17件)

- 先進国の中で女性の政治家が少ない。いかに女性の政治参加が増えるかをまず考えてほしい。まず、交流の場を増やすことから始めてほしい。(男性 60歳代)
- 男女共同といって女性を男性の方に合わせるような制度や対策は論外です。男性と同じように残業したとして、帰り道の安全面では圧倒的に女性が不利です。そういうことを踏まえて、適材適所になっていけるような制度や施策をお願いします。(女性 40歳代)
- すべての人の平等、男女の対等な関係を実現するのは難しいことだと思います。それぞれの人がお互いの違いを認め合い、補い合えるようになってほしいです。
(女性 60歳代)
- 男子は男子の役割、女性は女性の役割を上手に考えていけばよいと思う。
(男性 70歳以上)
- 電車の女性専用車両の廃止。もしくは男性専用車両を作る。レディースデイの廃止。現在は女性優遇社会になってしまっている。男女平等と言いながら力作業は男に頼むなど

平等にはなっていないし、今後なることもないだろう。(男性 50歳代)

- 男性女性共に優れている所を活かせば良いと思う。(女性 70歳以上)
- 男女平等の経済的裏付けがなければ(自立可能な経済的裏付けが基礎!)全て絵に描いた餅である!現代は経済的な大きな不平等社会である!(女性 70歳以上)

(4) 健康や地域活動、老後の暮らしについて (5件)

- 一番早い情報源として市政だよりを見ておりますので、分かりやすく記事にしてほしい。70歳以上の人達が、仕事を辞めた場合、趣味や地域の活動場所などをどちらで調べて実行できるのか?人生100年の現在、活動はできなくても参加できるのであれば積極的にやりたいものです。ネットでは、調べる事が無理ですので、役所(近所の方が良い)で教えていただけたらぜひお願いしたいと思います。(女性 70歳以上)
- 介護が必要になった時に、もっと施設を増やして老々介護が少しでも減らしてほしい。自分自身に介護が必要になった時、すぐに施設に入居したい。(女性 50歳代)
- 土日を利用するイベント公演、学習会があればいいと思います。(女性 60歳代)

(5) 人権の尊重について (5件)

- どのような人でも人権を尊重しながら生活できる社会になってほしい。(女性 40歳代)
- 正直、人の意識、感覚などは生きてきた時代によって大きく異なり急速な時代の変化には対応しきれない部分は出てくると思う。(男性 50歳代)
- L G B T Qへの理解をきちんと広げていくことが基本的人権を守るために大切だと思います。「男女」と言っている段階で今の時代、世界と合っていない気がします。(女性 60歳代)
- 何事も一気にはなかなか変わらない。変われない気がしますが、それでもずっと少しずつでも続けてこそ何年、何十年先には少しでも改善されるのかとも思います。気長な話ですが、頑張っているのが一番かと。(女性 70歳以上)

(6) 男女共同参画社会の形成に関する意識について (21件)

- 「女性活躍推進法」は、2025年以降は「男女共同参画法」に吸収されますか?(女性 60歳代)
- 現在の取り組みを広く知らせ、多くの人に知ってもらおう。実現できていないところの法制化。参加しやすい会合のあり方。(女性 70歳以上)
- 東大阪市だけでなく、大阪府、知事の理解を経て実現させてほしいです。その次は国の理解。(女性 60歳代)
- 憲法から考え直してください。(男性 50歳代)
- まだまだ知られていないので色々な催しものをすればよい。(女性 70歳以上)
- 実のない所に型を作っても意味がない。本当の共同参画とは何かという点を考えていないのではないかと感じる。平等は難しい、それぞれの役割をしっかりと認識し、認め合うことが大切だと思う。流行ではなく、本当の実を求めなければ、ただ歪な社会になるだけだと思う。(男性 40歳代)

- このようなアンケートで少しでも市民の意識を把握し、東大阪市ができることを進めていってほしい。(女性 40歳代)
- 一人ひとりのバックボーンによって意識が全然違うと思うので、バックボーンの差に関わらず共通理解が得られるためにはどうしたらいいか考えて取り組む必要があると思います。難しいですが。(女性 40歳代)
- 日本国内だけではなく、広く世界の情勢に目をやり、理解を深める必要がある。(男性 60歳代)
- 男性、女性共に中心となる社会が理想と思うが、まだまだ実際には会社、地域、家庭でも理想に近づく進み方がゆっくりであるように感じる。女性も不満は感じていても声を上げていない気がする。育児、介護でもやはり女性が担うというのが現実と感じる。それぞれのサービスを受ける事に罪悪感のような感じ方ではなくできる人をお願いする事は悪くないという考え方が広まると良いと思う。(女性 60歳代)
- 性的マイノリティの方々もそうでない人々と同じように生きられるように、同性婚の法制化や多目的トイレの整備などを進めるべきだと考えています。(男性 20歳代)

(7) その他(8件)

その他については、ご自身の状態のことやアンケートについてのご意見などが寄せられました。

主な意見は以上となります。多くの自由記述を寄せてくださったことに感謝し、これを励みとして、今後いっそう取り組んでまいります。

V まとめと検討課題

【基本方針Ⅰ あらゆる分野における女性の活躍】

- ・就労している人が増えていますが、50歳代以下の女性は就労していない人が男性より多く、またすべての年齢で女性の雇用形態に非正規が多く見られます（問1）。仕事をしていない理由として、家事や子育てを理由とする人は男性より女性が多くなっています（問1-3）。一方で妊娠・出産などに関わりなく女性の就労継続を望む人も増えていきます（問6）。
- ・仕事を持っていない女性が今後仕事につく上での不安として「自分の資格や能力が通用するか」や「家事、子育て、介護との両立ができるか」は3割と比較的高い割合を示しています（問1-4、問1-5）。
- ・「生活の中での優先事項」では、男性・女性ともに家庭生活を最も優先したい人が多く、個人の生活を優先したい人も増えていきます。しかし現実には、特に男性で仕事優先の生活をしている人が多く、理想と現実のギャップが大きいです（問1-1、問3）。このことが、男性が家事・育児・介護に費やす時間を減らし、女性の家事や育児の負担増に影響していることが推察されます。
- ・仕事と生活の調和を図るために必要なこととして、「育児・介護休業制度、短時間勤務制度の普及や取得の促進」、「労働条件の整備（在宅勤務、労働時間短縮、時差出勤の普及等）」、「介護など在宅福祉・施設福祉の整備・充実」、「保育施設、学童保育など子育て環境の整備・充実」と考える意見は多く、特に女性の割合が高くなっています（問4）。
- これらのことから、就職や再就職、起業等を支援する学習活動機会の提供が求められます。また男性・女性ともに平等に、家庭生活や個人生活の状況に応じて休み方や働き方を柔軟に選択できる、働きやすい就業環境づくりのために市内事業所への働きかけを強め、ワーク・ライフ・バランスを実現することが必要です。併せて仕事と家事・育児・介護などの家庭生活を両立するためのニーズに応じた各種福祉サービスの充実が求められます。
- ・「職場（賃金や待遇など）」、「地域活動、社会活動への参加」、「政治・経済活動への参加」の項目において、男女が平等になっていると思わないという見方が、平等になっていると思うという見方を上回っており、特に女性において、そう思わないという割合が高くなっています（問20）。
- これらのことから、待遇改善や管理職への積極的登用など、職場における女性の地位向上を行政自身が推進してロールモデル（模範）を示すことが必要です。市内事業所に対しても女性活躍推進法などの周知徹底を進めるなど、男女共同参画の視点から労働条件・職場環境の改善を促していくことが求められます。また地域における女性の積極的登用が進むよう、地域団体への啓発を進めることが必要です。

【基本方針Ⅱ 健やかに安心して暮らせる社会づくり】

- ・配偶者や恋人からDVを受けたことがあった（ある）人の割合は、DVを受けた・したもののについて、ともに「精神的暴力」が最も高くなっています（問17）。
- どのような言動が精神的暴力となるか、また精神的暴力を防止するための周知を行っていく必要があります。**
- ・DVを受けた後の相談状況について、「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」割合が、約3割と高くなっています（問17-1）。また暴力の被害にあった際の相談機関や窓口について、「いずれも知らない」が約2割を占め、相談機関として行政が設置する相談窓口の認知度も低い（問18）、**相談機関のさらなる周知が必要です。**
- ・DVを受けたときに相談しなかった理由として、「相談しても無駄だと思った」や「自分さえ我慢すればやっていけると思った」が男性の6割以上を占めており、DV相談は女性のものという思い込みや、「男は我慢」というジェンダー意識が未だに強いことが考えられます（問17-2）。
- 男性が受けるDV被害について、啓発や相談窓口の周知等により、「相談してよい」という意識の醸成が求められます。**
- ・生活の中でのコミュニケーションの状況について、同居していない家族や友人とコミュニケーションをとる頻度は女性に比べて男性が低い状況がみられました（問9）。ストレスについての相談相手では、女性に比べて男性で「誰にも相談しない」が高くなっており（問7-2）、家族以外の地域や友人とのつながりは女性に比べて男性で少ない傾向がみられます。また、公的機関・民間の相談機関より医療機関に相談する人が多くなっています（問7-2）。
- これらのことから、男性も興味を持ちやすく参加しやすい各種の催しや学習機会の提供を通じてエンパワーメントにつなげたり、家族や職場以外でのつながりを作っていく仕組みを検討していくことが求められます。また、相談先として医療機関だけでなく信頼できる複数の相談先が持てるよう、相談窓口の周知が必要です。**
- ・ストレスにより生活に困難を感じる人は男性に比べて女性が多く、その理由も様々です（問7、問7-1）。また60歳代以上の単身女性の約2割が103万円未満の収入と回答しました（問28）。
- これらのことから、女性を中心に、生活の困難に対する様々な支援が求められます。**
- ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの認知度は依然として低くなっています（問22）。
- 自らの出産や健康づくりについては、女性自身に権利があることの意義を今後とも広く啓発するとともに、健康づくりや出産・子育てについての市の事業を充実し、周知することが必要です。**

【基本方針Ⅲ 男女共同参画に向けた意識形成】

・男女の地位に対する市民の意識は、「平等になっている」と思う人の割合が「学校教育の場」で最も高くおよそ4割を占めています。それ以外の分野では、そう思わない人のほうが高い割合を占めています。また、すべての項目で男性に比べて女性で「平等になっている」と思わない人の割合が高く、特に、「雇用の機会や働く分野」「家庭生活の場」「社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）」「法律や制度」では男性と女性で意識の大きな差が見られます（問20）。

一方、「『男は仕事、女は家庭』という男女で役割を固定した考え方」「育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい」「男性の方が女性より、管理職としての資質がある」など、性別役割分担に対する意識については、すべての項目で前回調査より否定的な考え方が増えました。特に30歳代と30歳未満の若い世代では、「妻や子どもを養うのは男性の責任である」と思わない女性が6割を越え、「育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい」と思わない男性も6割前後を占めます。さらに、「男性の方が女性より、管理職としての資質がある」と思わない人は男性・女性ともに5～6割あり、若い世代での固定的役割分担意識の解消は進んでいることが伺えます（問19）。

- これらのことから、若い世代の人々の意識が広がり、性別や家族の形態にかかわらず全ての人々がエンパワーメントされるような社会へと変えていく力になるよう、SNSを含めたさまざまな媒体を活用し、情報発信を効果的に行うことが必要です。

・子どもに必ず身につけてほしいこととして、「困った時に助けを求める力」と考える人の割合が、年齢が高くなるにつれて下がっています（問11）。

- 「助けを求める力」は社会福祉分野でも重視されており、防災や精神的孤立・孤独など様々なものに関わってくるエンパワーメント要素の一つであり、高齢者の男性・女性を中心に意識啓発が必要です。

・子どもの育て方について、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という割合は低下し（問19）、子どもに必ず身につけてほしいこととして、女の子の場合は「自立できる経済力」が6割に増えました（問11）。一方男の子は「自立できる経済力」が「家事・育児の能力」より大きく上回り、男女共同参画社会を進めるための保育・教育事業での重要な取り組みでは、「性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする」が高くなっています（問11、12）。

- これらのことから、成人・保護者に対しては家庭における子どもの指導・教育についてのさらなる啓発を進めるとともに、子どもの教育現場において性別による固定的な考え方にとらわれない進路指導やキャリア教育を推進していくことが期待されます。

・大規模災害時の避難所生活について、すべての世代で避難所運営に高い関心を示しています（問13、14）。

- 避難訓練などの防災をきっかけとして地域活動に参加できるよう、教育機関や市内事業所と協力して働きかけることが求められます。またその活動に、性別にかかわらず全ての人に対する平等意識の視点を取り込み、男女共同参画を促進することが必要です。

- ・「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」で女性が男性を大きく上回っています（問5）。また要介護状態になった場合に介護をしてもらいたい相手として、配偶者と回答した割合は男性が女性の2倍である一方、ヘルパー等の介護従事者や施設での介護を希望する割合は男性の方が低くなっています（問10）。
- ・男女共同参画推進のために参加したい活動では、子育て支援や高齢者・障害者の介助が高くなっています（問21）。
- 家族だけに育児や介護をとどめることができない時代に変化しており、男性も参画は必要ですが、同時に家族以外に助けを求めることに抵抗感をなくしていくことが必要です。そのためには男性を中心に催しや講座などを通して男女共同参画の意識啓発を行うとともに、育児や介護への理解を深める施策を進めることが求められます。**
- ・性的マイノリティの人々に対する偏見や差別があると思う人の割合は8割を超え（問15）、生活しやすい社会を実現するために生活環境での配慮、職場環境づくり、医療・公共サービス・社会保障の整備、教育の充実などの対策が必要であると考える人の割合が4割以上います（問16）。
- これらのことから、性的マイノリティの方が利用できるサービスの導入や、市民や事業者、学校などに対して啓発を行うなど、理解促進と配慮につながる取組が求められます。**
- ・ひとり暮らし世帯が全体の15.1%を占めています（問26）。一方で地域活動は生活の中での優先度が希望と現状ともに非常に低くなっています（問4）。
- ひとり暮らしをはじめとした多様な家族形態の方々が地域活動に参加でき、地域社会とつながる取組が求められます。**
- ・男女共同参画社会を進めるための保育・教育事業での重要な取り組みや、男女共同参画推進のために参加したい活動では、多様な性や文化、生活習慣などへの多様な性や文化、生活習慣などへの理解を深める教育や交流が高く、多文化理解に関心が高いことがうかがえます（問12、21）。
- これらのことから、相互理解を深められるように、情報提供や交流の場、学習機会の提供や充実を図ることが求められます。**

だれもが暮らしやすい社会づくりに向けたアンケート

*** 調査ご協力方のお願い ***

日頃から、市政全般にわたって格別のご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
東大阪市では、「第4次東大阪市男女共同参画推進計画」を策定し、男女共同参画社会の実現をめざして様々な施策に取り組んでいます。このたび、計画改定にかかる基礎資料として、市民のみなさまのご意見をお聞きするために市民意識調査を実施します。

このアンケートには、あなたのお名前のご記入は不要です。また、いただいたご回答は、調査の趣旨に沿って至って統計的に集計・分析しますので、個々の回答を他に漏らしたり、そのまゝの形で公表することはありません。

※このアンケートは、市内在住の満18歳以上79歳以下の方を無作為に選んで実施しています。

*** ご回答にあたってのお願い ***

- 1 回答方法は、①郵送で回答、または、②WEB（パソコン・スマートフォン・タブレット）で回答、のいずれかとなります。
WEBで回答する場合は、下記のURLもしくは右の二次元コードからアクセスして、アンケートフォームに直接回答を入力してください。
※WEBでの回答にはIDの入力が必要ですが、なお、IDは重複回答を確認するものであり、個人を特定するものではありません。
URL ≫ <https://src.webcas.net/form/pub/src2/27272lib>
▼ IDはこちら▼

hg20001
- 2 このアンケートには、封筒宛名のご本人さまがご回答ください。（どなたかに代筆いただいてもかまいません）
- 3 ご記入は、縦筆やボールペンなどとはっきりと読み取れる筆記用具をご使用ください。
- 4 ご回答は、回答欄のあてはまる番号を○で囲んでください。ご回答が「その他」の場合は、番号に○をつけ、（ ）内に具体的に記入してください。

ご記入いただいた調査票は、令和6年8月30日（金）までに、同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご返送くださるようお願いいたします。

*** 調査についてのお問い合わせ ***

東大阪市 誰もが暮らしやすい社会づくりに向けたアンケート コールセンター

☎ 0120-186-189 (FAX 06-4801-9228)

受付時間：月～金曜日（土曜・日曜・祝日除く）午前9時～12時・午後1時～5時

【調査実施主体】東大阪市 多文化共生・男女共同参画課

VI 資料編（調査票）

*** WEBでの回答の一時保存の方法 ***

WEBで回答される場合、回答途中での一時保存が可能です。下記の方法をお願いします。

- 1 調査画面ページの下にある「一時保存」のボタンを押してください。



- 2 回答の一時保存に関する画面が表示されます。

回答の一時保存について

ご回答いただいたデータを一時保存しました。

① ご注意ください

- ・ 回答を再開する場合は、下記の再開URLにアクセスしてください。
- ・ 再開URLがわからなくなった場合、保存したデータからの再開はできません。
- ・ 再開URLはメールで送信するかメモ帳などにコピーし、必ずお控えください。
- ・ ログインページがある場合は、ログイン画面からも再開できます。
- ・ 回答の一時保存期限が過ぎると、回答内容が消失されます。

再開URL	再開URLが表示されます
回答の一時保存期限	保存期間は約1週間です

再開URLをメールで送信する場合は、下記にメールアドレスを入力し送信ボタンを押してください。

再開URL送信メールアドレス	
再開URL送信メールアドレス(確認用)	

戻る メール送信

- 3 上記画面に表示される「再開URL」を、必ずお控えください。
もしくは、再開URLのメールでの送信をご希望の場合は、「再開URL送信メールアドレス」にご自身のメールアドレスを入力し、「メール送信」のボタンを押してください。

※再開URLがわからなくなった場合、保存したデータからの再開はできません。

※回答の一時保存期限が過ぎると、回答内容は消失されます。

※メール送信をした場合は、「higashi@osaka@sureco.jp」のアドレスより、

「再開URLのご案内」のメールが届きます。

- 4 一時保存期間（約1週間）以内に、「再開URL」から回答を再開してください。

仕事についておたずねします

この調査では、「結婚」は法律上婚姻してない、いわゆる事実婚を含みます。「配偶者」という場合は、あなたの夫、妻、同居しているパートナーのことを意味しています。また、「仕事」という場合は、収入を得る仕事を意味しています。

問1 あなたと、配偶者の仕事についてお答えください。(それぞれ0は1つずつ)
※配偶者がいない場合は、あなたご自身の職のみお答えください。

(1) あなたご自身	(2) 配偶者
1 正規社員・職員	1 正規社員・職員
2 非正規社員・職員 (契約・派遣社員)	2 非正規社員・職員 (契約・派遣社員)
3 非正規社員・職員 (パート・アルバイト)	3 非正規社員・職員 (パート・アルバイト)
4 自営業、またはその手伝いをしている	4 自営業、またはその手伝いをしている
5 仕事を持っていない ⇒ 問1-3・1-4へ	5 仕事を持っていない

問1-1-1-2については、問1で「1」～「4」のいずれかを回答した方におたずねします。

問1-1-1 1週あたりの平均労働時間を教えてください。(通勤時間を含む)

(1) あなたご自身	(2) 配偶者
1 週あたり () 時間くらい	1 週あたり () 時間くらい

問1-2 勤務地はどちらですか。(0は1つ)

※複数の仕事をしている場合は、主な仕事の勤務地をお答えください。

(1) あなたご自身	(2) 配偶者
1 東大阪市内 (在宅)	1 東大阪市内 (在宅)
2 東大阪市内 (在宅以外)	2 東大阪市内 (在宅以外)
3 大阪府内 (東大阪市内)	3 大阪府内 (東大阪市内)
4 大阪府外	4 大阪府外

問1-3～1-5については、問1 (1) で「5 仕事を持っていない」と回答した方におたずねします。

問1-3 あなたが仕事をしたいのはどうですか。(0は主なもの1つ)

1 やりたくない仕事がない	2 求職中である
3 家事や子育てをしている	4 介護・看護をしている
5 定年退職した	6 健康上の問題がある
7 学生である	8 働く必要がない
9 働きたくない	10 その他 (具体的に:)

問1-4 あなたは今後、仕事につきたいと思えますか。(0は1つ)

1 ぜひ、仕事につきたい	2 できれば、仕事につきたい
3 仕事につきたいと思わない	4 わからない

問1-4で「1」または「2」と回答した方におたずねします。

問1-5 あなたは、今後、仕事につく上で何か不安がありますか。

(あてはまるものすべてに0)

1 自分のしたい仕事につけるか	2 自分の資格や能力が通用するか
3 職場の人間関係がうまくいくか	4 望む賃金が得られるか
5 労働時間・休日・休憩など、望む労働条件が得られるか	6 自分の健康状態や体力が得られるか
7 家族の理解が得られるか	8 家事、子育て、介護との両立ができるか
9 年齢制限	10 保育施設、学童保育等を利用できるか
11 その他 (具体的に:)	12 特になし

問1-5 全員におたずねします。

ワーク・ライフ・バランスについておたずねします

問2 あなたは、ふだんの平日に、家事・育児・介護についてどれくらいの時間を使っていますか。

(1) 家事に	1日あたり () 時間 () 分くらい
(2) 育児に	1日あたり () 時間 () 分くらい
(3) 家族の介護に	1日あたり () 時間 () 分くらい

問3 あなたは、生活の中の「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人の生活」のどれを優先していますか。

(1) 希望 (理想) と、(2) 現状 (現実) について、1番・2番に優先したい又は優先されている事項をお答えください。(それぞれ0は1つずつ)

(1) 希望 (理想)	(2) 現状 (現実)
《第1に優先したい》	《第1に優先されている》
1 仕事	1 仕事
2 家庭生活	2 家庭生活
3 地域活動	3 地域活動
4 個人の生活	4 個人の生活
《第2に優先したい》	《第2に優先されている》
1 仕事	1 仕事
2 家庭生活	2 家庭生活
3 地域活動	3 地域活動
4 個人の生活	4 個人の生活

問4 今後、性別にかかわらず至るの人がとも仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 働く場の確保・再雇用制度の推進・充実
- 2 育児・介護休業制度、短時間勤務制度の普及や取得の促進
- 3 労働条件の整備(在宅勤務、労働時間短縮、時差出勤の普及等)
- 4 ワーク・ライフ・バランスを大切にすることを意識啓発
- 5 結婚退職、出産退職の慣行をなくす
- 6 「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識をなくす
- 7 家族や配偶者の理解・協力
- 8 昇進や賞与、教育訓練など職場における男女平等の徹底
- 9 保育施設、学童保育など子育て環境の整備・充実
- 10 介護など在宅福祉・施設福祉の整備・充実
- 11 上司や同僚など職場内での理解・協力
- 12 その他(具体的に：)

問5 今後、男性が家事・育児・介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性の家事・育児・介護などへの女性の抵抗感をなくす
- 3 男性が家事・育児・介護などへ参加しやすい環境をつくる
- 4 夫婦の間で、家事・育児・介護などの役割分担について話し合う
- 5 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める
- 6 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持つようになる
- 7 講習会や研修によって、男性の家事・育児・介護などの技能を高める
- 8 男性の家事などに対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行う
- 9 家事・育児・介護などについて男性間の仲間(ネットワーク)づくりをすすめる
- 10 その他(具体的に：)
- 11 どれも必要ない



ワーク・ライフ・バランスとは？

誰もが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで取り組むことができる状態のことです。

問6 女性の働き方について、(1)どのような働き方が望ましいと思いますか。(○は1つ) また、(2)実際の働き方はどれにあたりますか。(○は1つ)

※(1)・(2)ともに、男性もお答えください。(2)については、男性は、あなたの配偶者についてお答えください。女性の配偶者おられない男性は10を選択してください。

(1) 望ましい働き方	(2) 実際の働き方
結婚や出産をしないに関わらず、働き続ける	1
結婚するまで働き、結婚後は家事に専念する	2
就労し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	3
就労し、出産したら育児休業した後、職場に休業前と同じ働き方で復帰する	4
就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する	5
就労し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたから就労する	6
就労せず、出産し、家事・育児に余裕ができたから就労する	7
仕事にはつかない	8
その他(具体的に：)	9
該当しない(男性で、女性の配偶者はいない)	10

問7 暮らしの悩みなどについておたずねします(あてはまるものすべてに○)

あなたは、生活の中でどのようなことにストレス(不安や悩み)を感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 経済的なこと
- 2 仕事のこと
- 3 勉強や進学のこと
- 4 自分の健康状態のこと
- 5 家族の健康状態のこと
- 6 職場・学校の人間関係のこと
- 7 地域や近所の人間関係のこと
- 8 恋人のこと
- 9 家族のこと
- 10 将来のこと
- 11 その他(具体的に：)
- 12 特にない ⇒ 問8へ

問7-1・7-2については、問7で「1」～「11」のいずれかを回答した方におたずねします。

問7-1 ストレス(不安や悩み)で生活に困難を感じることはありますか。(○は1つ)

- 1 とても感じる
- 2 やや感じる
- 3 あまり感じない
- 4 まったく感じない

問7-2 ストレス(不安や悩み)について、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1 配偶者・恋人 | 2 配偶者以外の家族・親族 |
| 3 友人・知人 | 4 職場の上司・同僚や学校の先生・先輩・後輩 |
| 5 医療機関(病院・クリニック) | 6 公的機関 |
| 7 民間の相談機関 | 8 インターネット(SNSを含む) |
| 9 その他(具体的に:) | |
| 10 相談する人はいない | 11 どこに相談してよいかわからない |
| 12 誰にも相談しない | |

全員におたずねします。

問8 同居している人と、会話などのコミュニケーションをどれくらいとっていますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|---------------|----------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週2~3回程度 | 3 週1回程度 |
| 4 2週間に1回程度 | 5 月1回程度 | 6 年に数回程度 |
| 7 まったくない | 8 同居している人はいない | |

問9 同居していない家族や友人と、どれくらいコミュニケーションをとっていますか。

コミュニケーション手段別にお答えください。(それぞれ○は1つずつ)

頻を合わせた会話	ほぼ毎日	少なくとも週1回	少なくとも月1回	年に数回程度	まったくない
顔-to-顔	1	2	3	4	5
電話	1	2	3	4	5
SNS・メール	1	2	3	4	5

問10 もしあなたご自身が介護を要する状態になった場合、主に誰に介護してもらいたいですか。

(○は1つ)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1 配偶者 | 2 息子 |
| 3 娘 | 4 息子の配偶者 |
| 5 娘の配偶者 | 6 きょうだい |
| 7 その他の家族・親族等(具体的に:) | 8 友人・知人 |
| 9 ヘルパー等の介護従事者 | 10 施設での介護 |
| 11 その他(具体的に:) | 12 わからない |

子どもの育て方や教育についておたずねします

問11 あなたは、次のことについて、子どもにどのくらい身につけてほしいと思いますか。(項目ごとに○は1つずつ) ※子どものいない方も仮にしていると想定してお答えください。

	男の子		女の子	
	必ず身につけるべき	あまり身につけてほしくない	必ず身につけるべき	あまり身につけてほしくない
自立できる経済力	1	2	3	4
家事・育児の能力	1	2	3	4
家族や周囲の人と協調して円滑に暮らす力	1	2	3	4
リーダーシップ	1	2	3	4
個性を伸ばすこと	1	2	3	4
自分の意思によって社会とかがかわる力	1	2	3	4
困った時に助けを求める力	1	2	3	4

問12 男女共同参画社会を進めるために、保育施設・幼稚園・小学校・中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 性別にかかわらず全ての人の平等の意識を育てる授業をする
- 性別によって偏ることなく、個人の能力、個性、希望を大事にした進路指導をする
- 年齢に応じて、「性」は人間の年齢に関わるものであることを教える
- 保育士や教職員へ、男女平等教育に関する研修を充実する
- 園長や校長など管理職に女性を増やしていく
- 性別にかかわらず全ての人が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える
- メディア(テレビやインターネットなど)の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う
- 教育を進める
- 保護者会などを通じて保護者に男女共同参画の啓蒙をする
- 多様な性や文化、生活習慣などへの理解を深めるための教育を進める
- その他(具体的に:)
- 特になし

防災・災害復興対策についておたずねします

問13 防災・災害復興対策において、性別による違いや多様性に配慮した視点を防災に活かすために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 性別にかかわらず多様な人が参加できる防災訓練や防災講演会に取り組み
- 2 避難所の運営や備蓄物資の配備について、性別にかかわらず多様な人の意見を取り入れる
- 3 自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす
- 4 市の防災会議、防災担当に女性の委員、職員を増やす
- 5 性別や立場によって異なる災害時の備えについて理解を深める
- 6 日頃から性別にかかわらず全ての人のコミュニケーション・地域のつながりを大切に
- 7 日頃から性別にかかわらず全ての人の平等や、男女共同参画についての意識を高める
- 8 その他 (具体的に:)
- 9 どれも必要ではない
- 10 わからない

問14 大規模災害が発生した場合、避難所生活を強いられる可能性があります。仮に避難所生活になった場合、あなたは避難所の運営等に何らかの形で関わりたいと思いますか。(〇は1つ)

- 1 避難所運営の中心的役割として関わりたい
- 2 避難所運営のサポート (手伝い役) として関わりたい
- 3 避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身が関わるのは難しい
- 4 その他 (具体的に:)



自主防災組織とは？

自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚・連帯感に基づき、自主的に結成する組織で、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織です。市大崎市では校区自治連合会の組織を活かして結成されています。災害による被害を最小限に食い止め、地域住民の生命と財産を守っていくためには、地域住民自らが災害の初階で適切な防災活動を行うことが大変重要となります。

性のあり方についておたずねします

問15 性的マイノリティの方々にとって、現在の社会には偏見や差別があると思いますか。(〇は1つ)

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そう思わない

問16 性的マイノリティの方々にとって、偏見や差別をなくし生活しやすい社会を実現するためには、どのような対策が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに〇)

- 1 偏見や差別解消等を目的とする、法律や条例等の整備
- 2 生活環境での配慮 (性別に関係なく選べる制服、多目的トイレの設置など)
- 3 市独自の (婚姻に準ずる) 同性パートナーシップ制度等を導入する
- 4 児童・生徒に対する教育の充実
- 5 誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み
- 6 誰もが平等に受けられる医療・公共サービス・社会保障の整備
- 7 相談窓口や当事者同士が話せる場所の充実
- 8 行政による市民への周知啓発活動の実施
- 9 行政職員や小・中・高校などの教職員に対する研修の実施
- 10 性別記載欄の見直し
- 11 その他 (具体的に:)
- 12 どれも必要ではない



性的マイノリティとは？

性的指向 (恋愛感情又は性的感情の対象となる性別についての指向) が同性や同性であったり、性自認 (自分の性別をどう認識しているか) が身体的性別と一致していないなどの人々のことです。

配偶者や恋人間の暴力についておたずねします

問17 あなたは、過去5年間で配偶者や恋人に、次のようなことをされたり、したことがありますか。
(それぞれあてはまるものすべてに○)
※過去5年間に配偶者や恋人がいなくても、問18に進んでください。

	(1) されたこと		(2) したこと	
	何回もあつた	1、2回あつた	何回もあつた	1、2回あつた
身体的暴力 (殴る蹴る、首をしめる、つきとばす、髪を引っばる、物をなげつける など)	1	2	3	1
精神的暴力 (どなる、脅す、ばかにする、無視する、自暴をほのめかす など)	1	2	3	1
性的暴力 (性行為を強要する、避妊に協力しないなど)	1	2	3	1
経済的暴力 (生活費を渡さない、外で働かせない、借金を繰り返す など)	1	2	3	1
社会的暴力 (外出を制限する、メールや電話をチェックする、友人や家族と会わせない など)	1	2	3	1
子どもを利用した暴力 (子どもを取り上げると脅す、子どもに暴力を見せる など)	1	2	3	1

問17 (1) で「1」または「2」に1つ以上○をした方におたずねします。

問17-1 問17のようなことをされたとき、誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1	二人(夫と妻、パートナー・恋人同士)で話し合った
2	親やきょうだい、親類に相談した
3	友人・知人に相談した
4	職場・学校に相談した
5	公的機関(市役所、男女共同参画センター、配偶者暴力相談支援センターなどに相談した(電話相談を含む))
6	民間の機関(支援グループなど)に相談した
7	医療機関に相談した
8	警察に連絡、相談した
9	その他(具体的に：)
10	どこにも相談しなかった ⇒ 問17-2へ

問17-1 で「10」どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」と答えた方におたずねします。

問17-2 どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。
(あてはまるものすべてに○)

1	どこに(誰に)相談したらよいかわからなかった
2	恥ずかしくて誰にも言えなかった
3	相談しても無駄だと思った
4	相談したことがわかると仕返しをされたり、さらに暴力をふるわれると思った
5	自分さえ我慢すればやっていけると思った
6	自分にも悪いところがあると思った
7	相談するほどの事ではないと思った
8	その他(具体的に：)

委員におたずねします。

問18 配偶者や恋人から暴力の被害にあって、その際の相談機関や窓口として、あなたが知っているところはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1	東大阪市配偶者暴力相談支援センター (DV相談室)
2	東大阪市立男女共同参画センター・イコラーム みんなの相談室
3	大阪府女性相談センター
4	大阪府東大阪市子ども家庭センター (DV専用)
5	警察
6	DV相談+ (プラス) 内閣府相談窓口
7	地域の相談窓口(人権擁護委員、民生委員・児童委員)
8	その他(具体的に：)
9	いずれも知らない

男女共同参画社会の形成に関する意識についておたずねします

問19 あなたは、次の考え方についてどう思いますか。(それぞれ○は1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方がよい	1	2	3	4	5
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい	1	2	3	4	5
妻や子どもを養うのは男性の責任である	1	2	3	4	5
養育や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい	1	2	3	4	5
子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい	1	2	3	4	5
男性の方が女性より、管理職としての責務がある	1	2	3	4	5

問20 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
学校教育の場では	1	2	3	4	5
雇用の機会や働く分野では	1	2	3	4	5
職場（賃金や待遇など）では	1	2	3	4	5
家庭生活の場では	1	2	3	4	5
地域活動、社会活動への参加では	1	2	3	4	5
社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では	1	2	3	4	5
法律や制度では	1	2	3	4	5
政治・経済活動への参加では	1	2	3	4	5
社会全体からみて	1	2	3	4	5

問21 あなたは、「男女共同参画社会」を推進するために、どのような活動に参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1 男女共同参画社会をめざした制度や施設の制定や見直しについての意見を述べたり、提案をする	1	2	3
2 政策決定の場に積極的に参加する	1	2	3
3 性別等にかかわらず全ての人の平等と相互の理解や協力についての学習会を開催したり、参加したりする	1	2	3
4 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの活動に参加する	1	2	3
5 子育て支援に関する活動に参加する	1	2	3
6 高齢者や障害者の介助のための活動に参加する	1	2	3
7 女性に対する暴力防止のための活動に参加する	1	2	3
8 男女共同参画センターで開催される学習会や講演会に積極的に参加する	1	2	3
9 多様な性や文化、生活習慣などに関する理解を深めるための交流の場に参加する	1	2	3
10 その他（具体的に：)	1	2	3
11 特になし	1	2	3

問22 あなたは、次の言葉や東大阪市の取り組みをご存じですか。(それぞれ○は1つずつ)

	よく知っている	聞いたことがある	知らない
男女共同参画社会	1	2	3
ダイバーシティ	1	2	3
アンコンジャス・バイアス	1	2	3
ジェンダーギャップ指数	1	2	3
SOGI	1	2	3
SDGs	1	2	3
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	1	2	3
デートDV	1	2	3
大阪府パートナーシップ宣誓証明制度	1	2	3
東大阪国立男女共同参画センター・イコラーム	1	2	3



東大阪市誰もが暮らしやすい社会づくりに向けたアンケート
【報告書】

発行年月：令和7年（2025年）3月

発行：東大阪市 人権文化部 多文化共生・男女共同参画課

〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目1番1号

TEL：06-4309-3300（直通） FAX：06-4309-3823

